

生駒市景観形成基本計画 (素案)

平成 年 月

生駒市

<目 次>

はじめに ～わたしたちの暮らしと景観	0-1
1. 暮らしと景観のつながり	0-1
2. 生駒の景観の成り立ち	0-2
3. 基本計画を策定する意義	0-4
1. みんなが大切に思う景観を守る	
2. 多くの人の目に触れる景観の魅力を高める	
3. 暮らしの景観を育む	
4. 景観からまちづくりを考える	

第1章 景観づくりの理念と姿勢

1. 計画の位置付けと構成	1-1
1. 計画の位置付け	
2. 計画の構成	
2. 景観づくりの理念	1-5
3. 景観づくりの姿勢	1-6
1. 生駒らしい景観の特性を理解する	
2. 生駒らしい景観を構成する要素を見い出す	
3. 市民・事業者・行政が協働で生駒らしい景観をつくる	

第2章 生駒らしい景観の特性

1. 地勢	2-1
1. 生駒の地形の骨格	
2. 生駒山の存在感	
3. 緑のまとまりとまちの関係	
2. 地域性	2-13
2-1. 集落の歴史	2-14

1	集落の成り立ち	
2	受け継がれてきた伝統	
2-2	住宅地開発の流れ	2-25
1	住宅地の開発と地形	
2	住宅地の個性を生み出す要素	
3	計画的に開発された市街地	
2-3	にぎわいと心の拠りどころ	2-35
1	にぎわいの空気	
2	住宅地の駅周辺の空気	
3	幹線道路の空気	
3	暮らし	2-42
1	何気ない暮らしの景観	
2	生業の景観	
3	記憶の原風景	
4	活動の景観	

第3章 パターンによる生駒らしい景観づくり

1.	生駒らしい景観のパターン	3-1
パターン1	生駒のシンボル・生駒山	3-6
パターン2	屋根なみに浮かぶ緑の島・緑の帯	3-9
パターン3	ヤマ・ムラ・ノラの調和	3-11
パターン4	見渡す眺望	3-15
パターン5	見通す眺望	3-19
パターン6	緑にとけ込む建物	3-22
パターン7	緑のスカイライン	3-26
パターン8	生駒山の修験の領域	3-29
パターン9	顔となる空間	3-31
パターン10	人が交わる場所	3-34
パターン11	曲がった道	3-39
パターン12	坂道の見上げと見下ろし	3-42
パターン13	通りのプロポーション	3-45
パターン14	連歌式	3-50
パターン15	高低差の尊重	3-54

パターン 16	商いのコミュニケーション	3-56
パターン 17	すっきり感	3-59
パターン 18	暮らしのにじみ出し	3-63
パターン 19	なりわいがつくる景観	3-65
パターン 20	聖なる場（パワースポット）	3-69
パターン 21	人の手が加わる余地	3-72
パターン 22	人にあった尺度	3-74
パターン 23	期待感	3-77
パターン 24	表出する緑	3-81
パターン 25	どこでも緑	3-88
パターン 26	しきりとつなぎ	3-92
パターン 27	受け継がれてきたデザイン	3-96
パターン 28	生駒石	3-99
パターン 29	仮設の風景	3-101
パターン 30	移ろいの風景	3-104
パターン 31	記憶の風景	3-110

2. パターンを組み合わせた景観づくり	3-113
2-1. 景観づくりの手順	3-113
2-2. 景観づくりの具体的な方法	3-113

第4章 身近なまちの景観づくり 4-1

1. 身近なまちの景観づくりに向けて	4-1
2. 立場に沿った景観づくり	4-2
1. まちの景観に寄り添う「市民」としての景観づくり	
2. まちの景観ににぎわいをもたらす「事業者」としての景観づくり	
3. まちの景観を整える「行政」としての景観づくり	
3. 身近なまちの特徴に沿った景観づくり	4-5
1. 「住宅地」での景観づくり	
2. 「商業地」での景観づくり	
3. 「集落」での景観づくり	

第5章 景観形成の推進施策

1. 景観形成を推進するための施策の枠組み…………… 5-1
2. 市民や事業者による景観づくりの取組の促進…………… 5-2
 - 1 意識を高める
 - 2 モチベーションを高める
 - 3 活動の芽を育み広げる
 - 4 活動を充実させる
 - 5 景観に関するルールづくりを支援する
3. 景観を守り育てる規制誘導…………… 5-8
 - 1 景観の骨格を守る
 - 2 地区特性に応じた景観づくりを進める
4. 景観をつくる公共事業の実施…………… 5-10
 - 1 市が取り組む公共事業の景観形成
 - 2 国や県が取り組む公共事業の景観形成
5. 景観施策の総合的な推進…………… 5-11

はじめに ～わたしたちの暮らしと景観～

1. 暮らしと景観のつながり

わたしたちの身の回りに目を向けてみてください。

かつて生駒には美しい田園の風景がどこにでも見られました。しかし、農業をする人が少なくなった現在では、北部と南部の集落でしか見られなくなりました。田園の風景は生業としての農業の営みがあるからこそ残されているのであり、何もせずに、この美しい風景が将来にわたって継承されていくとは限りません。

また、最近は幹線道路沿いにいろいろなお店が増えてきました。その背景にはマイカーを利用する人が飛躍的に増えたことがあります。

暮らしが変わることにより風景が変わっていく。つまり、わたしたちの暮らしが目に見える形となって表れたのが「景観」です。良い景観をつくっていくためには、わたしたちの暮らしのあり方をもう一度考え直し、時には変えていかなければならないこともあります。景観の魅力を高めるということは、わたしたちの暮らしの魅力を高めていくことであるともいえます。



景観は、暮らしが目に見える形となって表れたもの

<景観とは？>

「景観」とよく似た言葉に「風景」や「景色」があります。「景観」は「風景」や「景色」と同じように、自然や市街地の視覚的な眺めを表す言葉ですが、「観」という文字が入っているところがポイントです。「世界観」や「人生観」などの言葉があるように、「観」にはものの見方や考え方という意味があります。つまり、「景観」とは見る人の考え方が反映された眺めということになります。

2. 生駒の景観の成り立ち

本市は、生駒山の麓に位置し、生駒谷の竜田川そして富雄川の流域にあって、谷筋に農地、集落、里山が一体となった田園の景観が広がる地域でした。この生駒に定着していた景観は、長い時間をかけてコミュニティの中で育まれてきたものであり、人の生活と景観が一体として成立していました。

歴史に目を向けてみれば、宝山寺は古くから信仰を集める寺院として栄え、訪れる人をもてなすために門前には旅館やお店などが軒を連ねました。時を経た現在でも、参道筋を中心に昔を偲ばせるまちなみを見ることができ、参詣の文化を映したまちなみ景観といえます。また、生駒山を御神体として祀っていたと考えられる往馬大社は、日本有数の古社であり、本殿は七連の春日造桧皮葺^{かすがつくりひわだぶき}。境内は鎮守の柱に覆われていて、奈良県の天然記念物「社そう」として指定されています。周辺には住宅地が広がっていますが、太古の昔から変わらない自然の森を残すその姿は、自然に対して畏敬の念を抱いていた日本人の心を象徴するような厳かな景観をつくっています。



人の生活と景観が一体となって成り立っている集落景観と田園景観



参道沿いのまちなみ景観

やがて、鉄道が敷設されるとともに、生駒山に象徴される緑豊かなイメージを背景として、沿線部に計画的な住宅地が次々と整備され、都市化が進展してきました。住宅地はその時代の暮らしや社会の様子、建築技術などを反映し、それぞれの時代ごとに特徴あるま

ちなみを形づくってきました。

一方、行政は、生駒山系や矢田丘陵に代表される緑豊かな自然を保全しながら、良好な住宅地景観を形成していくために、地区計画などのルールを定めて誘導を図ってきました。こうした経緯の中から現在の生駒の景観がつくられてきました。

3. 基本計画を策定する意義

1 みんなが大切に思う景観を守る

生駒山系や矢田丘陵などの山なみ、竜田川や富雄川などの河川の流域がつくる地勢は、本市の景観の骨格であり、大きな特徴として誰もが認める大切なものです。このため、立場は異なってもみんなが「大切である」という思いを共有しやすいものです。

みんなが大切に思う景観は、適切な保全の枠組みを定め、将来にわたって継承していくことが必要です。本計画では、みんなが大切に思う景観をきちんと守っていくための考え方や道筋を示します。



地勢がつくる生駒の景観の骨格

2 多くの人の目に触れる景観の魅力を高める

駅前や幹線道路沿いは多くの人が行き交い、多くの人目に触れる機会も多いことから、住む人や訪れる人にとって生駒のイメージとなる、いわば「顔」となる場所です。このような場所の景観の魅力を高めることは、生駒全体のイメージアップにつながるため、景観を考える上では非常に重要なことです。

景観は多くの人がかかわり、それぞれの事業や建築行為などが重なり合って形づくられるものであり、目指すべき姿を共有し、お互いに協力しながら実現を目指していくことが重要です。本計画では、多くの人の目に触れる景観の魅力を高めるための考え方や道筋を示します。



顔となる駅前風景

3 暮らしの景観を育む

本市の景観を構成する大部分が、住民が普段の暮らしの中で接する普通の景観（「生活景」）です。歴史、風土、文化などが息づく地域もありますが、特に個性が際立つ地域がたくさんあるわけではありません。そのため良い景観についての思いも人によって様々であり、あるべき将来の景観の姿を共有することが難しいといえます。しかしまちの景観を育んでいくためには、将来のまちのあるべき姿を共有し、その実現をお互いに協力しながら目指していくことが重要です。

まちにかかわる活動を楽しみながら広げていくことで、暮らしがいきいきとなり、良い景観づくりにつながっていく、そんな取組も出てきています。

本計画では、上記のようなことを踏まえて、わたしたちが日常的に接する暮らしの景観を育んでいくためのヒントや道筋を示します。



暮らしの行動が景観を育む

4 景観からまちづくりを考える

かつては、コミュニティの中で受け継がれてきた風習や文化が地域に色濃く反映され景観をつくっていましたが、高度経済成長期以降には住宅を商品として購入する時代となり、さらに少子・高齢化や情報社会の進展とともに、空き家・空き地問題やコミュニティの希薄化が全国的な課題となっています。このような状況は住宅都市として発展してきた本市も例外ではなく、同じようなことがまちの中で起こり始めています。

本計画では「つくる」から「守る」ことに時代が変わりつつある中で、今までとは違った視点でまちの問題について考え、話し合うためのきっかけの一つとなるのが景観だと考えています。

わたしたちの暮らしが目に見える形で表れた景観というフィルターを通して、まちについて考えてみることで、問題解決の糸口が見つかるかもしれません。

第1章 景観づくりの理念と姿勢

第1章では、計画の位置付けや構成などの基本的な事項と景観づくりの理念、姿勢を示します。

1. 計画の位置付けと構成

1 計画の位置付け

(1) 「生駒市景観形成基本計画」とは

「生駒市景観形成基本計画」は「生駒市景観条例」に基づいて定めるもので、本市の最上位計画である「生駒市総合計画」に則したものです。

(2) これまでの経緯

本市では、平成6年3月に市全体の景観づくりに関する指針として「生駒市都市景観形成ガイドプラン」を、また、より具体的な景観づくりを促進するため、地域の特性に応じた景観づくりの指針を示した「生駒市景観形成基本計画」を策定しました。

その後、平成16年に景観法が施行され、本市も平成23年1月1日に同法に基づく景観行政団体となり、平成22年12月27日に生駒市景観条例を制定するとともに、平成23年4月1日には同条例に基づく生駒市景観計画を策定し、景観に関する法的な規制の枠組みを整えました。

生駒市景観計画により、一定の規制の方向性は担保されたものの、本市の景観に係るマスタープランとして景観条例に規定された総合的な景観づくりの方向性を示す生駒市景観形成基本計画の策定が喫緊の課題となっています。上述の二つの計画が策定されてから15年以上が経過した現在、本市の景観の大きな構造は変わっていませんが、鉄道沿線での住宅地の開発や学研都市の整備が進んできたことにより、市民・事業者・行政のまちづくりに対する考え方は大きく変化してきています。生駒市景観形成基本計画は、こうした変化を踏まえ、将来の本市における景観づくりの方向を示していくために、二つの計画を統合・改訂するものです。

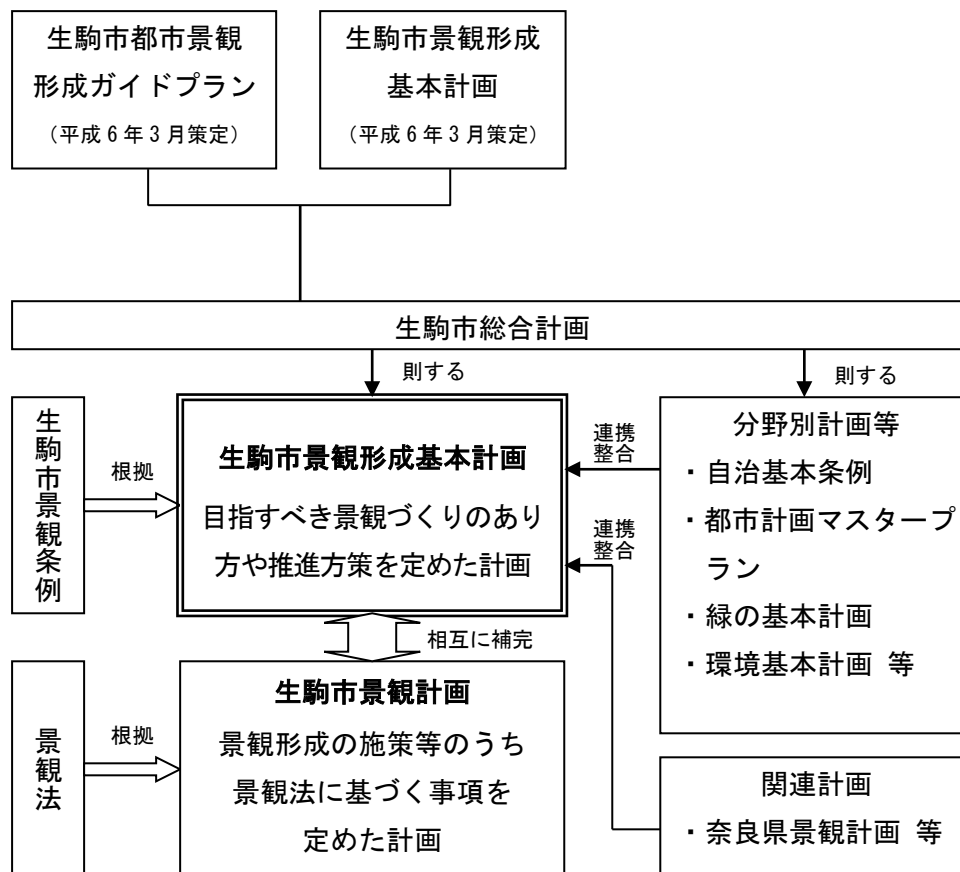
(3) 施策等の展開や連携

本計画の推進に当っては、生駒らしい景観づくりの方法についての啓発や、定着を目指した取組を進めていきます。景観法に基づく建築物等の規制等を定める「生駒市景観計画」をはじめとした、良好な景観づくりに向けた様々な施策も併せて展開していきます。

自治基本条例等の関連条例のほか、「都市計画マスタープラン」「緑の基本計画」「環境基本計画」等の分野別の計画との連携・整合を図り、さらに奈良県が定める「奈良県景観計画」とも連携・整合しながら、良好な景観づくりを進めていきます。

(4) 今後の「生駒市景観形成基本計画」

本計画は、本市の景観を取り巻く状況や、景観づくりの取組の進展に則してして、必要に応じて見直しを行うものとします。



生駒市景観形成基本計画の位置付け

<基本計画と景観計画は何が違うの？>

景観計画は、景観法に基づく建築物等の「規制」を中心とした事項を定め、建築等を行う時に守るべき最低限必要なルールを決めています。

しかし、「規制」は良好な景観づくりのための手段の一つです。景観づくりは市民・事業者・行政がそれぞれの立場に応じた役割を担いながら、協働で取組を進めていくことが必要です。

まずは市民・事業者・行政が生駒らしい景観を理解できるように、また景観づくりについての意識が高まるよう「啓発」し、景観づくりにかかわる様々な取組を「誘導」し、取組が円滑に進むように「支援」することにより、市民や事業者の取組を促進し、公共事業において「良好な景観づくりを先導する」等総合的に推進方策を考えていく必要があります。

基本計画は、協働の取組の拠りどころとなる生駒らしい景観や、景観づくりのあり方、その推進に向けた様々な方策を定めた、景観づくりのマスタープランとしての役割を担うものです。市民・事業者・行政が基本計画をもとにして、良好な景観づくりに向けて一丸となって取り組んでいくための指針となるものです。

2 計画の構成

本計画は、以下の構成からなります。

第1章 景観づくりの理念と姿勢

計画の位置付けや構成などの基本的な事項と景観づくりの理念、姿勢を示します。

第2章 生駒らしい景観の特性

地勢、地域性、暮らしの視点から生駒らしい景観の特性を示します。

第3章 パターンによる生駒らしい景観づくり

景観の特性から導き出した生駒らしい景観のパターンを使った景観づくりの方法を示します。

第4章 身近なまちの景観づくり

立場の違いやまちの特徴に沿った身近なまちの景観づくりの方法を示します。

第5章 景観形成の推進施策

生駒らしい景観づくりを推進するために市が取り組む施策を示します。

2. 景観づくりの理念

わたしたちは、生駒らしい景観が、本市にかかわるすべての人の共有のものであることを認識するとともに、異なる立場の人が、それぞれに地域社会の構成員であることを認識し、相互に協働しながら、守り、つくり、育て、時には改めて、次代を担う世代に残していかなければなりません。

そのため、次のように理念を定め、良好な景観の形成を進めていきます。

【理念】

- 生駒らしい景観の特性を読み解き、地勢、地域の特性に応じた景観形成を図ります。
- 豊かな緑に彩られた住宅都市である生駒の景観を尊重した景観形成を図ります。
- 生駒に残る文化や伝統に今一度目をむけ、生駒を再発見できる景観形成を図ります。
- 生駒にかかわるすべての人が快適な生活を享受でき、次代を担う世代に引き継げる景観形成を図ります。

3. 景観づくりの姿勢

景観づくりの理念を踏まえ、生駒らしい景観づくりに取り組んでいく時に、特に大切にすべき考え方を景観づくりの姿勢として示しています。

1 生駒らしい景観の特徴を理解する

将来における本市の景観づくりの方向を考える上では、これまで培ってきた良い景観の特徴である景観面での生駒らしさの本質（「無名の質」※）を理解する必要があります。「生駒らしい良い景観をつくっていこう」といっても、「生駒らしい景観」とはどのようなものなのか、また何が「良い景観」なのかが分からなければ、どのような景観を目指せば良いのか分からないからです。

多くの人が訪れるような歴史的景観や都市的景観の特徴とは異なる本市の景観は、日常の何気ない「普通の景観」が大部分です。その中にある良いものを見つけ、どのようにいかせば良いのかを考えていくことが景観づくりでは重要になります。

まずは、生駒らしい景観の特徴を知るために、生駒らしい景観が生み出されている背景にまで目を向け深く理解することが、生駒らしい景観づくりのはじめの一歩です。

無名の質とは

建築家クリストファー・アレグザンダーが著書『時を超えた建設の道』の中で示した考え方です。

人に感動を与える歴史的建造物と、人に感動を与えない近代の建造物や都市との間にはどのような違いがあるのかを追求する中で、その違いは、一言では名付けることができない知覚や経験の「質」によるものだという考えに至り、その言い表せない質を「無名の質」と呼びました。

2 生駒らしい景観を構成する要素を見い出す

生駒らしい良い景観の特徴が分かったとしても、どのように成り立っているのかが分からなければ、具体的にどうやってつくっていけば良いのか分かりません。

誰もが何となく感じる良い建物や良いまちには、実は普遍的な共通の要素があります。これらの共通する要素をパターンとして見い出し、誰もが使えるようにすることで、いき

いきとした建物やまちを生み出すことができる、という考え方が「パタン・ランゲージ」(※)です。

生駒らしい景観をつくっていくためには、生駒らしい景観がどのような要素で構成されているのかを見い出していく必要があります。「パタン・ランゲージ」の手法を取り入れながら、生駒らしい景観に共通する普遍的な要素を「生駒らしい景観のパターン」として見出し、うまく組み合わせることで生駒らしい景観をつくっていくことが可能になります。

パタン・ランゲージとは

クリストファー・アレグザンダーは1977年に『パタン・ランゲージ』を著し、人々が「ここちよい」と感じる環境の質を分析して、計253のパターンを挙げ、それらの組み合わせ・関連によって都市をつくっていく方法論を提示しました。

日本でも神奈川県^{まなづるちょう}真鶴町の「美の条例」や、埼玉県川越市の67のパターンからなる「川越一番街町づくり規範」がつくられています。

3 市民・事業者・行政が協働で

生駒らしい景観をつくる

景観は骨格となる地形の上に、これまで培われてきた地域形成の歴史が重なり、人々の営みが展開された結果、目に見える環境として表れてくるものです。つまり、景観は様々な立場の人々の営みによってつくられているのです。

景観づくりは、市民・事業者・行政といった立場の違いを超えて協働で取り組んでいくことが必要です。立場の異なる人々が、それぞれの立場に応じた方法により、共通の目標を目指して取り組んでいくことが協働です。協働を進めていくためには目標像を共有することが必要になります。

生駒らしい景観を目指して協働で取り組んでいくためには、まずは生駒らしい景観の特徴を理解した上で、特徴を構成する要素を見出し、その要素を組み合わせることで景観づくりを進めていくという方法を共有しなければなりません。

そしてそれぞれの立場からできることを考え、主体的に取り組んでいくこと、お互いが連携することで取組の効果を高めていくことができます。

第2章 生駒らしい景観の特性

第2章では、「地勢」「地域性」「暮らし」の視点から生駒らしい景観の特性を示します。

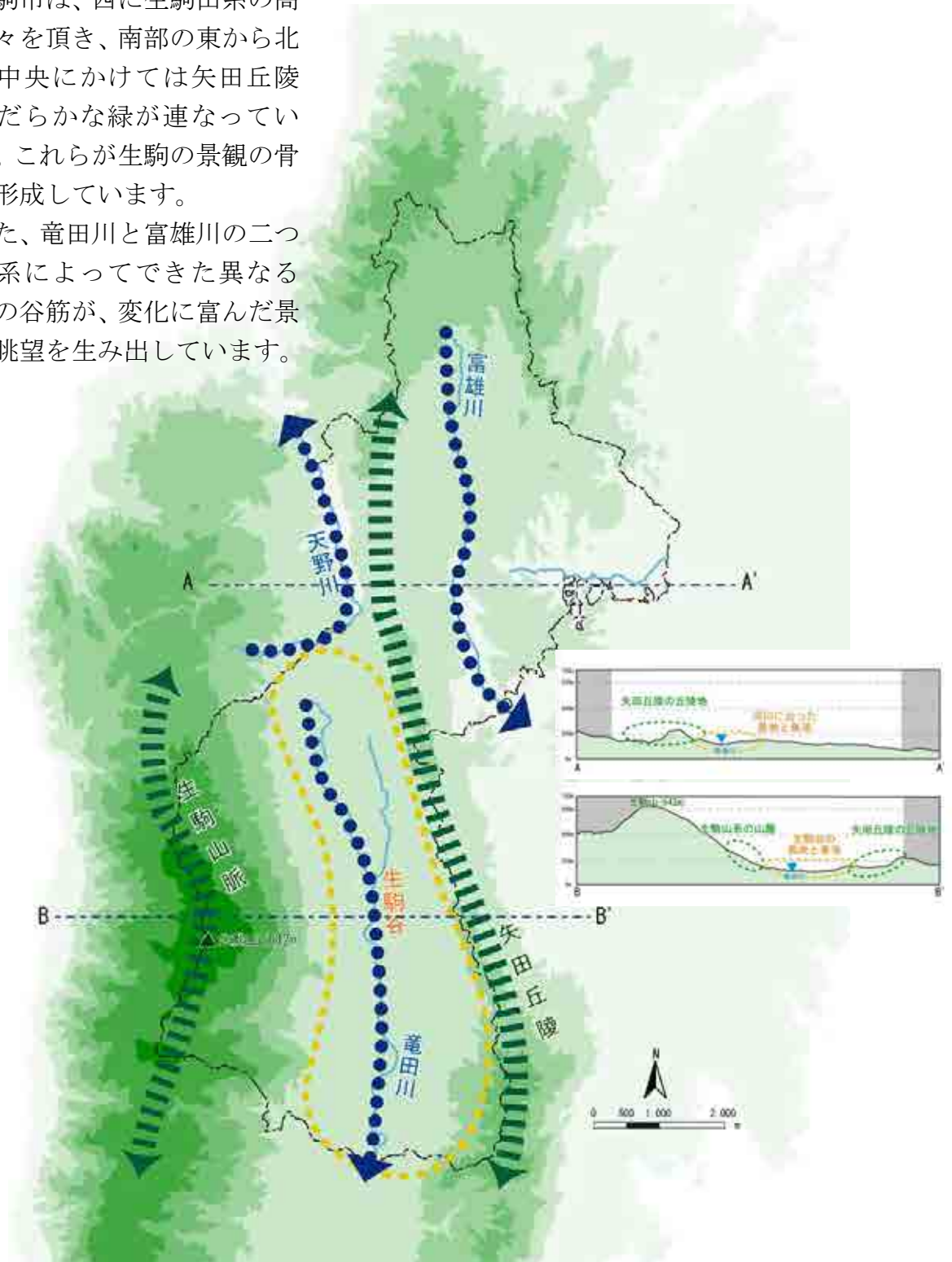
1. 地勢

生駒の地形が形づくる
景観の骨格

1 生駒の地形の骨格

生駒市は、西に生駒山系の高い峰々を頂き、南部の東から北部の中央にかけては矢田丘陵のなだらかな緑が連なっています。これらが生駒の景観の骨格を形成しています。

また、竜田川と富雄川の二つの水系によってできた異なる地形の谷筋が、変化に富んだ景観や眺望を生み出しています。



生駒の地形の骨格

(1) 生駒山系と矢田丘陵がつくる生駒谷

百人一首にも詠まれ、紅葉の美しさで名高い竜田川。その流域は、生駒山と矢田丘陵の緑に囲まれた谷で、通称「生駒谷」と呼ばれてきました。

生駒山は竜田川の西側に沿うように南北に伸びています。竜田川周辺から眺める生駒山は、お椀型で独立した美しい形の山です。

一方、それより低い東側の矢田丘陵も、生駒山と並行するように緩やかな緑の壁をつくり出しています。生駒谷が「谷」の印象を深くしているのは、富雄川流域と比べて東西を山に守られた印象からもたらされるのではないのでしょうか。

また、生駒山の山麓や矢田丘陵の斜面にある住宅地からは、互いに谷の向かい側が良く見渡せます。このように「生駒谷」がつくる凹型の地形によって、「見上げる、見下ろす、見渡す、見通す」という、様々な角度の眺めを楽しむことができるのです。





富雄川の河川景観（上町）

（２）なだらかに広がる 富雄川流域

北から流れる富雄川の水源は、江戸初期に開掘された黒添池くろんどいけです。市の北端・高山町の中でも北の山地にある黒添池から流れる富雄川は、南に行くほど起伏がなだらかになり、周辺も広がりのある景観になります。

高山町の南の方では、田んぼが広がっていて、その周りを里山が取り囲んでいます。そのためでしょうか、富雄川流域では、生駒谷のように互いに向かい合うという感じはなく、川を中心に空間がここちよく広がっている感じを受けます。



田園景観（高山町）



矢田丘陵から見た生駒山（小瀬町）

2 生駒山の存在感

（1）いつもそこにある生駒山

生駒山の姿は、生駒谷のあらゆる場所から目にすることができます。みなさんも「生駒山の方に向かって右（左）」といったふうに、無意識に方角の手掛かりにしていることもあるのではないのでしょうか。

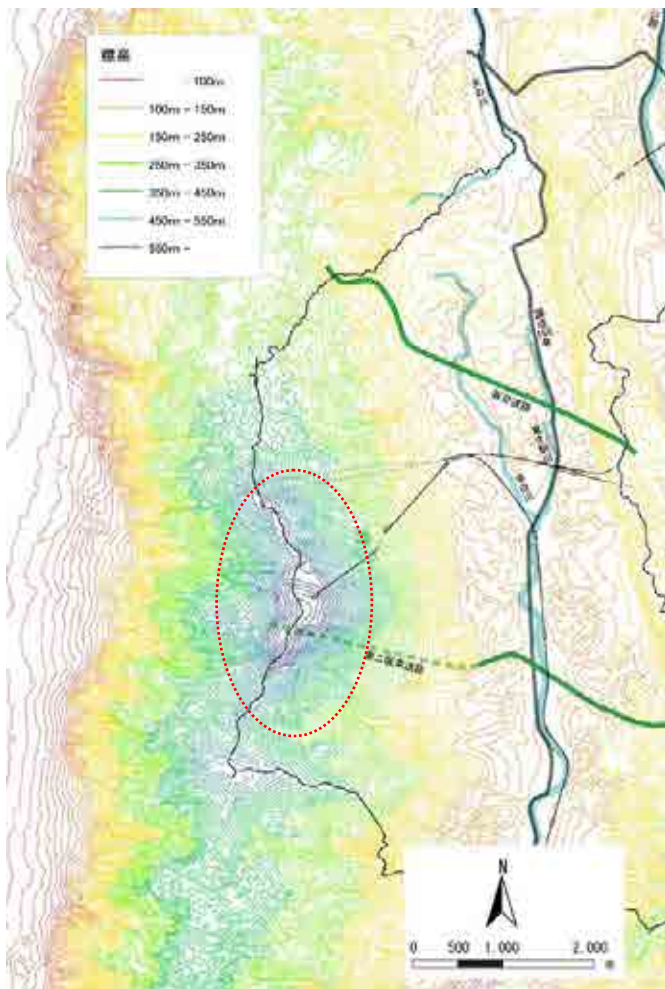
特に意識はしなくても、いつもそこに生駒山がある——それだけで安心感を与えてくれる生駒山は、なくてはならない生駒の景観の要素となっています。

生駒山 東から／西から

生駒谷側から見た生駒山は、山と谷の距離が近いことから、独立した美しい峰でありながらすぐそこにある親しみ深い山として、わたしたちを都会の喧騒から守るようにそびえています。

一方、大阪側から見る生駒山はまた別の表情をしています。南北に27キロという長さで連なっている生駒山地として、その姿はまるで奈良と大阪を隔てる屏風のようなのです。

生駒山の東斜面はかつて地底でした。それが西に隆起して高い峰をつくり出したので、東西は地質も景観も違ってきます。等高線を見ると、生駒山系は全体として標高350～450m程度のなだらかな山なみを形づくっていますが、標高550m以上の山頂部は生駒側に突き出した形になっています。生駒側からは独立した峰のように見えるのは、そのせいかもしれません。



生駒山を中心とした標高図



生駒谷側から見た生駒山



大阪側から見た生駒山

提供：鹿谷亜希子氏



「生駒聖天」の名で全国から信仰を集める宝山寺と境内の般若窟（門前町）

（２）信仰の対象としての生駒山

生駒山は古来、その神聖な姿により、昔より遠く離れた所からはるかに拝む、遙拝の対象ともなっていました。万葉集には、九州におもむく防人たちが、大阪湾から生駒山を仰いで詠んだ郷愁の歌も残されています。

往馬大社は、古い書物にも名前が登場する歴史ある神社です。生駒山を御神体として祀っていたと考えられており、山頂からちょうど真東の方向に位置しています。



往馬大社（壱分町）

また、生駒山中は、山へ籠もって
 厳しい修行を行うことにより、霊力
 や悟りを得ることを目的とする修験
 の場もありました。現在でも、いく
 つもの行場が位置しています。

宝山寺は、約 300 年前に湛海律師^{たんがんにっし}
 が中興開山し、「生駒の聖天さん」と
 呼ばれ、市内外から信仰を集めてき
 ました。般若窟と呼ばれる岩屋では
 修験道の開祖といわれる役行者^{えんのぎょうじゃ}
 が吉野の大峯山や金剛山などを開く前
 に、宝山寺で般若経を書き写して納
 めたと言われており、弘法大師も修
 行したと伝えられています。そのよ
 うな伝説に因んだ史跡が生駒谷の各
 所に伝承されています。

生駒山がそのような数々の伝説に
 彩られていることを知れば、生駒山
 を見る目が変わってくるのではない
 でしょうか。



伝説の分布

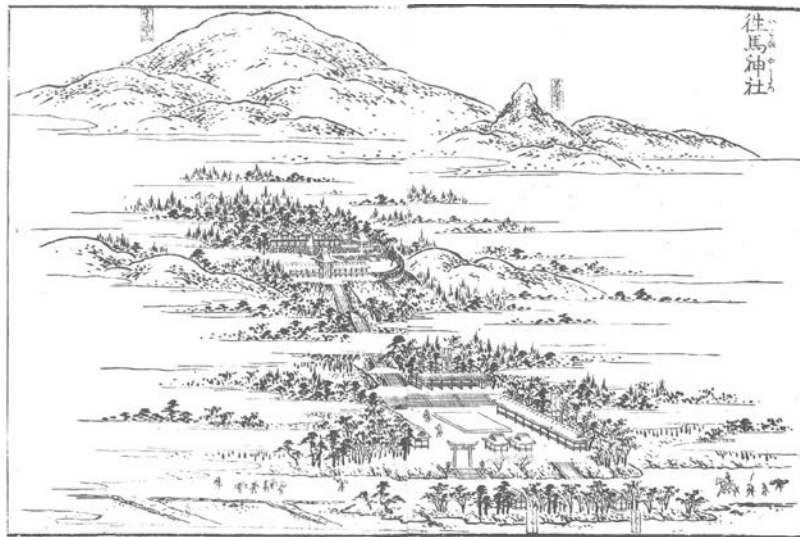
出典：『生駒谷の祭りと伝承』桜井満、伊藤高雄編

名所図会に見る生駒谷

昔の生駒谷の景観は、江戸時代の観光ガイドブックとも言われる「大和名所図会」や「河内名所図会」に描かれています。

上の絵には生駒谷十七郷の氏神である往馬大社が描かれています。背後には生駒山が鎮座しており、御神体として祀られていたと考えられることがよくわかる絵です。昔も今も、往馬大社に参詣すると、自然と生駒山に向かって手を合わせる格好になっているのです。

下の絵には宝山寺が迫力のある般若窟とともに描かれています。生駒山のこうした巨岩・巨石が露出する場所は、昔から修験のための場所として知られてきました。



往馬大社と火祭り

往馬大社は、正式には往馬坐伊古麻都比古神社いこまにいますいこまつひこじんじやと言ひ、平安時代に編纂された延喜式にも載る式内社で歴史ある神社です。

お祀りされているのは、伊古麻都比古神いこまつひこのかみ・伊古麻都比賣神いこまつひめのかみをはじめとする7柱の神様です。平安時代の書物には「火燧木ひきりぎ」を朝廷に献上していたとされ、朝廷の信仰も得る存在でした。大和朝廷成立の頃から、火にかかわる信仰をもつ神社として知られ、現在も執り行われる「火祭り」はそこに起源があると言われていいます。

火祭りを見てみると、中心的な役割をつかさどる「ベンズリ」の服装は平安朝の武官そのものです。また、火の燃えあがる松明を持って駆け抜ける「火取り役」の姿は鎌倉期の山伏姿そのもので、祭りに関する禁忌やしきたりがことのほか厳しいことから、祭りの成り立ちには修験者などが深くかかわっていたものと推測されています。



往馬大社の火祭り

役行者の伝説～庄兵エ道しょうべえ道

生駒山の中腹には、宝山寺から教弘寺や鶴林寺を経て平群町の千光寺まで通じる「庄兵エ道」があります。江戸時代に整備されたものですが、古くは修験者が山駆けをして修行する行者道でした。

また現在鶴林寺のある付近は鬼取山と呼ばれており、鬼の親子が棲みついて悪さを繰り返していたところ、役行者が現れて鬼を改心させたという伝説が残っています。

生駒山の独特の雰囲気が、霊山として多数の修験者を惹きつけ、伝説が生まれ受け継がれてきたのです。

参考：『生駒谷の祭りと伝承』桜井満・伊藤高雄、『生駒谷の七森信仰』今木義法 『生駒の祭礼』（教育委員会）



緑に包まれた市街地（萩の台駅から）

3 緑のまとまりとまちの関係

（1）緑の中に見え隠れするまちなみ

生駒の市街地は、竜田川と富雄川の流域を中心とする2つの谷筋の斜面に沿って発展してきました。

このため、谷筋から見上げると、斜面に残された樹木が緑の帯となって丘上の市街地を覆い隠し、背景の生駒山や矢田丘陵、西の京丘陵とあいまって、あたかも緑の中に家々がとけ込んでいるように見えます。緑に包まれたまちとして生駒を印象付ける、やさしい眺めですね。



高台から見下ろす緑豊かな生駒の市街地（あすか野）

（２）市街地に散りばめられた緑

竜田川流域の高台から市街地を眺めてみると、山や丘陵の緑を背景に、斜面地に残る緑や集落の森が緑の島のようにになって、まるで市街地の海の中に浮き上がっているような印象を受けます。

遠近様々な緑が織りなす景色も、生駒らしい眺望景観のひとつです。

2. 地域性

集落・住宅地・まちなみ

それぞれから見える生駒の景観物語



2-1. 集落の歴史

伝統と自然に寄り添う暮らし・モリ信仰
集落空間の根底にある景観





左上：写真中央にあるのが火の見櫓（萩の台）
右上：西菜畑町
左下：稲蔵神社（小明町）
右下：共同の水汲み場（高山町）

1 集落の成り立ち

(1) 集落の中心と境界

生駒には、江戸時代に23の村があったそうです。村は住居が自然に集まった集落で成り立ち、大きな集落には水汲み場や火の見櫓ひみぐらがつけられたところもありました。これらの場所は、集落の中心としての交流の場となり、その名残なのか、今では集会所や公民館などが建っているところもあるようです。一方、集落のはずれにはお地蔵さんや墓地、神社やお寺などが建てられたことが多いことから、境界を示していたのではないかと思います。

このように、集落は中心と境界の存在するコミュニティとして、一つのまとまりを形成しています。



左上：石垣や生垣をほどよく組み合わせて家が建てられている
(藤尾町)

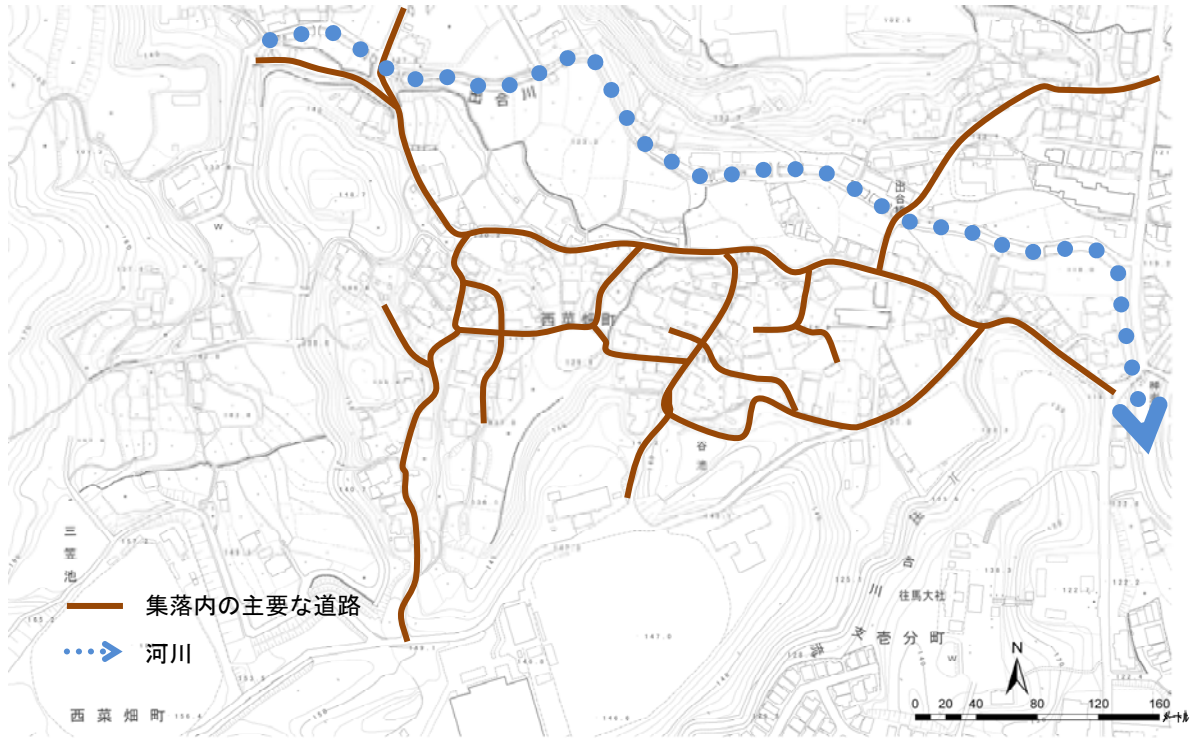
右上：曲がった道に屋根や壁が入り組む(萩の台)

左：眺めの良い場所から屋根なみを見渡すことができる
(萩の台)

(2) 地形との関係

斜面地に広がる集落では、地形を尊重して凹凸に沿うように田畑が耕され、家が建てられてきました。例えば高低差が大きい場所では、石垣や生垣をほどよく組み合わせるなどの工夫が行われています。こうした自然に寄り添う土地の活用方法は、人の手によってつくられた景観として、見るものに安心感を与えます。

また、生駒谷では集落や社寺が斜面地にあることから、眺めの良い場所もたくさんあります。



- 上 : 道・川の曲線に寄り添うように家が建つ (西菜畑町)
- 左下 : 敷地の外のことも内からうかがえ、また外からも内の
気配がほどよく分かる (高山町)
- 右下 : 入口を目隠しする樹木 (南田原町)

(3) 道との関係

山すそにある起伏の大きい集落の中には、等高線に沿った高低差のない道と坂のある道があります。多くの建物は道の形を変えるのではなく、沿うように建てられてきました。ここでも地形を尊重する姿勢がうかがえます。

また、内と外で互いに生活や季節の移ろいが感じられるような敷き際のしつらえが多く見ることができます。生活の一部が外へにじみ出すことにより、通りを表情豊かないきいきとした空間にしています。



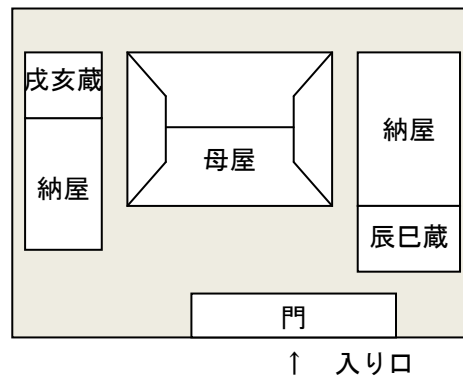
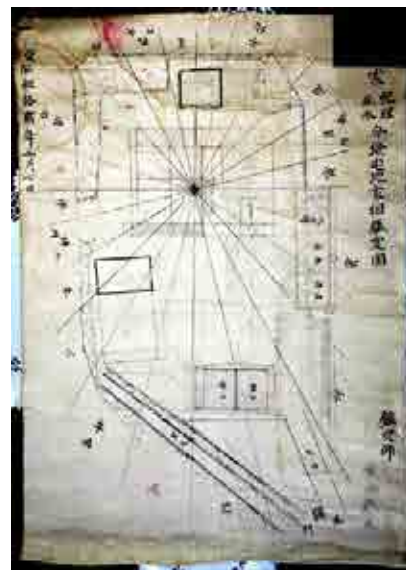
農家住宅（高山町）

2 受け継がれてきた 伝統

（1）敷地内の建物配置

集落内の代表的な農家住宅は、母屋と付属屋から成り、蔵は二つあるのが一般的だったようです。配置される方角の名前を付けた北西にある「戌亥蔵」には道具や茶碗を、南東にある「辰巳蔵」には米を収納していました。また、農機具などの収納と作業場として納屋も設けられ、母屋との関係で配置が決まったそうです。

これらの配置は、広い範囲の集落で見ることができるため、伝統の様式と言うことができ、まとまりのある集落の景観を形成するための土台となっています。



農家住宅の一般的な配置



左上：入母屋造りの屋根 三角形の部分が破風（高山町）

右上：門屋のある家（北田原町）

左：蔵の外壁 漆喰の化粧仕上げと杉の焼板張り（高山町）

（２）風土が練り上げたデザイン

集落では、気候や風土、生業などに合うように生活の中で工夫が重ねられ、長い年月をかけて磨かれてきた意匠（デザイン）があります。

代表的なデザインは、蔵の外壁や生駒石などを庭石や石積み用の石として使われるものが挙げられます。また、集落ごとに特有のデザインも存在します。例えば、敷き際には立派な門屋を設けるところもあれば、庭木を配するところ、生駒石により石垣をつくるところもあります。大和棟など、独自に発展した屋根の形もあります。

このことは、各集落の職人の技術が明文化されない独特の約束事として受け継がれてきたこととも深く関係しています。練り上げられたデザインが、その集落らしい景観をつくり出しています。

生駒の住まいの伝統を守る ～大工さんのお話から～

生駒では昔から家を建てる場合、棟梁を筆頭に大工、左官、瓦葺などの職人が技を結集してつくり上げてきました。

家のつくりは似通っているように見えても、棟梁が地形や敷地の方角、地域で大切にされている習わしなどを考慮し工夫しているのです。二つとない家ができるのです。



福田さん

生駒に共通する建物の配置や間取り

生駒在住の大工、福田さんによれば、生駒谷における建物の配置や間取りには、共通点があるといいます。間取りは、通り庭、台所、牛屋、座敷からなり、二階は設けない場合が多かったようです。天井裏は「厨子」と呼ばれ、防火のために土を10cmほど塗り固めておき、この空間は、屋根を葺き替えるための材料として麦藁を収納しておくために利用されていました。麦藁を10年間ため続けると、ちょうど屋根一枚分ほどの量になったそうです。

屋根の形は「入母屋造り」が美しいと言われ、その「破風」（前ページ左上の写真）のつくりで大工や設計者の腕前が分かるそうです。木造建築に詳しく、経験豊富で技のある人しか、大きく立派な破風をつくることはできません。

生駒の各所で見られる大きな「門屋」は、男たちが夜なべ仕事をする「男衆部屋」や、奉公に来ていた人たちが寝泊まりする部屋として使われていました。門を設けるのが習わしとなっている集落もあり、門がないと違和感があるといいます。

伝統とは

「100年もつ家は、200年でももつ」。国宝姫路城の瓦の葺き替えも担当されている日本伝統瓦技術保存会会長である生駒の瓦葺職人、山本さんの談です。

伝統的な工法でつくった家は、日本独特の湿気の多い気候に合うよう改良が重ねられると同時に、長く住み続けることを前提として洗練されてきました。「骨格さえしっかりしていれば、屋根や壁の部分だけを補修しながら持続的に住み続けることが可能である」と仰っておられます。



山本さん

出典：市広報紙

一方で、「建築の技は変化するものであり、技術をさらに磨いていくためには、伝統を守ることだけが大切なのではなく、伝統技術の研究と試行の積み重ねが大切である」とも仰います。生駒の地でも長い年月をかけて、それぞれの職人の工夫と実践により、伝統は育てられてきました。その伝統が、今のまちなみの中に息づいて、生駒の景観の特徴として表れているのではないのでしょうか。

多くの家が建ち、生駒のまちなみもずいぶん変わってきました。しかしよく見ればその中にも、蔵・母屋・門のリズミカルな繰り返しや、屋根の勾配や形・壁の仕上げの美しさなど、伝統を受け継いだ家屋も見て取ることができます。

職人の方々は、「家は住民の人となりを表わす」と言います。時に応じて日頃の生活を振り返り、居住まいを正しながら暮らすことの大切さを教えられます。



西菜畑町のモリさん

(3) モリ信仰と風習

かつて各集落には、「七モリ」といわれる樹林地が存在していました。現在も生駒谷の各地にモリさんが伝承されています。

時代とともに人々の生活様式は変化し、七モリに対する畏敬の念も薄れていますが、世代を超えて様々な言い伝えとともに受け継がれ、生活習慣や空間利用の中にひっそりと息づいています。

市街地が拡大し、集落のまとまりもあいまいになりつつある中で、集落の境界に取り囲むように存在していた七モリは、古くからの集落の場所を知る手がかりにもなっています。

生駒谷の七モリの伝承

各集落にある七つのモリ

モリを神聖視する信仰は、原始的な民間信仰として日本全国で見られますが、それぞれの集落に七つずつモリが存在するという事例は、あまり類を見ません。

モリにはいくつかの形があります。樹林だけが生い茂っているモリが、本来の姿だったと考えられ、年輪を重ねた巨樹やうっそうと茂る樹林には神秘的な雰囲気漂い、そこに神が宿ると信じられてきました。そのほかには、樹林と石造仏や社などが祀られているモリもあります。



菰原町のモリさん

菰原は信仰心の旺盛な土地柄で、往馬大社の神事を司る「宮座」が今も継承されています。この地では七モリもよく保存されており、生駒市教育委員会はモリに「保護樹林」の表示板を立てて、保護を呼びかけています。

七モリにまつわる伝承

モリの木を伐ると激しい祟りを受けると信じられていて、小枝一本折ってもいけない、枯葉一枚持ち帰ってもいけない、と禁じられてきました。戦時中に燃料が不足したときも、モリの樹には手をつけなかったそうです。禁忌を犯したために、恐ろしい祟りを受けたという体験談が、今も語り継がれています。



西菜畑町のモリさん

一方で、モリの多くは集落を取り囲むような位置に祀られており、外から疫病神などの邪悪なものが入ってこないように、集落を守ってくれる守護神の役目もありました。村境にあるモリでは、「カンジョウ縄」を掛けて結界する行事を行っていたところもありました。

モリ信仰から学ぶこと

生駒で民俗学を研究しておられる生駒民俗学会会長今木義法先生から、「モリさん」から学ぶことを教えていただきました。

～～先人たちが、モリのカミを畏敬し、きびしい禁忌を守ってきた信仰があって、その結果として、今の生駒の緑豊かな景観が守られてきたのです。こうしたモリ（自然）への畏敬の念を忘れてはならないと思います。



萩の台のモリさん

往馬大社の社そう林は見事な原生林ですが、これは人間が手を加えて守ってきたのではなく、「手を加えなかったから守られてきた」のです。

急激に都市化されてしまい、モリのいくつかが消滅してしまいました。「モリを失ったことにより、自然を大切に守る豊かな心をも失ってしまった」のではないかと心配しています。

景観を考える上でも、まちの歴史と文化を大切にすることを養い、自然への畏敬の念を根底に据えることが大切だと思います。～～

参考：『生駒谷の七森信仰』今木義法

2 - 2 . 住宅地開発の流れ

緑豊かな住宅地、生駒の顔となる駅前
生駒の発展物語





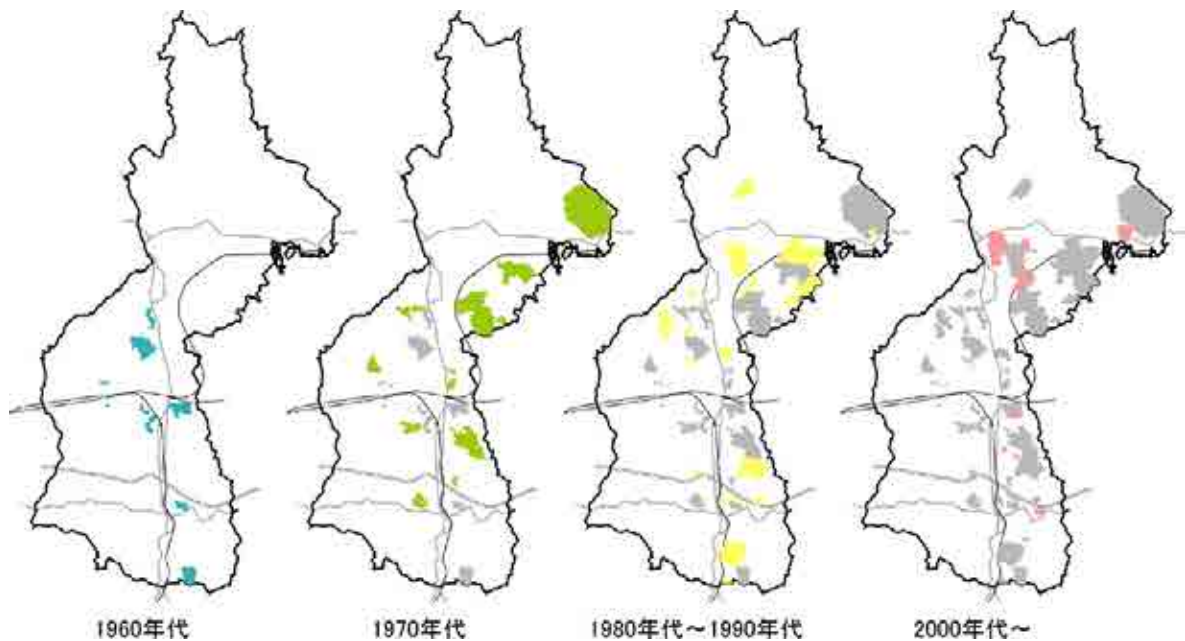
喜里が丘

1 住宅地の開発と地形

(1) 平地から斜面地へ

鉄道が整備された 1960 年代以降、多くの住宅地がつくられてきました。当初は生駒谷の谷筋の平地などを中心につくられ、年代を経るごとに斜面地や頂上付近にも広がっていきました。

住宅地は、まちなみが似通っている部分も多く見られますが、つくられた年代によって立地する地形が異なっているため、それぞれに特徴が見られます。



年代を経て進んだ住宅地の開発

1960年代	生駒谷の谷筋の平地を中心に、一部矢田丘陵の西向き斜面などで開発が始まる
1970年代	矢田丘陵の西向き斜面、生駒山麓の東向き斜面での中小規模の開発、富雄川流域の斜面や山田川流域の南向き斜面などでの大規模な開発が進む
1980～90年代	1970年代の立地傾向がさらに進むが、比較的標高の高いエリアでの開発が多くなる
2000年代～	矢田丘陵の西向き斜面や東向き斜面を中心とする中小規模の開発のほか、山田川流域の南向き斜面も開発が進む

生駒の住宅地開発

鉄道の開設に伴い計画的に住宅地を開発してきた（株）近鉄不動産の担当の方に、生駒での住宅地開発の特徴についてうかがいました。

～～やはり、生駒は空気がきれいであることや緑が豊かであることを評価する方が多いですね。帰ってきてほっとできる住宅地なんだと思います。

昔は、住宅の立地は生駒山の東向き斜面が中心で、矢田丘陵側は少なかったのです。それは、生駒おろし（生駒山からの風）が強いためだと言われています。東生駒駅の設置とあわせて、周辺の矢田丘陵の西向き斜面での住宅地開発を進めました。生駒山への眺望があることも評価されて購入されたのではないのでしょうか。

ゆとりのある落ち着いた住宅地として開発の様々な場面で配慮しました。昔ながらの住宅地では、道路よりも敷地を 50cm～1m ぐらい高くして、擁壁には生駒石を使うことで風格あるまちなみを生み出すようにしています。

これからも大切に住み続けていただければ嬉しいです。～～



南山手台

(2) 住宅地を見下ろす場所

斜面地や標高の高い地域の住宅地には、眺めの良い場所があり、そこからは、市街地や山なみが一望できます。

これらの見下ろす、見渡す景観を「眺望」といい、谷の地形である生駒らしさを表した景観であるといえます。



さつき台から見る生駒山

(3) 通りの先に見える山

通りの先に生駒山や矢田丘陵が見える住宅地では、自然にこれらを目印としていませんか。道案内のときに「生駒山に向かって右側」といった案内をされることもあるかと思います。このように、存在感のあるものが日常生活の中にとけ込むと、目印として方向を決めたりするものになります。

また、通りに面する敷地から見えるということは、そこで暮らす人にとって郷土愛を育むことにもつながっています。



東生駒

2 住宅地の個性を生み出す要素

(1) 敷地内の緑の空間

通りから見える敷地の際が、まちなみの表情を生み出す重要な要素となっています。

1960年代から1970年代につくられた住宅地では、敷地にゆとりがあることが多く、通りからも緑をたくさん目にするため、緑豊かなまちなみの印象をつくっています。



左上：生駒台 右上：北大和
左下：西白庭台 右下：美鹿の台

(2) 敷き際のしつらえ

石積みや生垣、擁壁、オープン外構など、敷き際のしつらえは住宅によって様々です。

1960年代から1980年代につくられた住宅地では、石積みと生垣からなる敷き際を多く見ることができ、重厚感ある落ち着いたまちなみとなっています。

1990年代に入ると、塀や生垣を設置しないオープン外構を多く見ることができ、軽やかな印象を与えるまちなみとなっています。



再開発事業で整備された生駒駅北側（谷田町）

3 計画的に開発された市街地

（1）まちの顔をつくる駅前空間

駅前には、生駒を訪れる人を最初に迎え入れる場所という意味で、まちの第一印象を左右する顔となる場所であるといえます。

生駒駅北口で進んでいる再開発事業では、建物のデザイン要素が絞り込まれるなどの一定の方針に基づき、洗練した印象を与える景観づくりが行われています。

顔となる空間をつくる

生駒駅の北口・南口の再開発に携わった市の担当者から、景観上配慮したことを聞きました。

●生駒駅前南口地区の再開発事業

「グリーンヒルいこま」(昭和58年)

- ・生駒山は駅から丸みを帯びて見え、山というより丘陵のように目に映ります。それを意識し、スイスの切り立ったアルプス山脈というよりは、南欧のやわらかな山なみをイメージし、そのデザインを取り入れることとしました。



●生駒駅前北口第一地区の再開発事業「アントレいこま」(平成9年)

第四地区の再開発事業「アコールいこま」(平成17年)

- ・交通広場の中央に、奈良県出身の彫刻家・井上武吉さん製作のモニュメント「my sky hole 97 生駒」を設置しました。手のような丸みを帯びた形をしており、駅に向かって「行ってらっしゃい」「おかえり」を言っているような形になっています。
- ・再開発地区は、駅周辺にあるメディカルセンターをもとにして、全体的な色合いをそろえました。
- ・北口でも生駒山を意識しており、2階部分のデッキから生駒山を望むことができるようにしています。また、山なみを意識して円弧の形状を多く取り入れたデザインとなっています。





白庭台駅前の景観（白庭台）

（２）場所の声を聞きとるまちづくり

新しい駅がつけられると、駅を中心としたまちづくりが進められていきます。駅の雰囲気を取り、計画的にまちをデザインしていけば、駅から見渡す景観に統一感が生まれ、結果として特徴ある景観がつけられます。

例えば白庭台駅では、白庭台住宅地の玄関口として、調和したデザインを取り入れた形で病院やマンションなどが計画されました。さらに駅前には緑が植栽され、うるおいと落ち着きのある景観がつけられています。

2-3. にぎわいと心の拠り どころ

宝山寺参道、商店街、身近な駅
人の集まる場所の景観





参道筋商店街（本町）



宝山寺門前町

1 にぎわいの空気

（1）かつての面影を偲ばせる参道の景観

生駒駅がつくられ、宝山寺に参詣する人が増えると、参道を中心に旅館や土産物屋、飲食店など参詣者をもてなすためのお店が軒を連ねました。5～6mの幅の道路沿いには、花街の名残を留める和風建築物や風情ある看板、街路灯など、かつての面影を偲ばせる建物があちらこちらに残っています。

門前町界限の情景

昔から参詣者を多く集める寺院や神社の周辺には、社寺関係者や参詣者を相手にする商工業者が自然に集まり、まちが形成されました。そのまちを門前町と呼び、全国各地に門前町があり「全国門前町サミット」が開催されるほどです。

生駒の門前町は、宝山寺の参詣者が増えるにしたがい、飲食店や土産物屋が軒を連ねるようになりました。さらに「生駒の聖天さん」と呼ばれ、現世利益を求める多くの人々が参詣するようになり、観光サービスの料理旅館や茶屋、置屋などができて発展しました。その後、大正時代には石段が舗装され、参道沿いは市街地へと姿を変えていきます。

今でも、その頃の名残を少しではありますが感じることができます。昔に思いを馳せながら、参道沿いの建物を眺めつつ、宝山寺へ参詣してみるのも良いかもしれませんね。



宝山寺門前町の様子（昭和40年頃）

石畳の敷かれた参道の両脇には、土産物店、料理旅館などが軒を連ねる参道からの眺めもまた売りのひとつ

出典：『大和郡山・生駒の100年』



びっくり通り（生駒駅前商店街）の様子（元町）

（２）商いが生み出すにぎわい

生駒駅前商店街では、様々な演出と工夫をしています。商店街内の道路とお店の間にほどよく商品を並べることで、商店主がお客とコミュニケーションを取りやすくしたり、季節感のある飾りや花で統一的に演出したりと、商店街という場所ならではのにぎわいの景観をつくっています。

お店とは

「店」という言葉を辞書で調べると「商品を陳列して売る場所。商店。たな。」とあり、「見世棚の略から」とあります。では、基となった「見世棚」を調べてみると「商品が見えるように並べてある棚。また、その棚のある店」とあります。つまり、お店とは商品が「見えるように並べてある棚」がある場所になりそうです。

お客とお店をつなぐ軒先に棚がずらりと並ぶ様子は、商店街ならではの景観であり、今も昔も変わらないことが宝山寺駅前の昔の写真からも知ることができます。



宝山寺駅前（昭和 40 年頃）

出典：『大和郡山・生駒の 100 年』



萩の台駅からの眺め（萩の台）

2 住宅地の 駅周辺の空気

住宅地の近くにある駅は、住民が日常利用する玄関口として、生活にかかわりの深い場所です。駅前には緑が育てられ、帰ってきてほっとする親しみ深い景観が広がっています。



菜畑駅前の眺め（中菜畑）

近鉄生駒線のそれぞれの駅周辺からは、生駒山の姿を望むことができ、降り立つ人を安心させる景観となっています。さらに、生駒山の手前に広がる農地や集落と一体となった景観を目にすることができ、季節感を感じることができます。



上：国道 168 号沿道（東生駒駅付近）

下左：国道 168 号沿道（一分駅付近）

下右：戸建て住宅地沿いの緑豊かな
沿道（白庭台）



3 幹線道路の空気

国道 168 号の東生駒駅付近は、電線が地中化され、商業施設が建ち並ぶ中にも落ち着きある沿道景観をつくっています。

菜畑付近では、生駒山系、矢田丘陵に挟まれる形で国道が走っており、広い幅員の道路と街路樹と周辺住宅の緑が連なる気持ちの良い沿道景観をつくっています。

道路沿道は、広告物についての規制が適用されており、他都市と比較しても落ち着いたまちなみとなっています。

3. 暮らし

生業・祭礼・原風景
暮らしが織りなす景観



子どもたちが元気に公園で遊ぶ様子（桜ヶ丘）

1 何気ない暮らしの景観

わたしたちが普段、何気なく目にするのは、人々の当たり前の暮らしの営みがつくる普通の景観、つまり生活景です。特別なものではないため、景観として意識することはあまりないかもしれません。しかし注意深く観察してみると、何気ない暮らしの景観の中にもいきいきとした暮らしぶりを感じさせる魅力的な景観がたくさんあることに気付かれるのではないのでしょうか。

このような生活景が、生駒の景観の大部分を占めています。



田園景観（高山町）

2 生業の景観

（1）農の景観

農地がつくる景観は、場所や時期によって様々な印象があります。平地に広がる農地では、手入れの行き届いた農作物と背後の山の緑が一体となって開放感を与えてくれます。また、斜面に沿った棚田は、その地形をいかし住民の手が加えられている様子を垣間見ることができ、そこに美しさを感じます。



棚田の景観（西畑町）

これらの農の景観は、生駒の景観の地をつくり、人々にとっての原風景のひとつとなっています。



竹の寒干し（高山町）

（２）伝統産業の景観

地域の風土の中で育まれてきた伝統産業が独特の景観を生み出しています。高山町では、茶釜や竹器づくりが盛んで、その材料となる竹の寒干しが、茶釜の里ならではの冬の風物詩となっています。

また、古くからの造り酒屋は、白い漆喰の壁が美しく、店先にある杉玉が映えて、伝統の景観をつくりだしています。



造り酒屋（小瀬町）

誇りをかけて守る伝統産業 ～高山の茶筌づくり～

高山茶筌のルーツは室町時代まで遡ります。大和鷹山城主の次男、鷹山民部丞たかやまみんぶのじょうにゆうとうそうせつ入道宗砌が創始と伝えられています。茶道の祖の村田珠光から千利休へと、茶道の隆盛と共に茶筌作りが活発になり、現在も高山茶筌はすべて職人の手作業によりつくられています。その国内生産のシェアは、全国の90%以上を占めています。



茶筌

この伝統産業である茶筌づくりを受け継いでおられる奈良県高山茶筌生産協同組合の谷村さんに、茶筌づくりについてうかがいました。

～～～材料となる竹は、高山近辺や近郊から調達しています。高山は、寒暖の差が大きいので、竹が引き締まるのではないのでしょうか。



谷村さん

茶筌づくりの作業は大変な仕事です。一日7本の茶筌を完成させて一人前と言っています。起きてから寝るまでが職人の仕事で、一日14時間くらい作業にあててます。夜の方が作業に集中できますね。

安価な海外製品が流入する中、先代が何とか日本の茶筌づくりを途絶えさせなかったのは、偉業だと思っています。茶筌づくりは家業なので、使命と誇りを感じています。技術を受け継ぐものとして、技術を守り抜いていくという自覚を持つことが大切。ずっと日本でつくり続けていくという、文化を守る姿勢はものづくりに共通するものではないのでしょうか。

工芸品というのは、高山で職人が一つ一つつくった結果生まれたものですが、価値はそれができる背景にあると思います。買い手にはこの背景の部分もちゃんと理解し、評価してほしいですね。一見同じ製品に見えても、背景の違いを理解すれば、また違って見えてくる。これはまちなみでも同じことで、まちの成り立ちなどの背景を理解することで、まちをより味わうことができる。

目が利く「文化人」が増えてほしいと切に思っています。価値観が変化し、古美術や骨董を求める人が少なくなってきました。良いもの、本物に価値を認め、お金を支払うような文化が廃れつつあります。

最近では、茶筌づくりのほかに、茶の文化を広めるための教室を開催しています。子どもと親が体験できる機会も、イベントに合わせて提供しています。茶筌を身近に感じることで、関心・興味を引き出し、次の担い手を増やしたいですね。～～～

3 記憶の原風景

(1) 歌に込められたふるさとへの思い

後世に伝えていきたいふるさとへの思いが、和歌や校歌に織りこまれてい
ます。

市内の小学校の校歌には、生駒山が堂々たる姿で鎮座している様子や、人々
から神聖視されている様子が、矢田丘陵を歌う言葉からは爽やかな表現が歌詞
に使われています。

また、生駒川（竜田川）、富の小川（富雄川）は、清い流れと結びつきが強
い表現が用いられています。

小学校の校歌に生駒の景色がうたわれています

♪若いのちの 歌声が 生駒の山に こだまして～ (生駒小学校)

♪生駒の山に ひびくのは～

生駒の川に うつるのは～ (生駒南小学校)

♪霊峰生駒を 仰ぎ見る～

富の小川の せせらぎの～ (生駒北小学校)

♪松のみどりに さきまじる つつじは あかく 矢田の丘～

雲は明るく たなびいて どっしりたった 生駒山～

流れきらきら 生駒川～ (生駒台小学校)

♪矢田のやまなみ 背にうけて 生駒山を ながめつつ～ (生駒東小学校)

♪～富の小川の せせらぎに～

～生駒の山に 親しんで～ (真弓小学校)

♪ながれる雲よ広い空 生駒の山はよびかける～ (俵口小学校)

♪緑の風すぎゆく丘に みはるかす大和の山なみには 遠くはるかな歴史がたゆたい～

(鹿ノ台小学校)

♪古い歴史の生駒路を～

生駒おろしの吹く丘に～ (桜ヶ丘小学校)

♪せせらぎは 富雄の川に～

浮ぶ雲 生駒の山に 交りて～ (あすかの小学校)

♪緑の野山にかこまれて～ (壱分小学校)

♪緑の山に 包まれて～

瀬々らぎ 澄みて 往く水に～ (生駒南第二小学校)



和歌に詠まれた生駒に流れる川

千早ぶる 神世もきかず 竜田川
から紅いに 水くくるとは

『古今集』巻五 在原業平

古歌に詠まれた竜田川（立田川）は、生駒山北部に発して、生駒山地と矢田丘陵の間の生駒谷を南流し、生駒郡斑鳩町南西部、三室山の南で大和川に合流する川を指します。上流部は生駒川、中流部は平群川と呼ばれます。

いかるがや とみのを川の たえばこそ
わが大君の み名を忘れめ

『拾遺集』 哀傷

富雄川はかつて富の小川と呼ばれていました。生駒山地北部に源を発し、生駒郡斑鳩町の東南端で大和川に合流する川を指します。

(2) 地名から読みとる景観

生駒の地名は、自然の樹木や野生の動物などにちなんだ名前が多く見られます。このことから、生駒は自然豊かな地であったことが伝わってきます。

“クロ”

西五ヶ大字とは生駒山の南斜面中腹より山頂に至る地方に散在する集落で大門藤尾は稍々中腹に、小倉寺鬼取西畑はその上部に位置している。(中略)

古く万葉集に「妹に逢わずあらば、すべなみ岩根ふむ、生駒の山を越えてぞ吾が来る」(巻十五)とあるが如く、古代の人々がこの岩根を踏んで通っていた。(中略)

連続した今日の段々畑となるまでには徐々に開拓の歴史がある。最初は水田化の平坦を造るのに容易な緩傾斜部分から行なわれ、急傾斜地は残されて水田の縁辺部となる。これをクロという。ここはまだ原生林のまゝであって「中クロ」「黒沢」「大黒石」等の地名はここに付けられる。「くろんど池」は、「黒添池」でクロにある池を意味するといふ。富雄の「黒谷」などもこの類の地名である。最初はこのクロは原生の林のまゝで檜の木、楠の木、椿ヶ原、榊原等と呼ばれこれ等クロの木は農作物の乾燥や夏の木陰の休息地に利用され、又防風林となる場合も多く、農家の薪として燃料の供給に役立った。

出典：『生駒市誌』

(3) 伝統行事の景観

一年の間には、お正月、端午の節句、七夕などの日は、日常の風景を彩る日に、また人生の節目で訪れるお宮参り、七五三、成人式などの行事も日常の風景を特別な装いが華やかな景観に変えます。

暮らしの中に根付いたこれらの景観は、人々の記憶の中で生き続けます。

生駒の主な年中行事

1月元旦	歳旦行事〔さいたんぎょうじ〕
1月元旦黎明	往馬大社追鶏祭〔いこまたいしゃとりおいのみつり〕
1月中旬	小正月・トンド
2月3日節分	宝山寺節分星祭〔ほうざんじせつぶんほしまつり〕
4月1日	宝山寺大護摩会式〔ほうざんじおおごまえしき〕
4月第1日曜日	八大龍王春季柴燈大護摩供〔はちだいいりゅうおうしゅんきさいとうおおごまく〕〔鬼取町〕
5月5日	往馬大社御田植祭〔いこまたいしゃおたうえさい〕
6月30日	往馬大社夏越大祓〔いこまたいしゃなごしのおおはらえ〕
8月15日	往馬大社千燈明祭〔いこまたいしゃせんとうみょうさい〕
8月20日	長弓寺大般若会〔ちょうきゅうじだいはんにやえ〕
9月秋分の日	宝山寺万燈会〔ほうざんじまんとうえ〕
10月体育の日の前日	往馬大社例大祭（火祭り）〔いこまたいしゃれいたいさい〕
10月体育の日	素盞鳴神社例大祭〔すさのおじんじゃれいたいさい〕 伊弉諾神社例大祭〔いざなぎじんじゃれいたいさい〕
10月第3日曜日	高山八幡宮例大祭〔たかやまはちまんぐうれいたいさい〕
10月15日	住吉神社例大祭〔すみよしじんじゃれいたいさい〕
11月第3か4日曜日	宝山寺般若窟柴燈護摩供〔ほうざんじはんじやくつさいとうごまく〕
11月勤労感謝の日頃	新嘗祭〔にいなめさい〕
12月上・中旬	ご回在〔ごかいざい〕
12月16日	宝山寺大鳥居大注連縄奉納〔ほうざんじおおとりいおおしめなわほうのう〕
12月下旬	住吉神社南田原長寿講カンジョウ縄奉納祭〔すみよしじんじゃみなみたらちようじゅこうかんじょうなわほうのうさい〕
12月31日	往馬大社師走大祓〔いこまたいしゃしわすおおはらえ〕

出典：『生駒市デジタルミュージアム』（教育委員会）



左上：火取り行事（往馬大社）

右上：コモキリ（高山八幡宮）

左下：御輿（琴平神社）

右下：ダンジリ曳き回し（天満神社）

出典：『生駒の祭礼』（教育委員会）



竜田川クリーンキャンペーンの様子（中葉畑）

4 活動の景観

（1）地域を守る取組

集落では古くから道普請や溝掃除など、身近な公共の場所の掃除活動が行われてきました。このような住民が自分たちの手で公共の場所を守る様々な活動が、良好な景観をつくりだしています。



地域で取り組む美化活動の景観（鹿ノ台）

（２）景観づくりの取組

わたしたちの暮らしを取り囲む景観に思いを馳せ、興味を持つことが、仲間をつくり、活動の幅を広げ、地域全体でのアクションへと発展していきます。

すでに生駒では、河川の清掃や里山の整備、棚田の維持管理、花づくり、子どもの環境意識の啓発など、景観づくりの活動が各所で活発に行われています。

第3章 パターンによる生駒らしい景観づくり

第3章では、景観の特性から導き出した生駒らしい景観のパターンを使った景観づくりの方法を示します。

1. 生駒らしい景観のパターン

「生駒らしい」景観を考える手がかりとして、31のパターンを選びました

2章では「生駒らしい景観」を「地勢」「地域性」「暮らし」の視点から紹介しました。

3章では実際に「生駒らしい」と感じられる景観を、31のパターンに分類して紹介します。これらの景観のパターンは、生駒らしい景観づくりを考える上での手がかりとなるものですが、「生駒の良さ」はこれだけではありません。このパターンを基にして、みなさんで「生駒らしい良い景観」を感じ、考えてみませんか。

【こんな使い方ができます】

○このパターンは様々な「生駒らしさ」を切り取ったカタログのようなものです。そこに見える景観は、生駒のまちそのものです。生駒を理解する教科書としてぜひご活用ください。

○あなたがお住まいのまちの「らしさ」とは何でしょうか。このパターンの中にありましたか。また、「こんなふうにしてみたい」パターンがありましたか。このパターンを活用して、よりよいまちなみをみんなで考えることができます。

※ワークショップ形式での話し合いや、地域の方や子どもたちを対象に、お住まいのまちの景観の特徴をパターンを使って探してみるといったゲームを開催してはどうでしょうか。

パターンは、「生駒らしさの読み解き」「生駒らしさのために」「生駒らしさの工夫」の3つで構成されています

パターンの説明は、次の3つで構成されています。

◆生駒らしさの読み解き

生駒らしい景観の特徴をつくりだしているものは何なのかを解説しています。

◆生駒らしさのために

生駒らしい景観のために守るべきことと考え方を解説しています。

◆生駒らしさの工夫

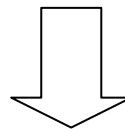
生駒らしい景観をつくりだすため、敷地単位での計画に応用できるものについては、写真を中心に工夫例を示しています。

これらを参考にして、あなたができる「生駒らしい良い景観」「生駒らしいまちなみ」を考えてみませんか。



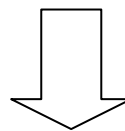
← パターンの名称、分類が記載されています。

← **【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう**
パターンが示す、生駒らしい景観の特徴を解説しています。



← **【生駒らしさのために】 これだけは守りましょう**
【生駒らしさの読み解き】で述べた生駒らしい景観を守り、つくり、育てていくために必要な考え方を解説しています。
この考え方に沿って、それぞれの立場で景観づくりに取り組んでいきましょう。

← このパターンと関連する別のパターンをリンク形式で示していますので、あわせてご覧ください。



← **【生駒らしさの工夫】 こんなことやってみましょう**
事業者や設計者が、建物や計画を考えるときに、パターンに基づいた手がかりと参考になる事例を掲載しています。
※写真の場所について、町名の表示がないものは、他市の事例になります。

← ※関連する事項、よもやま話などはコラムで掲載しています。

【こんな使い方ができます】

- 「生駒らしい」景観をつくっていく上では、市民のみなさんの日頃の活動がとても大切です。パターンの中には、ちょっとした工夫も紹介していますので、活動の中でいかしてみませんか。
- パターンを使って開発・設計にどのように反映できるのかを考えてみませんか。気に入ったパターン、使ってみたいパターンがあれば、設計者に相談してみてもいいでしょうか。
※景観アドバイザーに、生駒らしい住まいをつくるために必要なことを相談してみるのも良いですね。
- パターンを使ってまち歩きを行い、生駒らしい景観を探しに行きませんか。

パターン（単語）は、相互につながってランゲージ（文章）になります

まちなみがいくつもの要素が組み合わさってできているように、それぞれのパターンは独立したものではなく、相互に関連性を持ってできています。パターンのページ内には、関連する別のパターンをリンクとして示していますので、続けてそのページを開いていたければ、さらなる情報を得ることができます。

また、パターンはいわゆる「単語」のようなものです。いくつものパターンを組み合わせることで、生駒らしい景観づくりの方法が展開できるようになっています。

本章においては、パターンを組み合わせながらデザインを考える手順の例を示しています。これらを参考に生駒の景観を語るあなたなりの「ランゲージ」を見つけ出してもらえればと思います。

【パターンの一覧】

それぞれのパターンは、概ね、景観を捉える空間の大きいものから順に並べています。これらの中からその場所の特性にふさわしいパターンを選び、組み合わせて、生駒らしい景観づくりを進めていきましょう。

表 生駒らしい景観パターン

スケール	パターン	景観の構成原理				
		地勢	地域性			暮らしの営み
			歴史文化の文脈	市街地開発の文脈	界隈の空気	
都市	1 生駒のシンボル・生駒山	○	○	○		
	2 屋根なみに浮かぶ緑の島・緑の帯	○	○	○		
	3 ヤマ・ムラ・ノラの調和		○			○
	4 見渡す眺望	○		○		
	5 見通す眺望	○				
	6 緑にとけ込む建物	○		○		
	7 緑のスカイライン	○				
地域・通り	8 生駒山の修験の領域	○	○			
	9 顔となる空間			○	○	
	10 人が交わる場所		○	○	○	○
	11 曲がった道	○				○
	12 坂道の見上げと見下ろし	○				○
	13 通りのプロポーション			○	○	
	14 連歌式			○	○	
	15 高低差の尊重	○				○
	16 商いのコミュニケーション				○	○
	17 すっきり感				○	
	18 暮らしのにじみ出し				○	○
19 なりわいがつくる景観		○			○	
20 聖なる場（パワースポット）		○			○	
敷地	21 人の手が加わる余地					○
	22 人にあった尺度		○		○	○
	23 期待感		○		○	
	24 表出する緑			○		
	25 どこでも緑			○		
	26 しきりとつなぎ		○	○	○	○
	27 受け継がれてきたデザイン		○			○
	28 生駒石		○			
時間	29 仮設の風景					○
	30 移ろいの風景					○
	31 記憶の風景					○

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



矢田丘陵から望む生駒山の姿（小瀬町）

生駒山は、生駒谷のどこからでも眺めることができ、独立峰のように際だったその美しい山の姿から、生駒のシンボルとして市民や訪れる人々にとっての目印（ランドマーク）になっています。

この象徴的な山の姿に人々は敬意や怖れを抱き、御神体として祀っていたと考えられる神社が往馬大社であり、山頂からちょうど真東の方角に位置しています。このことから、昔から生活の根底には生駒山が意識されてきたことがうかがえます。



図会に描かれた生駒山と往馬大社

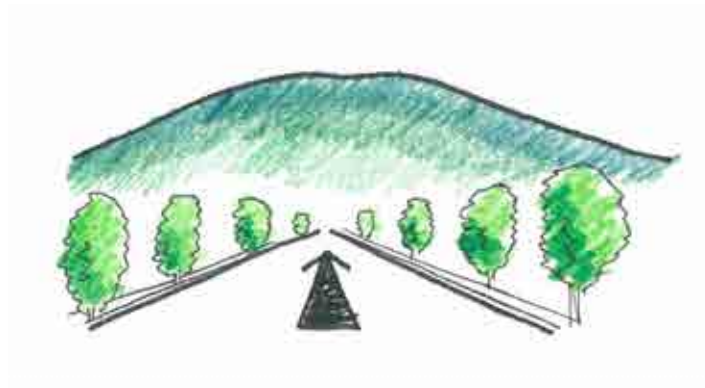


往馬大社（壺分町）

出典：『河内名所図会』

【生駒らしさのために】 これだけは守りましょう

○生駒山が見える場所では、その方向を意識して道路や住宅地、公園などの施設を計画しましょう。例えば、生駒山がよく見える場所に公園を配置したり、道路の線形を生駒山へあてたり（山あて）するような計画を考えましょう。



生駒山の方向を意識して道路を計画する

関連する
パターン

こちらも参照して
ください

・ 8 生駒山の修験の領域

生駒山の方角を向いた住宅地

かつては、生駒おろしの影響で、住宅の立地は生駒山の東向き斜面が中心だったそうですが、東生駒駅の設置と合わせて、周辺の矢田丘陵の西向き斜面での住宅地開発が進められました。

こうして、「生駒山への眺望があること」がまちの特徴となり、現在でも東生駒やさつき台の住宅地からは、東西方向の道路の先に生駒山を眺めることができます。



東生駒



さつき台

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



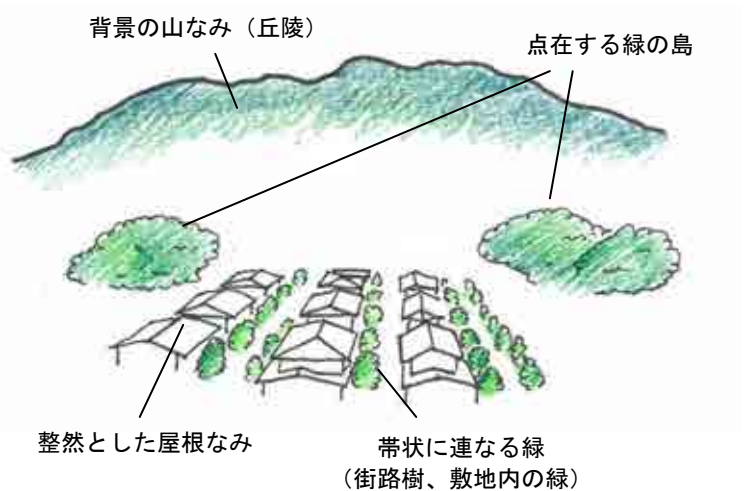
屋根なみに浮かぶように見える緑の島（萩原町）

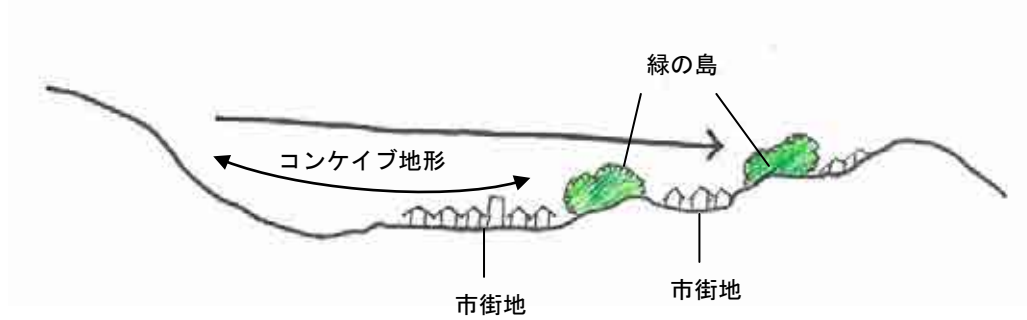
高台から眺めると、斜面地に残る緑や集落のモリが、山や丘陵の緑を背景に、市街地の海の中に浮き上がる「緑の島」のように見えます。

また、街路樹や敷地内の植栽が「緑の帯」のように連なって見え、整然とした屋根なみと緑が調和した眺望として、非常に印象深いものとなっています。



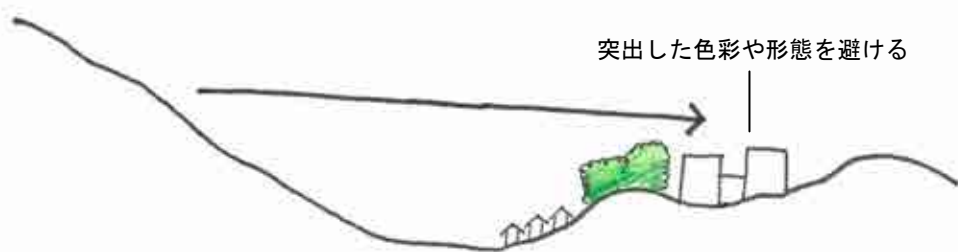
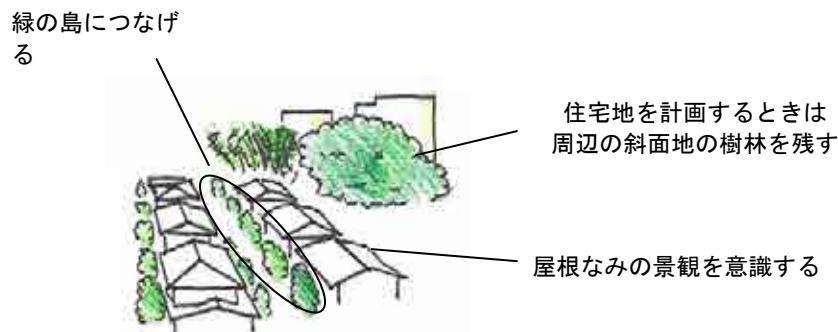
（あすか野北）





【生駒らしさのために】 これだけは守りましょう

- 高台から見下ろしたときに、「緑の島」として見える斜面地の緑や市街地内の緑のかたまりは、少量であっても大切に保全しましょう。
- 開発などによって緑を損なうことのないように、また緑化などのできる限り復元しましょう。
- 「緑の帯」としての連なりを意識し、緑の配置をそろえましょう。
- 公園などの公共空間から見下ろされる場所では、高い場所からの眺望を意識して、建物は周囲にある「緑の島」になじむようにデザインしましょう。



関連する パターン

こちらも参照してください

- ・ 4 見渡す眺望
- ・ 24 表出する緑

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



ヤマ・ムラ・ノラで構成される田園景観（北田原町）

昔から人々の暮らしを支えてきた生業の場である農地（ノラ）は平地に広がり、また斜面に沿うようにつくられ、里山や奥山（ヤマ）、居住空間（ムラ）の三つの層が調和して、田園景観をつくっています。

「ヤマ」はムラを背後から包み込み自然の恵みとうるおいを与えています。

「ムラ」は建物が寄せ合って位置しており、ヤマと同じ勾配の屋根が使われていたり、昔ながらの緑や土となじむ色彩の自然素材が多用されていたりと、ヤマやノラと調和した配置・形



まとまりのあるムラの建物（上町）

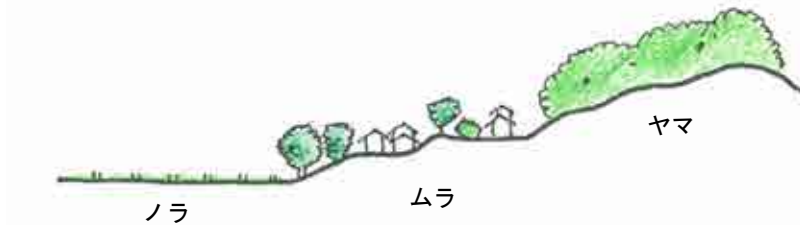
態・意匠が使われています。

「ノラ」は水が流れやすいように低地に位置しており、ムラからその様子が一望できるようになっています。ノラはのびやかな空間の広がりを生み、また季節によってその表情を変える、農の営みが目に見えて感じられる場所です。

自然に寄り添った生活の知恵

農地（ノラ）は水が流れやすいように低地に、居住空間（ムラ）は洪水などの災害を避けるために低地の周りの少し高いところに位置しました。また、里山（ヤマ）は、住民が生活に欠かせない薪や炭を取っていた場所でもありました。

こうした自然に寄り添った生活の知恵が、農の空間をつくり、今でもなお生き続けています。

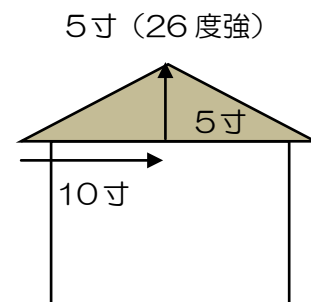


生駒の民家の屋根の特徴

市内で家づくりに長く携わる大工さんに生駒の民家の屋根の特徴を聞くと、「概ね5寸（26度強）勾配が標準」だそうです。

これは周りのヤマの緩やかな勾配と概ね一致しており、安定感のある景観に最もなじみやすい形態です。

周りの環境にあわせた家のデザインが、自然と取り入れられてきたのですね。



【生駒らしさのために】 これだけは守りましょう

- ヤマ・ムラ・ノラという三層の空間の調和を大切にし、それぞれの景観としてのまとまりを損ねないようにしましょう。
- ヤマは、背景の緑として保全しましょう。もし、損なうことがあったら、できる限り復元しましょう。
- ムラは、建物同士をできるだけ寄せて配置するとともに、背景のヤマの緑やノラの農地にとけ込むような素材や色彩を使う、ヤマの勾配とあわせた勾配屋根を取り入れるなどの配慮を行いましょう。
- 三層の空間を眺めることができる道沿いは、眺望を遮るようなものを置くことや建てることは避けましょう。



関連する パターン

こちらも参照してください

- ・ 5 見通す眺望
- ・ 19 なりわいがつくる景観
- ・ 27 受け継がれてきたデザイン

【生駒らしさの工夫】 こんなことやってみましょう

○建物はムラの部分に集めましょう。



建物がまとまって立地する集落（上町）

○ノラ～ムラ～ヤマの構造を受け継ぎましょう。



田園景観に配慮したお店

○周りとなじむように、屋根の形や壁の色合いをそろえましょう。



屋根の材質や色合いがそろった集落（上町）

○ムラの意匠を受け継いだデザインを考えましょう。



長屋門を残したマンション

○道路から三層の空間への眺望を遮らないようにしましょう。



富雄川沿いの道路からの眺望（上町）

○土肌が露出するようなことがないように、緑化で隠しましょう。



緑で遮へいた造成地

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



広がりのある眺望（門前町からの眺め）

生駒の市街地は、竜田川や富雄川などの河川を中心に、山と丘陵に囲まれた谷筋に形づくられています。

このため、高台から眺めると、谷筋の凹型（コンケイブ）地形に沿って建物の屋根越しに市街地や集落を見渡すことができ、胸のすくような眺望が広がります。

高低差の多い地形の生駒では、思いがけず雄大な見渡す眺望に出会うことができ、生駒ならではの景観を楽しむことができます。

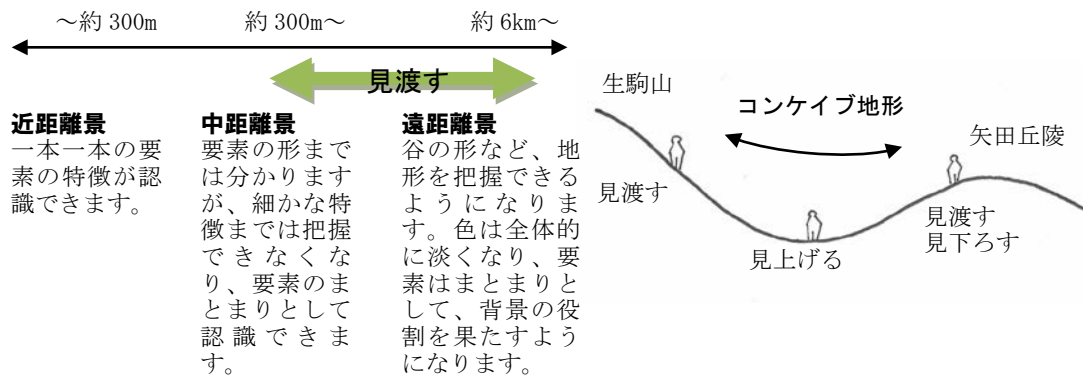
生駒のいろいろな眺望

眺望は、概ね数百メートルから数キロメートルくらいの距離にあるものを眺めたときに得られる景観です。見渡すほかに、見上げる（ぎょうかん仰瞰）、見下ろす（らんかん俯瞰）、見通すなどのタイプがあります。

生駒谷は凹型（コンケイブ）の地形なので、どこから見るかによって見えるものが大きく異なり、いろいろな眺望を楽しむことができます。

例えば矢田丘陵からは、生駒山の姿や、竜田川沿いの市街地も見渡すことができます。生駒山の山麓からは、生駒谷のみならず奈良の方向を広く見渡すことができます。

普段の生活から、生駒の豊かな表情を少しだけ意識してみませんか。



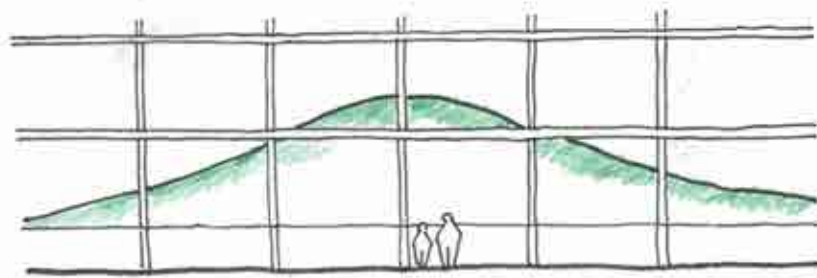
出典：樋口忠彦『景観の構造』

【生駒らしさのために】 これだけは守りましょう

- 見渡す眺望が得られる場所を大切に守りましょう。高い場所からの眺望を建物が障害してしまわないように配慮しましょう。
- 住宅地の開発などにより公園を計画するときには、見渡す眺望を楽しめる最も適した場所を考えましょう。
- 眺望を様々な人が楽しめるような配慮や工夫を取り入れましょう。多くの人が集まる公共性の高い場所や行き来する道などで見晴らしが得られる場合には、特定の敷地のみが独占することのないように開放しましょう。



見渡す眺望を楽しめる四季の森公園（北大和）
生駒山への眺望を確保するために
その方向には樹木を置いていない



眺望点を生み出す
建物を建てる時には眺望を
楽しめる場所をつくる

関連する
パターン

こちらも参照して
ください

- ・ 2 屋根なみに浮かぶ緑の島・緑の帯
- ・ 6 緑にとけ込む建物
- ・ 1 2 坂道の見上げと見下ろし

眺望点

生駒谷では、見渡す眺望が楽しめる、誰でも入ることができる公共的な場所があります。

下の図はおすすめスポットです。このほかにもたくさんあるので、お気に入りの場所を見つけてみてはいかがでしょうか。



宝山寺付近

生駒の市街地や矢田丘陵、奈良方面を望む

歓喜の湯 足湯

正面に生駒山が、眼下に市街地が広がる

日本庭園に学ぶ

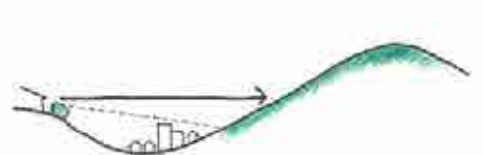
日本庭園の中には、借景（^{しゃっけい}周りの風景を取り込み、庭にいかす）の技法を使って、周辺の眺望を巧みに庭造りにいかしているものがあります。

代表的なものは、京都の圓通寺で、建物からの眺めがフレーム（額縁）のように収められており、あたかも絵画を見ているようで、こうした技法を「いけどり（フレーム）効果」といいます。

また、比叡山への眺望をいかし、そのほかのものが視界に入らないように、前面にうまく庭木を配置することを「見切り」といいます。



フレーム（額縁）のようにいけどられた眺望



手前に植栽を配して、下のほうの視界を遮り、比叡山への眺望を切り取る

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



富雄川の見通し（上町）



幹線道路の見通し（中菜畑）



鉄道の先頭車両からの見通し（南生駒駅付近）



住宅地内の道路の見通し（西白庭台）

道路・線路・河川は、直線に延びていることから、まっすぐ見通す眺望が得られます。

街路樹や建物の屋根なみ、植栽などが連なって、視線を奥の方へと導きます。計画的に開発された住宅地などでは、視線の先に生駒山や丘陵の緑を見通せる通りがあり、緑豊かなまちであるという印象を高めています。また、通り沿いの建物がつくる輪郭の線（スカイライン）が整うことで、空が開けて見え、気持ちの良い眺望が得られます。

特に、生駒の市街地は、谷筋につくられていることから、谷筋に沿った南北方向には、道路・河川沿い、橋の上などから遠くまで広々と見通せる伸びやかな眺めが得られます。

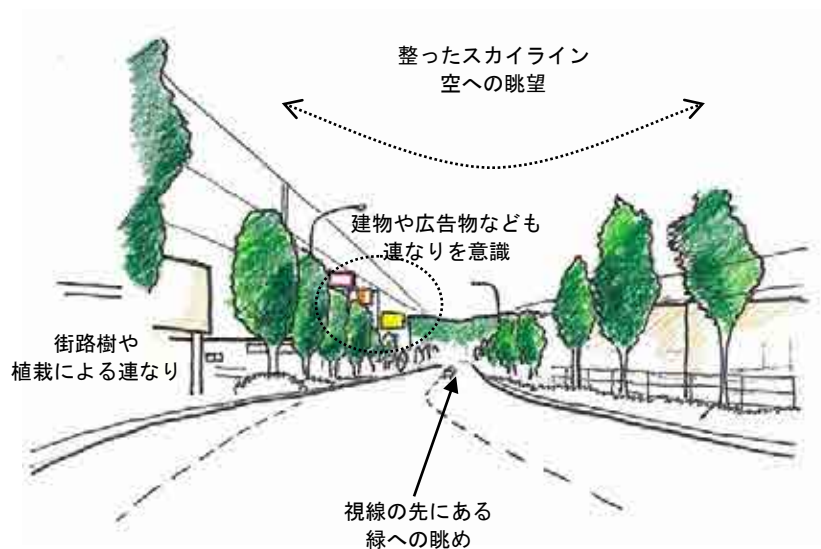
【生駒らしさのために】これだけは守りましょう

○通りの連なりや見通し、背後のスカイラインを妨げないよう、できるだけ周りと調和した規模や形態にしましょう。

○通りが連なって見えるように、隣接する建物との調和や、植栽による連続性の演出などを取り入れましょう。

○通りの先に山などの緑が見える場合は、周辺から突出して眺望を遮らないようにしましょう。

○特に、谷筋の道路・河川がつくるお椀の底型の広がりある地形、空間の眺めを大切にしましょう。



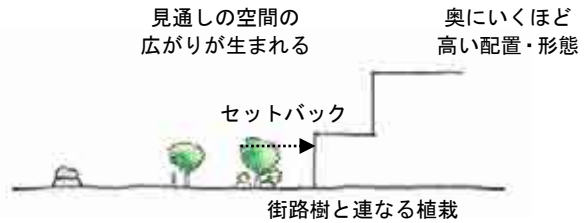
関連する パターン

こちらも参照して
ください

- ・ 1 生駒のシンボル・生駒山
- ・ 3 ヤマ・ムラ・ノラの調和
- ・ 7 緑のスカイライン
- ・ 12 坂道の見上げと見下ろし
- ・ 13 通りのプロポーショナル

【生駒らしさの工夫】 こんなことやってみましょう

○建物の高さは、通り沿いはできるだけ抑えることで、見通す眺望の広がりある空間が得られ、逆に高くなると圧迫感を増し、見通しを妨げます。通りから敷地の奥にいくほど高くなるよう配置や形態を工夫しましょう。



○河川の方を意識して緑を配置するなどの工夫をしましょう。



河川沿いに植栽を配置したマンション

○うるおいある河川空間との「つなぎ役」を果たすように、敷き際や建物の手前に植栽を施したり、自然素材を使用したりしましょう。



既存の建物、石積みなどを活用し、植栽を配置したお店

魅力的な河川であり続けるために

河川の空間とその周りの建物や丘陵の緑が一体となって魅力を発揮するためには、河川が美しく表情豊かである必要があります。近所に住んでいる人たちと一緒に、お手入れをして、魅力的な河川づくりを育みませんか。

「地域が育む川づくり事業(県)」も活用できます。



住民が手入れを行っている富雄川(上町)

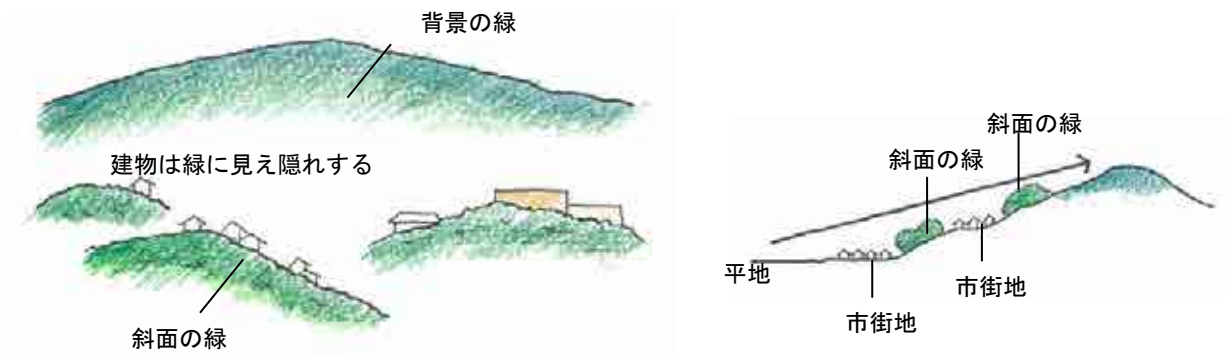
【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



緑の中にとけ込む建物（北大和）

谷筋の平地から見ると、斜面のあちこちにある樹木・樹林が「緑の帯」のように市街地を覆い隠し、背景の生駒山や矢田丘陵、西の京丘陵の緑とあいまって、あたかも「緑の中に市街地がとけ込んでいる」ように見えます。

この眺めが、緑に包まれたまち生駒を強く印象付けています。



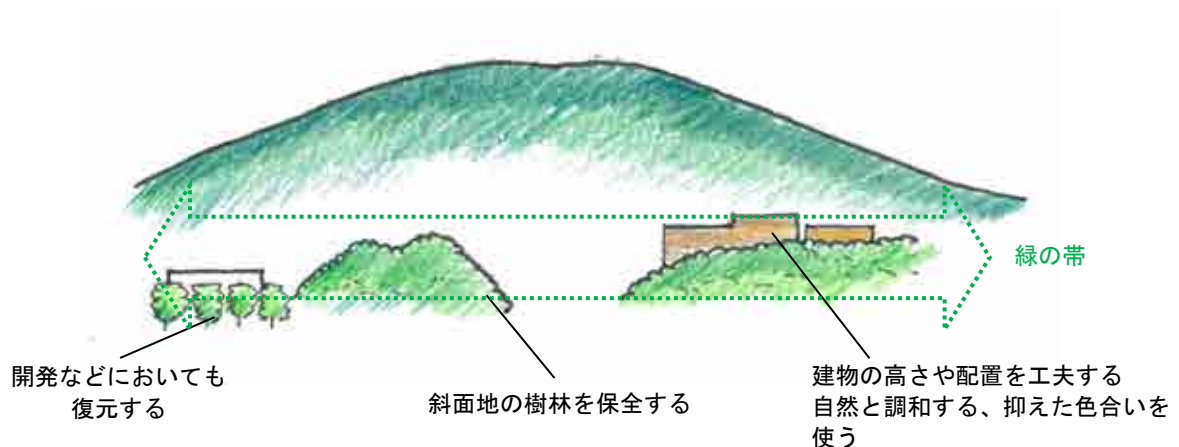
「見え隠れ」の美学

緑の中にとけ込み垣間見える建物は、視点が動くにつれてはっきりと見えたり緑の後ろに隠れたりします。このような状態を「見え隠れ」といいます。また、日本では古来より物陰からちらりと見えたり、薄暗いなかになほのかに見えたりするところに美を見出す、独特の感覚が受け継がれているといわれています。

緑に包まれた生駒のまちには、わたしたちの心に訴える「見え隠れ」の美学が息づいているといえるのではないのでしょうか。

【生駒らしさのために】これだけは守りましょう

- 谷筋から見上げたときに見える斜面地の樹林は、緑の帯として、たとえ少量であっても大切に保全しましょう。
- 緑の帯が損なわれることのないよう、建物を計画するときは、緑化などによりできる限り復元しましょう。
- 竜田川と富雄川の二つの流域がつくる谷筋からは、どこからでも背景の緑が見えることを意識し、緑にとけ込むように建物の高さや配置を工夫する、緑となじむような色彩や材料を使う、前面に植栽を厚く配置するなどしましょう。



関連する パターン

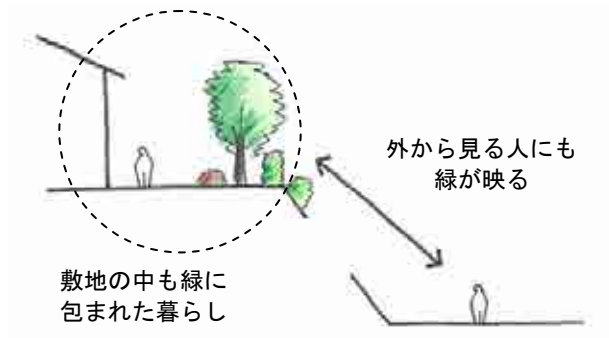
こちらも参照して
ください

- ・ 1 生駒のシンボル・生駒山
- ・ 7 緑のスカイライン

緑に包まれた暮らし

敷地の中で植栽するときは、斜面の谷の方にできるだけたくさん樹木を植えたり、生垣にしてみましょう。

見晴らしの良い場所は逆に周りからもよく見えます。植栽などは普段からの維持管理をきちんとすることで、外から見える緑がより一層よく見えます。緑に包まれた暮らしを楽しみましょう。



光陽台

樹林地を「みんなで」育む方法

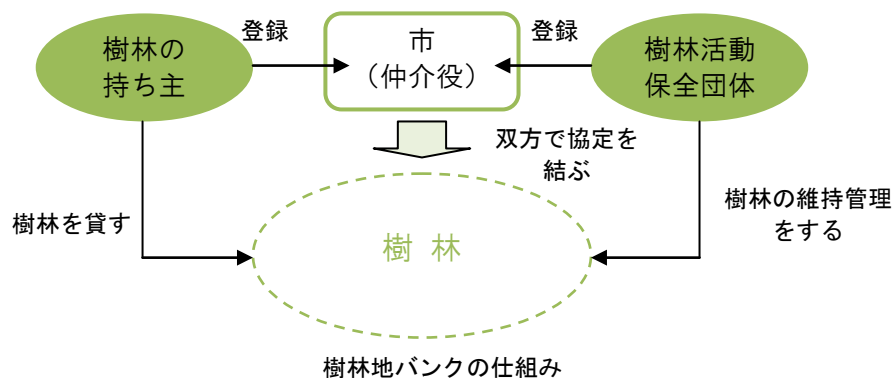
地域のみなさんや、自然が好きな市民活動団体などが手助けしてくれる、仕組みもあります。



<活動紹介：鹿ノ台自治連合会

「ECOKA 委員会」>

近年の住環境への住民意識の高まりとともに、量的な緑環境より緑地全体の質的向上を実現するため、平成20年に「ECOKA 委員会」を設立、住宅地の周りに12箇所ある保存緑地（12ha）の森の再生に向け、協働・連携のもとで計画的に整備（下草刈、間伐、植樹）しています。



【生駒らしさの工夫】 こんなことやってみましょう

○斜面地の緑、特に谷側の樹林地はできるだけ残しましょう。



緑と建物が調和したまちなみ

○建物は斜面の緑にとけ込むように配置しましょう。



周りの緑に溶け込む建物

○斜面の擁壁は緑化し、圧迫感を軽減させましょう。



斜面を緑化した住宅地

○建物が緑で隠れるように、敷地の前に植栽を配置しましょう。



緑で隠れた建物

○緑になじむ色彩を選びましょう。



落ち着いた色合いで緑にとけ込む

○緑が映える色彩を選びましょう。



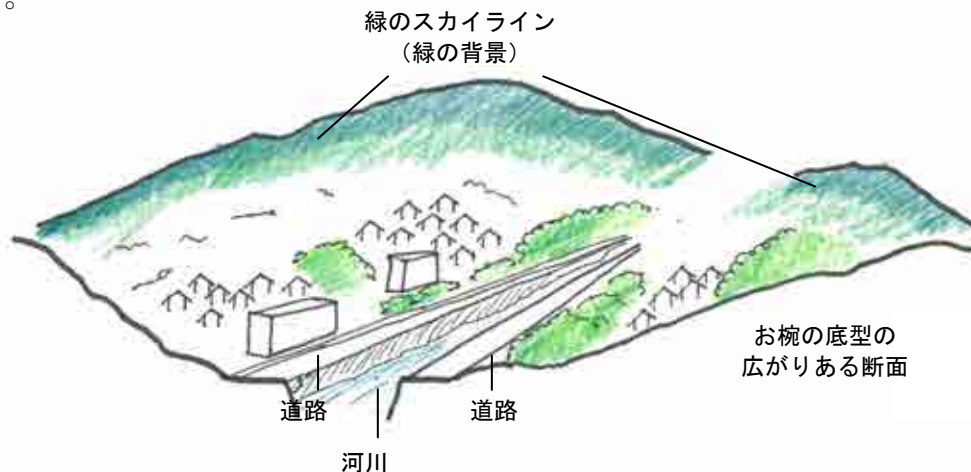
建物が背景となって緑が映える

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



富雄川沿いの緑のスカイライン（上町）

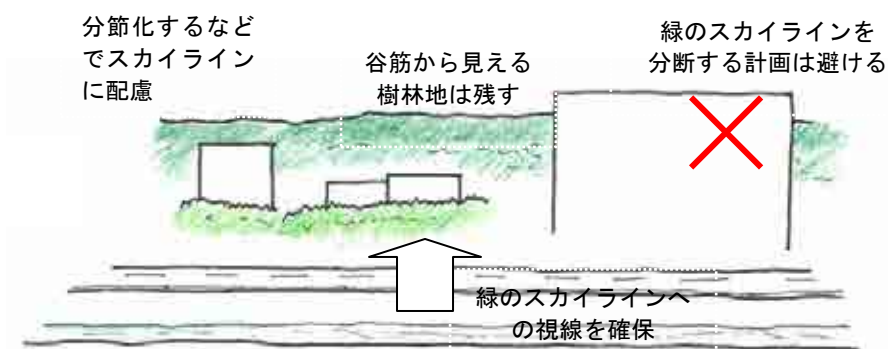
竜田川・富雄川の谷筋では、どちらを向いても河川の水面とあわせて生駒山系や矢田丘陵の緑のスカイラインが背景として映り、緑が豊かな景観の印象をぐっと高めています。古くからの集落もこの緑の背景にとけ込むように位置しています。



【生駒らしさのために】 これだけは守りましょう

○谷筋の河川・道路沿いから緑のスカイラインが連なって見えるように、谷筋の緑を保全しましょう。

○谷筋に建物を計画するときには、背後の緑のスカイラインを大きく分断しないように、建物を分節化するなどの工夫をしましょう。



関連する パターン

こちらも参照してください

- ・ 3 ヤマ・ムラ・ノラの調和
- ・ 5 見通す眺望
- ・ 6 緑にとけ込む建物

【生駒らしさの工夫】 こんなことやってみましょう

○建物が露出すると、「高いところから見下ろされている」「緑がなくなった」という印象が強くなってしまいます。緑のスカイラインを保全した開発を考えましょう。



緑のスカイラインが保全された住宅地（白庭台）

○住宅地開発などの面的な宅地造成では、地区内の住宅からの緑豊かな眺めを得られるよう、周辺の緑を保全することに意識が向きますが、地区外から見たときの見え方は案外意識されない場合もあります。特に川筋からの住宅地全体の見え方を意識しましょう。



富雄川から見た住宅地（上町）

○すでに宅地開発が済み、緑のスカイラインが途切れてしまった場合でも、谷筋に向かって樹木を植栽することで失われた緑のスカイラインを復元しましょう。



緑のスカイラインを残す植栽の工夫

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



宝山寺から続く山道（菜畑町）

生駒山は、古くから修験の場として知られてきました。

標高が概ね 350m 以上の山頂に近い場所は、昔から修験者の修行の場となってきました。

標高が概ね 150～350mの場所には、宝山寺から平群町の千光寺にかけて多くの寺院が分布し、修験者が山駆けを行い修行していた古道が、江戸時代に「庄兵エ道」として整備されました。

今でも宝山寺をはじめとして数々の寺院が、奥深い生駒山の木立に抱かれて位置しています。人気もなく、巨木がそびえ立つ暗がりの中に石や岩が露出した、訪れた者に怖れを抱かせる雰囲気醸し出しており、今日でも祈祷師などが籠る場所です。日常生活を送る空間とは対照的に、静かで、人を寄せ付けない厳かな雰囲気を持つ空間となっています。



滝の行場（岩谷の滝・門前町）

【生駒らしさのために】これだけは守りましょう

- 生駒山に修験の場があることを知り、その領域を侵さないようにしましょう。樹木を伐採し開放的な空間をつくる、建物を建て生活感が表に出るような行為などは避け、静かで、人を寄せ付けない厳かな雰囲気とたたずまいを継承しましょう。
- 修験の足跡を今に伝える要素（昔からの道や道標など）を大切に守りましょう。

関連する
パターン

こちらも参照してください

・ 20 聖なる場（パワースポット）

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



生駒の玄関口である生駒駅前（谷田町）



、シンボルツリーや植栽が中心に配置されている
（白庭台駅）



住宅地の入り口にあるロータリーは、花で彩られて
いる（東生駒）

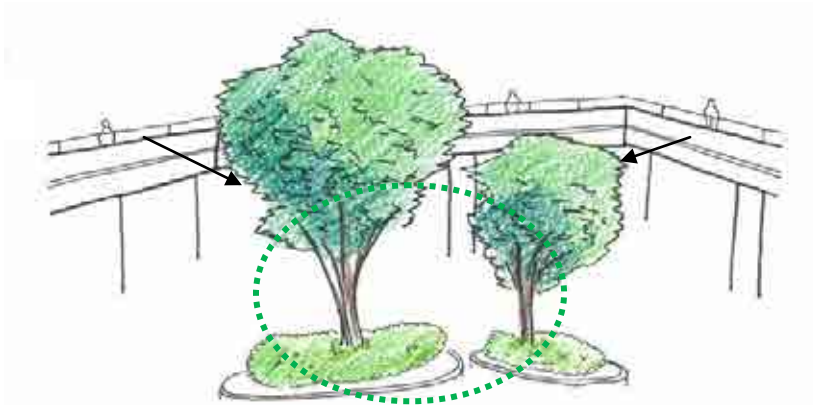
駅前には、多くの人々が行き交う、にぎわいのある空間で、モニュメントやシンボルツリーを配置したり、周辺の建物と駅舎とのデザインを合わせたりなど、印象を高めるための工夫が様々なところに取り入れられています。

また、住宅地の入り口や、それぞれの建物の入り口（エントランス）などでも、印象を高める工夫がされています。

来訪者を迎え入れ、まちの第一印象を決める“顔”となる空間は、景観をつくる上でとても重要です。

【生駒らしさのために】 これだけは守りましょう

○駅前空間では、駅に降り立った人が好印象を持てるように、視線が集まる場所に目印となる樹木やモニュメントを配置するなどの工夫を取り入れましょう。



視線が集まる場所への工夫が
印象を高める

○商業地、住宅地の空間においても、訪れる人が好印象を持てるように、入り口となる空間では建物のデザインを整えたり、花で演出したりといった工夫を取り入れましょう。

関連する パターン

こちらも参照してください

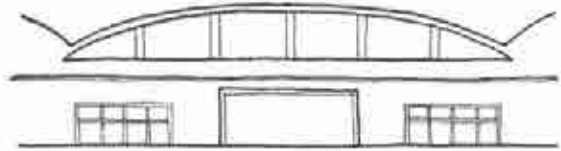
- ・ 10 人が交わる場所
- ・ 14 連歌式
- ・ 17 すっきり感
- ・ 21 人の手が加わる余地

【生駒らしさの工夫】 こんなことやってみましょう

○駅前は多くの人の視線が集まる場所です。そうした場所では好印象を与えるような工夫が求められます。目立つことばかりを意識しすぎると、かえって印象が悪くなってしまいます。全体のバランスも考えながら、公共施設や周りの建物、広告のデザインを考えてみましょう。



みんなの視線が集まる場所（焦点）には、ランドマーク（目印）となるシンボルツリーを配置したり、夜間は光で演出などすると、効果も高まる



建物の「面」を強調したデザインの例
（シンメトリー：対称性）

○住宅地では、まちかどや、各住戸・住棟のエントランスなどにおいて、しつらえを工夫しましょう。例えば、まちかどの空きスペースを花で演出したり、住宅のエントランスに重点的に緑を配置しましょう。



花壇による演出の例（北新町）



玄関先のしつらえの例（白庭台）



エントランスのしつらえの例（萩の台）

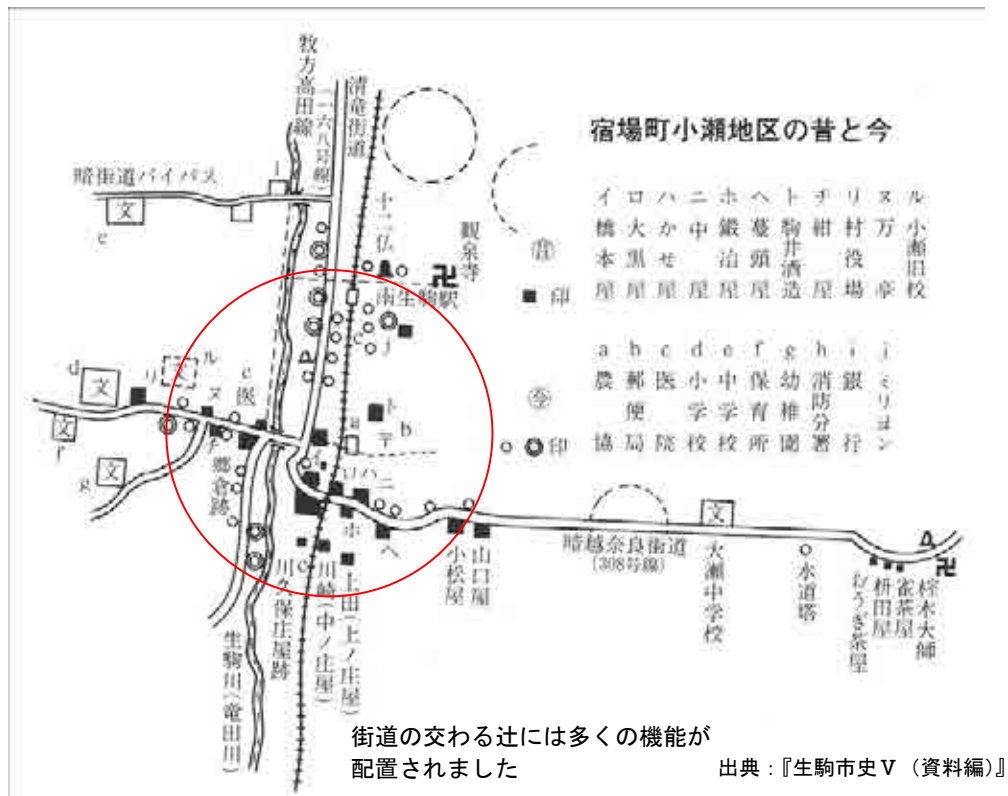
【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



集会所や火の見櫓のある集落の中心（萩の台）

集落では、人々がよく通るところ、使うところ、集まりやすいところなど、共同生活の中心の役目を果たす場所（辻）が自然と生まれてきました。そこには火の見櫓が置かれ、集会所や公民館があり、人々の生活を支え、また人と人が出会う場となり、ムラのつながりを意識させる重要な役目を担ってきました。

計画的に開発された住宅地も、コミュニティのまとまりを生み出す空間が意識的にデザインされています。公園や集会所、井戸端の交流が生まれるまちかどなど、コミュニティの中心となる人が交わる空間は、形を変えながらも大切な場所として受け継がれています。



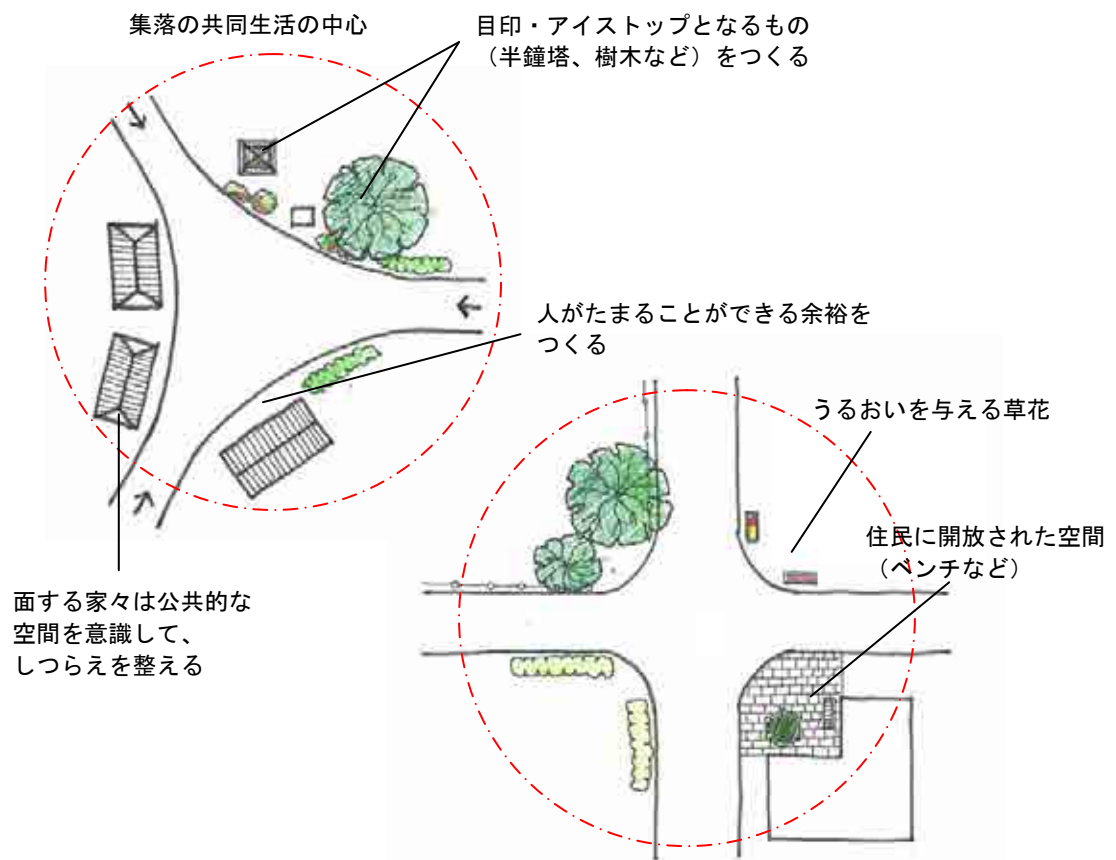
交通の結節点、住宅地の入り口（東生駒）



まちかどの公園は辻の役割（東新町）

【生駒らしさのために】これだけは守りましょう

- 集落や住宅地の中に、生活を支える機能や交流できる機能を配置した、共同生活の中心（辻）をつくるように、敷地や建物の配置や、道路・歩道の使い方、共同施設の使い方などを考えましょう。
- 辻で、人々が交わり、語らい、楽しむことができるようなしかけや装置を取り入れましょう。



関連する パターン

こちらも参照してください

- ・ 9 顔となる空間
- ・ 16 商いのコミュニケーション
- ・ 21 人の手が加わる余地

「辻」にまつわる言葉

「辻」とは、大辞林によれば「二つの道路が十字形に交差している所。また、四方からの道が集まりゆききする人が出会い別れる交通の要所」「人通りの多い道筋」となっています。

この「辻」がつく言葉はたくさんありますが、「辻」の持っている空間の特徴や、ここで行われていた人の活動を良く表しています。一例をご紹介します。

- ・「辻商い」「辻売り」・・・道端に店を出してする商売。
- ・「辻講釈」・・・往来や社寺の参道などで軍談などを語って聞かせ、聴衆から銭をもらうこと。また、それをする人。大道講釈。
- ・「辻堂」「辻社」・・・道の十字路などにある道祖神をまつたお堂・社。

出典：『大辞林』

集落に今も残る水汲み場

高山町の方では、集落の中を歩くと下の写真のような水汲み場に出会います。かつてはこうした水汲み場も集落のみなさんが共同で管理されており、水を汲みに来たときや、洗い物をするとき、近所の人たちの輪ができて、井戸端話がなされていたのかもしれない。

現在では水道も普及したため、痕跡として残っている状態ですが、自然と人が集まっていた辻の様子を想像させてくれるものです。



水汲み場（高山町）

【生駒らしさの工夫】 こんなことやってみましょう

○辻は人と人が交わる空間です。あまり生活感が出すぎたり、ごちゃごちゃとしたりしないよう、気を配ってみましょう。



広場に面したところの、適度な目隠しや、目を楽しませる花など

○大規模な建物を計画をするときには、人と人が交わる空間をどのようにつくっていくか、についても考えてみましょう。

○住民とのかかわり方もデザインされると、長く使ってもらえるかもしれませんね。



イベントに使える広場（生駒駅）



出会いや会話を生み出す広い歩道空間



人が集まりやすいマンションの入り口（白庭台）



ライトアップで演出

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



川筋に沿った曲線の道（西菜畑町）

大地には起伏があるので、その等高線に沿ってつくられた道は自ずと曲がった道になります。これは私たちの行動パターンも影響しており、人間は完全な直線では進まず、自然と曲がるように歩くため、人の足跡でつくられた踏み分け道の多くも曲がっています。

曲がった道を進んでいくと、道沿いの家々に囲まれたような印象を受けることがあります。このような「閉じた」場所は、続いていく道の一部でありながら、居心地のよい落ち着いた空間となります。



踏み分け道は地形に沿って、自然と曲がっている（生駒山上周辺）



視線の先は緩やかなカーブにより閉じられ、居心地のよい空間になる（萩の台）

さらに、曲がっていることで、次の景観は先に進まないと見ることができません。曲がった道のその先に何が続くのか、期待感を抱かせるとともに、次々に景観が移り変わるシーケンス（連続させて景観が展開する）を生み出します。

曲がった道は、景観に奥行きと変化を与えるのです。



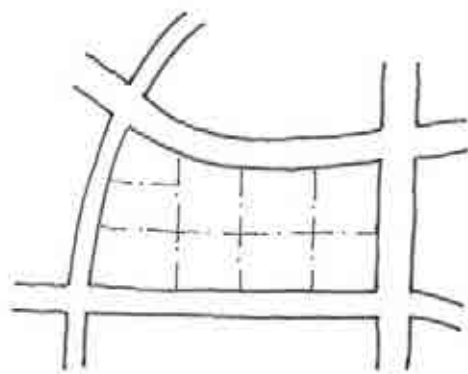
集落内の曲がった道を進むと、まちなみが次々と変化する（萩の台）

【生駒らしさのために】これだけは守りましょう

○地形に合わせてできた道の曲線をいかし、道の形に沿うように、緑や建物を配置しましょう。まちなみの変化や奥行きを印象付けることができます。



○新しく道路をつくる際には、直線的なものばかりでは空間が明快・単調になりすぎて、奥行きや変化が乏しくなります。場所によっては曲線も取り入れるような計画としましょう。



地形に沿って曲線
を取り入れた区画
道路

関連する
パターン

こちらも参照して
ください

・ 23 期待感

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



宝山寺参道の坂道（門前町）

【上：見下ろす、下：見上げる】

住宅地の坂道（生駒台南）

【上：見下ろす、下：見上げる】

生駒は地形の起伏が大きいことから、坂は身近なところにたくさん存在しています。

同じ坂でも、上から見下ろすときと下から見上げるときとは、坂道に沿ったまちなみの表情も変わります。上から見下ろすときには、建物の屋根や壁面、その先にある緑が目に入りますが、下から見上げると道路の舗装や敷き際の植栽・擁壁が前面に映ります。

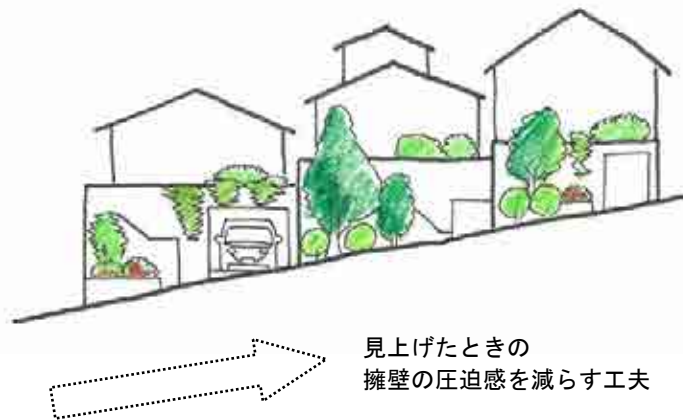
【生駒らしさのために】 これだけは守りましょう

○坂の上から見下ろしたときの眺望を大切に、眺望に配慮した建物にしましょう。



坂からの眺望に配慮して、
屋根に勾配を付け、
周りの屋根に色を合わせる

○坂の下から見上げるときには、道路の舗装や沿道の擁壁の存在感が大きくなるため、威圧感を与えないような工夫をしましょう。また、目に映る緑の面積が小さくなってしまふことが多いので、緑が見えるように敷地内で重点的に配置し、普段からの維持管理をきちんとすることで、見上げる眺望に配慮しましょう。



緑を積極的に配置

見上げたときの
擁壁の圧迫感を減らす工夫

○坂道の上に建つ建物では、坂道から見えるところに特徴を持たせると、坂道を登るときの目標となります。

関連する
パターン

・ 22 人にあった尺度

こちらも参照して
ください

【生駒らしさの工夫】 こんなことやってみましょう

○坂の下から見上げる視線に対して、圧迫感や無機質な印象を与えたりしないようにしましょう。



緑化により擁壁の圧迫感を軽減（生駒台）

○坂の見上げ、見下ろしの眺めの印象をアップさせる演出を取り入れましょう。



擁壁の前に緑化の空間を確保し低木を配置

○上から見下ろす視線を意識して、緑の連続性が生まれるようにしましょう。



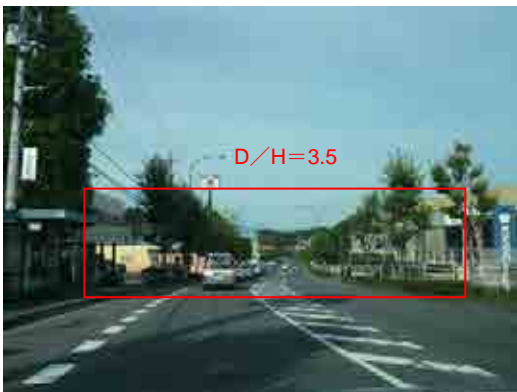
緑の連続感がある通り（東生駒）

○坂道の上に建つ建物では、坂道に面する部分に特徴を持たせると、坂道を登るとき目標となります。



正面に見える木が目印になる（東生駒）

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



左上：戸建て住宅地の通り（白庭台）

左下：低密度の幹線道路沿い（白庭台）

右：お店やテナントビルが建ち並ぶ通り（本町）

通りの水平方向の広がり（D）と沿道の建物の高さ（H）の割合（プロポーション）が、通り空間の性格を決めています。

D/Hが大きくなるほど開放感ある印象が強くなりますが、大きすぎると通りとしてのまとまりを感じにくくなります。逆に小さくなるほど囲まれ感が強くなりますが、小さすぎると圧迫感を感じるようになります。

生駒の通りのプロポーションは概ね以下のような特徴が見つかります。

- ・戸建て住宅地の主要な生活道路沿いのまちなみではD/Hが1.5～2.0で計画されています。
- ・幹線道路沿道は、建物が高密度に並ぶまちなみでは建物の面が際立ってお

り、D/Hが1.5程度となっています。建物が低密度に並ぶまちなみでは、建物よりも沿道の街路樹の存在感が際立ち、D/Hが3.0~3.5程度となっています。特に生駒では沿道の建物が低く、幅員が大きく歩道・植栽空間が充実した道路が多く、D/Hが大きいゆっったりで広々とした道路空間が特徴的です。

- ・まちなかの建物の集積が高いエリアのまちなみではD/Hが1.0前後になっています。

道路の交通機能に応じた幅員

道路は、どのような交通機能を果たすかによって、概ねの幅員の目安があります。プロポーションを考える上で参考にしてみてください。

○地区幹線道路

- ・住宅地の周りの道路です。(都市計画道路網にあたる)
- ・交通量进行处理することと、歩行者と自動車を分けることが必要で、概ね幅員 16m前後となります。(交差点部に右折レーンを設置可能な2車線道路+歩道)

○主要生活道路

- ・交通だけでなく、多様な機能を受け持つ道路です。
- ・ある程度の交通量の自動車と歩行者が同時に利用するので、歩道が必要となり、幅員 8~12m前後となります。(片側歩道~2車線の両側歩道)

○主要区画道路

- ・主要生活道路と区画道路の中間にあたり、主に防災上のネットワークをつくる道路です。
- ・消防活動が困難な区域を解消するため、幅員 6m程度が必要とされています。

○区画道路

- ・駐車車両がなければ消防車が通行でき、消防活動もできるよう、幅員 4m程度が必要とされています。

D/Hで変わるまちなみの雰囲気

下の写真は、いずれも京都のまちなみの写真ですが、道路の幅と建物の高さの関係であるD/Hによって、ずいぶん通りの印象が変わることが分かります。

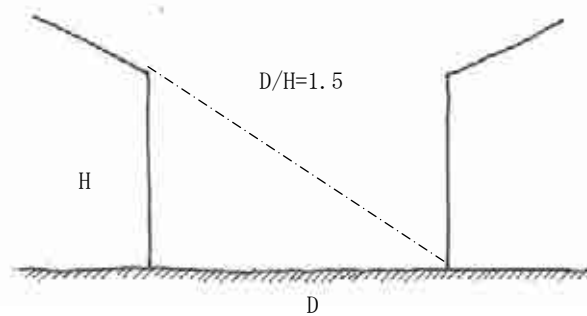


建築家の芦原義信は、『街並みの美学』の中で、日本や海外のまちなみのD/Hの特徴を紹介しています。それによると、「京都の伝統的な町家と『おもて』との関係はD/H=1.3程度のこちよい広さがある」ということです。

生駒のまちなみの雰囲気にあった、こちよいD/Hの関係がきっと見つけれられるはず。そんな視点でまちなみを見てみてはどうでしょうか。

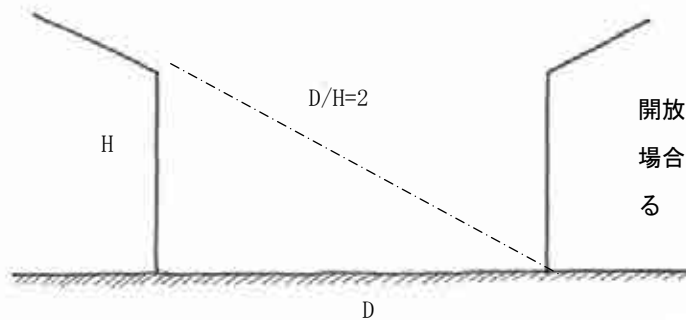
【生駒らしさのために】 これだけは守りましょう

- 通りの性格に応じた通りと建物のプロポーションを考え、それに合わせて建物の高さを調整しましょう。
- 単体の建物だけでは通りの見通し景観は生まれません。隣の建物の高さも見て、通りとしての連続性を生み出す配慮を心掛けましょう。
 - ・住宅地において、主要な生活道路沿いで D/H が1.5~2.0となるように計画し、建物の敷地計画でも配慮しましょう。



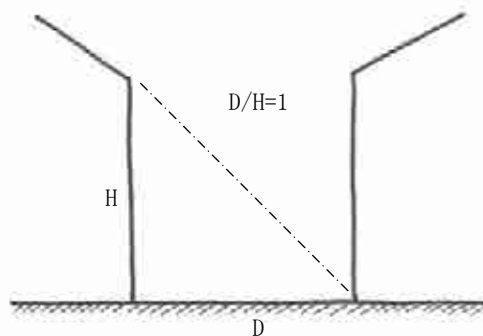
落ち着いた感じある通りとする場合には D/H をやや小さくする

- ・幹線道路において、緑豊かな開放感のある通りの景観を生み出すため、 D/H を2.0~3.0程度と大きく取りましょう。



開放感のある通りとする場合には D/H を大きくする

- ・駅周辺など建物の面が連なった通りでは、面の連続性を際立たせるため、 D/H を1.0~1.5程度と小さくしましょう。



親密感のある通りとする場合には D/H を小さくする

関連する パターン

こちらも参照して
ください

- ・ 5 見通す眺望
- ・ 1 1 曲がった道
- ・ 1 4 連歌式
- ・ 2 2 人にあった尺度

建物の高さのルール

生駒市では、用途地域の種類によって建物の高さの上限は決められており（高度地区）、さらに、道路の幅などの敷地の条件によって高さが決まります。その他、個別の地区で制限が決められているところもあります。

現在の日本の法制度では、まちなみの連続性を考慮した高さの制限はなく、事業者の配慮によるところが大きく、難しい問題となっています。

しかし、その一方で、高さをそろえる取組を進めているところもあります。

埼玉県川越市では、蔵のまちなみを後世に継承していく「町づくり規範」を定めており、その中で「（建築の）高さは周囲を見て決める」というものがあります。

海外では、「新しく建設する建物の軒高は、左右に隣接する建物と調和するように一定の範囲内（隣の建物の〇%以内など）に収める」というルールもあったりします。

こうしたルールは、地元の建物の所有者の理解と合意形成がないと導入するのは難しいのですが、建て替えなどによって変化が起こる前に、「どのくらいの高さのまちなみがふさわしいのか」を考えてみることも必要ですね。

【生駒らしさの工夫】 こんなことやってみましょう

- 高さは敷地条件や前面道路の条件のみで決められることが多いのですが、周りのまちなみにも目を向けて、通りのプロポーションや、隣の建物との関係を考慮して、まちなみとしてそろった姿を考えてみましょう。



背後の戸建て住宅地を阻害しない高さの幼稚園（白庭台）



中低層（3階程度）でそろったまちなみ



中層（6階程度）でそろったまちなみ

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



白庭台駅前の景観（白庭台）

白庭台駅は、住宅地の玄関口として駅舎や駅前広場が整備されました。

周辺の商業施設や公共施設、集合住宅などは、これらと調和するようデザインされています。



駅に近接した色彩などをあわせた集合住宅（白庭台）

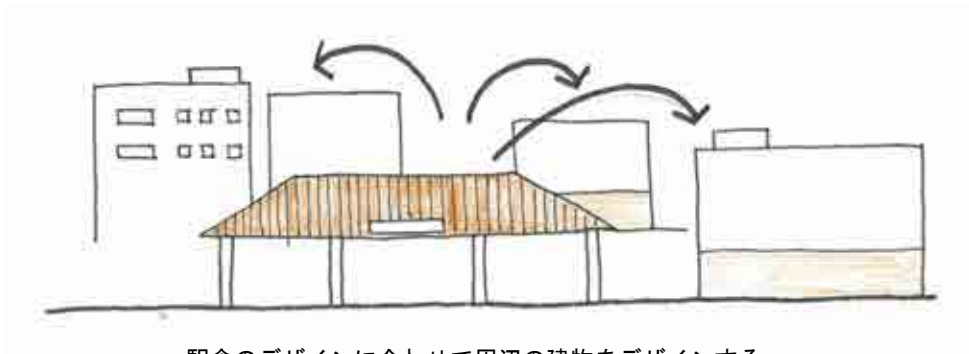
地域内には様々なデザインの建物がありますが、どこかに共通するものがあることで景観のまとまりが生まれます。新しく計画的に整備された駅前などでは、個々の建物がそれぞれの個性を表現しながらも、地域で核となる建物と協調したデザインが採用され、多様性とまとまりのある景観となっています。

隣り合った建物のデザインが、連歌のように少しずつ形を変えながら順次継承・展開されていくことで、自然なまとまりと個性が生み出されています。

(連歌・・・和歌の上の句(五・七・五)と、下の句(七・七)を多数の人たちが交互につくり、ひとつの詩になるように競い合っして楽しむ文芸)

【生駒らしさのために】これだけは守りましょう

- 建物を計画するときには、周囲にある良いデザインの建物を探し、それと調和するようなデザインも考えましょう。
- 地域の核となる建物のデザインの特徴を読み取り、その一部を継承したり、すでにデザインを継承した建物が近接している場合には、その建物との関連性にも配慮したデザインとしましょう。
- 周辺の建物となじむよう低彩度の色彩を使うなど、色彩に配慮した計画としましょう。



駅舎のデザインに合わせて周辺の建物をデザインする

関連する パターン

こちらも参照してください

- ・ 9 顔となる空間
- ・ 13 通りのプロポーション
- ・ 21 人の手が加わる余地
- ・ 23 期待感

【生駒らしさの工夫】 こんなことやってみましょう

○敷地の周りをよく見ると、地域の雰囲気や良さをよくしているものやまちなみの特徴付けているものがあるはずです。それらの要素との関係性を考えてデザインしましょう。



街路樹と同じ樹種の樹木が敷地内にも植栽され、地域の景観とのつながりを感じさせる（上町）



敷き際など、視線の手前に来る場所を緑でつなげると、自然と視線が集まり、背後の様子をうまく隠してくれる



劇場のデザインのイメージを周辺のマンションのデザインが継承してまとまりのある景観をつくらせている

○周囲の建物と単純に同じ形態にするのではなく、継承すべき最も重要な要素を考え、それを建物のデザインにいかす工夫をすることでその場所にふさわしい個性を生み出すことができます。



全く異なる意匠や材質ですが、通りに沿って共通する屋根の勾配や高さを継承している

連歌方式のまちなみづくり

岩手県平泉町の中尊寺通りは JR 平泉町駅と中尊寺を結ぶ約 1.5km の県道で、歴史的にも重要な道ですが、近年、商店街の衰退が進み、景観的な魅力も乏しく、歩行者も少ない状況にありました。

そこで、国のモデル調査を活用して、「人が歩きたくなる景観」を創出するために、人が立っている場所からほど近い場所に次の景観資源が見え、「そこに行ってみよう」と思わせるような景観づくりを検討する方式を「連歌方式」として位置付け、地域の住民と話し合いのもと、デザインコードを作成しました。



連歌方式のイメージ



修景の実寸模型

格子による修景の実寸模型

出典：『平成 21 年度 地域景観づくり緊急支援事業結果報告』
(国土交通省ホームページ)

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



小さな石積みなどを使いながら斜面に沿って建てられた住宅（萩の台）

起伏が大きい地形の生駒では、昔から自然な形で大地の高低差を取り入れて、家や田畑づくりが行われてきました。

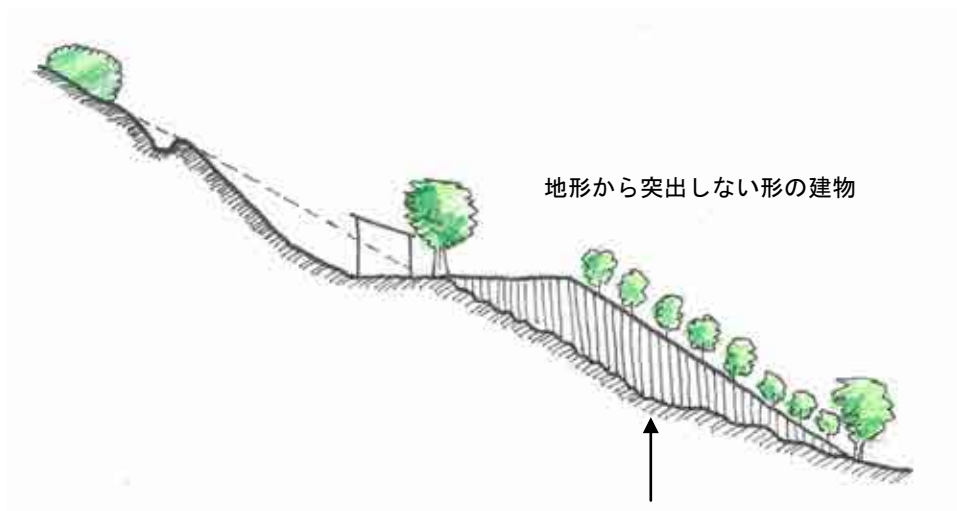
地形をいかすための創意工夫をして建てられた家々は一軒一軒が個性的です。そしてそのような家々は、全体としては地形によくなじんだまちなみをつくりだします。



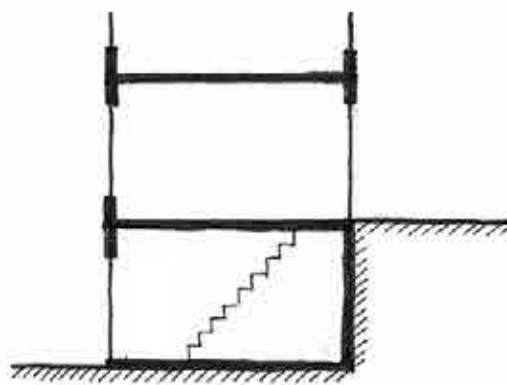
市役所は地形に沿って立地しており、出入口も1階、2階にある（東新町）

【生駒らしさのために】 これだけは守りましょう

- 高低差のある地形はあまり変えずに、大きな切り土・盛り土は避ける、建物は周りから突出しないようにするなど、自然の地形、斜面をいかしたデザインにしましょう。



なるべく切り土、盛り土の量を少なくし、自然の地形をいかす



高低差を取り入れた構造

関連する
パターン

こちらも参照してください

・ 22 人にあった尺度

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



お店が並び、人が行き交い、にぎわう商店街
(びっくり通り・元町)

昔から、商店街ではお店が道に面して商品を並べ、道行くお客に対してコミュニケーションを取りながら商売をしてきました。

商品を陳列したり、ポップやメッセージを掲出したり、季節感のある飾りや花で演出しながらお店のイメージを伝えたりして、店員がお客とやり取りをする光景が見られます。

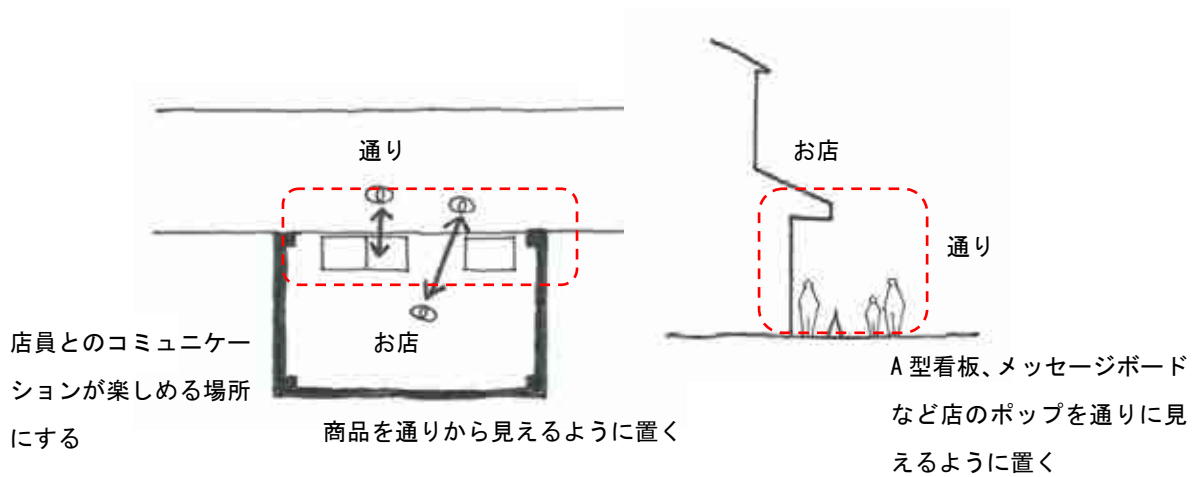
道とお店の中間の領域はそうした人と人のコミュニケーションの場であり、にぎわいある景観づくりに重要な空間として機能しています。



七夕の季節感のあふれる演出

【生駒らしさのために】 これだけは守りましょう

○お店が並ぶ通りでは、商品の陳列や軒先の飾り付け、店員とお客のやり取りといったコミュニケーションの要素が、通りにいきいきと表れてくるようなしつらえとしましょう。



○にぎわいが途絶えないようにできるだけお店が連なるようにし、内部が全く見えないなど、コミュニケーションを閉ざすようなしつらえは避けましょう。

関連する パターン

こちらも参照してください

- ・ 9 顔となる空間
- ・ 21 人の手が加わる余地
- ・ 23 期待感
- ・ 26 しきりとつなぎ
- ・ 29 仮設の風景
- ・ 30 移ろいの風景

【生駒らしさの工夫】 こんなことやってみましょう

○周りとの調和し、歩いて楽しい通りとなるような魅力的なお店のデザインを考えましょう。



オシャレな雰囲気のお店

○お店と通りの間に親密な関係が生まれるようなデザインを考えましょう。



通りから中の様子がうかがえるウィンドウ

○建物の中の様子も外からうかがえるようにすることで、にぎわいを誘発しましょう。



中の様子もまちなみの一部に

○お客の目に情報が留まるようにしましょう。ただし、過度な露出は避けましょう。



メニューやディスプレイを掲出

○お店同士の横の連なりを考え、デザインにしましょう。



軒先が連なるデザインの工夫

○横の連なりを演出する工夫を考えましょう。



暖簾でつなぐ

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



生駒駅北口のすっきりとした景観（谷田町）

市街地再開発と新駅周辺の建物は、色合いや形態といったデザインを統一し、屋外広告物の掲出する場所や大きさを統一することで、全体として「すっきり」とした空間を生み出しています。

こうした要素の絞り込みにより、結果的に店名などの情報が整理され見やすくなり、落ち着きのある住宅地につながる玄関口としてのイメージづくりにも寄与しています。

【生駒らしきのために】 これだけは守りましょう

○落ち着いたある住宅地につながる駅前として「すっきり感」を大切にしたい建物や屋外広告物のデザインを心掛けましょう。



白庭台駅前のすっきりとした景観
(白庭台)

○建物の意匠や色彩などのデザインは、要素の足し算のデザインよりも、周りと協調したシンプルな引き算のデザインを心掛けましょう。



広告物が少ないすっきりしたまちなみ

○屋外広告物は、できるだけ統一した規格ですっきりと整理して掲出するようにしましょう。掲載する情報もできるだけ絞り込み、乱雑な印象を与えないように配慮しましょう。



学研奈良登美ヶ丘駅南口の
すっきりとした広告物の景観 (鹿畑町)

○すっきりとした印象となるように、ベースカラーは低彩度のものを使い、アクセントカラーを効果的に使うなど、色彩の使い方を工夫しましょう。

関連する
パターン

こちらも参照して
ください

- ・ 9 顔となる空間
- ・ 10 人が交わる場所
- ・ 14 連歌式

要素を絞り込み、すっきり感を生むためのルールづくり

学研奈良登美ヶ丘駅の周辺では、新しいまちの顔となる空間にふさわしいように、建物や広告についてルールを定めています。広告物については、「景観保全型広告整備地区」という制度を導入し、表示の場所、形、面積や色などの掲出方法やデザインの方針を決めています。また、建物については「学研奈良登美ヶ丘駅前地区」として都市計画法による地区計画の制度を導入しています。

これらの制度は、隣接の奈良市と市域をまたいで、市民・事業者・行政で一体となりまちづくりに取り組んでいます。



学研奈良登美ヶ丘駅：駅南口の景観

【生駒らしさの工夫】 こんなことやってみましょう

○通りに面した面のデザインを
合わせましょう。



生駒駅北口（谷田町）

○隣接する建物同士でデザインに
統一感を持たせましょう。



駅前のデザインが調整されたまちなみ

○地区全体のデザインに統一感を持たせましょう。



白庭台駅前（白庭台）



駅から続くデザインがすっきりした印象に

○広告物の掲載場所や大きさをま
とめるなどの工夫をしましょう。



学研奈良登美ヶ丘駅前（鹿畑町）

○広告物はできるだけ集合化しま
しょう。



広告の集合化

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



日常の暮らしがまちなみをつくる（北新町）

普段、なにげなく歩く道でも、目を留めてみると、住んでいる人が一生けん命手入れしている花など、心がほっとする景観に出会うことができます。

こうした普段の暮らしがつくる景観（生活景）が、生駒の景観を形づくる地模様となっており、景観はわたしたちの暮らしの中から生まれるものであるということを認識させてくれるのです。



暮らしの様子がうかがえる景観（萩原町）

【生駒らしさのために】これだけは守りましょう

- 普段の暮らしがつくる景観（生活景）が生駒らしい景観をつくる要素であることを意識し、暮らしぶりから生まれる景観も大切にしましょう。
- 敷き際周りは暮らしが最もよくにじみ出すところです。日頃から手をかけ、美しく保つようにしましょう。
- 公園の緑と周りの家々の緑をつなげるなど、暮らしの中から生まれるものをうまく景観づくりにいかす方法を考えましょう。
- 内部が全く見えないなど、暮らしの様子がうかがえないようなしつらえは避けましょう。

関連する パターン

こちらも参照して
ください

- ・ 16 商いのコミュニケーション
- ・ 19 なりわいがつくる景観
- ・ 21 人の手が加わる余地
- ・ 26 しきりとつなぎ

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



一年で最も冷え込む2月初旬に見られる竹の寒干しの景観（高山町）

～古くからの茶釜師の家は農家に混じって点在し、昔からの屋敷を守って、もっぱら茶釜づくりに精魂を打ち込んできた。職人の街、夜業の街といわれた茶釜の里はここである。～ 出典：『生駒市誌』

地域の風土の中で長く育まれてきた稲作といった農業のほか、茶釜や竹器製造、酒造りなどの伝統産業。茶釜や竹器の材料となる竹の寒干しが茶釜の里ならではの、また古くからの造り酒屋が生駒らしい伝統産業の景観をつくっています。

これらは産業と生活が密接に結びついたなりわい（生業）であり、景観もこ



酒造店の店構え（小瀬町）

の生業によって形づくられているものですが、生活様式の変化によって、その景観は失われつつあります。

【生駒らしさのために】これだけは守りましょう

- 生業がつくる景観が、生駒の大切な景観であることを認識し、営みを継続していきましょう。
- 一人一人の暮らしの中で、地場産業を応援できる取組を考え、生業を支えていきましょう。

関連する
パターン

・3 ヤマ・ムラ・ノラの調和

こちらも参照してください

「地産地消」を意識してみませんか

生業の景観を守るには、そこでの生業を続けていけるかどうかにかかっています。

最近では、安心・安全、新鮮で美味しい作物が身近に手に入るということで、地産地消の取組も進められています。また、伝統産業の作品に触れられたり、制作の様子を見学・体験できたりする施設もあります。

身近な直売所に足を運んでみたり、市民農園に参加してみたり、伝統産業の商品を買い求めたり、一人一人の地場産業とのかかわりが増えれば、生業の景観も維持できるのではないのでしょうか。

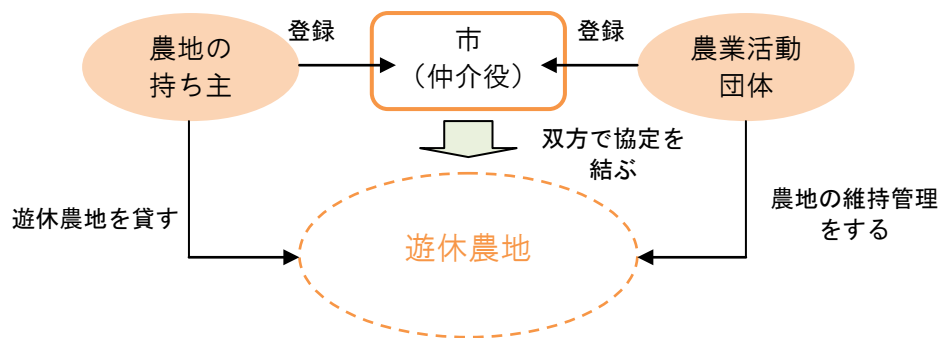


農地をみんなで支える取組

農地を一人で維持管理するのは、負担も大きく、やむなく手放すことになってしまいがち。でも、地域のみなさんや、農業が好きな市民活動団体などが手助けしてくれる、そんな仕組みもあります。

<遊休農地活用事業>

農地の管理などを希望する農地所有者と耕作希望者を市が仲介するもので、遊休農地を維持管理し、景観を含めた環境の保全を進めながら耕作できる方に農地の貸付を行います。



遊休農地活用事業の仕組み



遊休農地活用の事例

【生駒らしさの工夫】 こんなことやってみましょう

○生業の景観は生駒の大切な景観として、農家のみなさんだけでなく、いろいろなかかわりをつくりながら、復活させていきましょう。



地元の土地所有者で構成する「西畑町棚田を守る会」と市内外の人が棚田の保全や里山の管理に取り組んでいる「いこま棚田クラブ」が協力して棚田の保全活動に取り組んでいます（西畑町）

出典：いこま棚田クラブのホームページ

○竹の寒干しや茶釜などの伝統産業をモチーフにしたデザインを取り入れ、地域の伝統産業を目に見える形で伝えていくことも有効です。ただし場合によってはかえってマイナスイメージとなることがあるので注意しましょう。



茶釜をデザインモチーフに（高山町）

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



左：モリ（奥野のモリ・萩の台） 右上：モリ（小山のモリ・萩の台） 右下：地藏（萩の台）

生駒谷では市街地が広がり、集落のまとまりも不明瞭になってきていますが、かつて集落を取り囲むように外縁部に位置していた「七モリ」は、今も集落の場所を知る手がかりになっています。

ムラの人々はこれらの「モリ」を畏れ敬う風習と結びついた聖なる場所として「モリさん」と呼び、大切に守ってきました。

集落での暮らし方も時代とともに変わってきましたが、「七モリ」にまつわる言い伝えは今でも受け継がれ、人々の暮らし方や空間の使い方の中に息づいています。

【生駒らしさのために】 これだけは守りましょう

○時代を超えて受け継がれ、集落に今も息づくモリさんやお地蔵さんなどのいわれのある空間は大切に守りましょう。場所の由来や伝説には素直に耳を傾け、伝承に反した土地の利用をしてはいけません。



ムラはずれの大木や地蔵さんの物語を継承する
(西菜畑町)

○寺院やモリさんなどの周囲では生活感が表出しすぎないようにしましょう。厳かな雰囲気醸し出すように建物の配置やデザインを工夫するなど、植栽による見え隠れを意識しましょう。



周囲では生活感が出過ぎないようにする

アプローチ空間を手入れするなど聖なる場所としての威厳を保つ

関連する パターン

こちらも参照してください

- ・ 8 生駒山の修験の領域
- ・ 31 記憶の風景

【生駒らしさの工夫】 こんなことやってみましょう

- 昔から言い伝えのある場所などは、その空間を崩すことのないように、できるだけ尊重した計画にしましょう。



住宅地開発で大切な場所を残す（西白庭台）



マンション敷地内の樹木を残す



道標を保存する（小瀬町）

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



美化・花植えが行われるまちかどの空間（鹿ノ台）

環境美化や自然保全、まちづくりの活動をはじめ、人の手が加わることでぬくもりのある、またいきいきとした景観が生まれます。地域の人々が近隣の道路や公園に花を飾ったり、清掃をしたりする事例が増えています。



地域の人々によって飾られた公園（光陽台）

【生駒らしさのために】これだけは守りましょう

○公共建築や道路、公園などの公共空間ははじめから作り込みすぎず、地域住民がかかわる余地を残しましょう。植栽したり、自ら管理できる場所をつくりましょう。



住宅地の入口部分を住民の手で飾る（あすか野）



公園前の敷地を住民の手で管理する（俵口町）

関連する パターン

こちらも参照してください

- ・ 10 人が交わる場所
- ・ 24 表出する緑
- ・ 26 しきりとつなぎ
- ・ 29 仮設の風景
- ・ 31 記憶の風景

コミュニティパーク事業

生駒市では地域の公園をリニューアルするときに、住民が参加して一緒に考えるコミュニティパーク事業という制度があります。自治会などで応募を考えてみてはいかがでしょうか。



ワークショップで考えた公園のデザイン

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



人にあった尺度でつくられている生垣（北新町）

建築技術が発展してマンションなどの大規模な施設が建てられる以前は、基本的に全て人の手によって住宅などがつくられていました。そのため、自然と人にあったほどよい尺度で空間が形づくられていたのです。

そうしたスケール感は、主に農村地域を中心に読み取ることができます。高低差のある地形が多い生駒では、自然に逆らわない、無理のない方法で土地を利用してきました。敷地の中でも人が行き来しやすいような分節化がなされるといった工夫がなされています。棚田も、土地を人にあった尺度に応じて分節し、利用した例といえます。

人の力の及ぶ範囲で自然と向き合い、自然の摂理に逆らわない暮らしの中から自ずと生まれてきた空間利用のルールは水利や防災の面でも理にかなったものです。



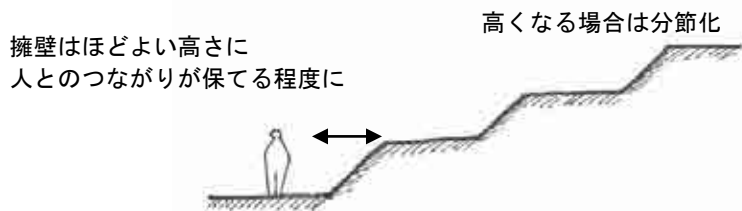
人の尺度にあった地形の利用・棚田（西畑町）



同じ敷地でも人が通る尺度で分節化（菜畑町）

【生駒らしさのために】 これだけは守りましょう

- 集落や住宅地の中にある人にあった尺度の道沿いでは、その尺度を損なわないようにしましょう。大きな擁壁を建てるなど、人にあった尺度を断絶するような行為は避けましょう。
- 大きな擁壁や壁面を避け分節化するなど、できるだけ人にあった尺度の空間計画としましょう。



関連する パターン

こちらも参照してください

- ・ 1 1 曲がった道
- ・ 1 2 坂道の見上げと見下ろし
- ・ 2 8 生駒石

【生駒らしさの工夫】 こんなことやってみましょう

- 人にあった尺度を大きく超える構造物は、見た目にも圧迫感を与えます。大きな壁面、柵、法面などは分節化などの工夫をし、見た目の圧迫感を軽減しましょう。



法面を分節化し、緑化を施した例

- 大きな壁面、柵、法面などは、分節化することでできるだけ人にあった尺度に近づけるようにするとともに、緑化を取り入れて印象を和らげる工夫を行いましょう。



敷き際を人にあった尺度に合わせた工場の例

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



奥まった空間のつくりが、先への期待感を抱かせる（宝山寺参道・門前町）

奥にあるものが見えないとわたしたちはその先にあるものを想像して、そこに期待感を持ちます。例えば、カーブしている場所や突き当りの場所などの見通せない場所では、視界が開ける予感が高まり、期待感が生まれます。

生駒駅の駅前から続く宝山寺の参道は、寺院に近づくにつれて商店街、住宅街、旅館街と連続してまちなみの趣が変わり、歩いて行くにつれて気持ちが高まっていきます。こうした空間が参詣という体験をより印象的なものになっています。



駅前から続く商店街



坂道の旅館街



山上の寺院に到着

宝山寺参道の景観の変化



萩の台集落内の景観の変化

生駒駅前にあった宝山寺の一の鳥居

1977年南口鳥居

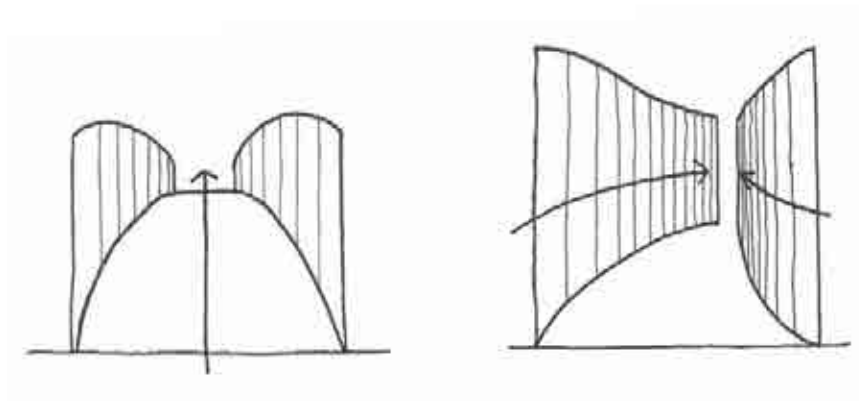


当時、一の鳥居は生駒駅南口の参道筋の入口にありました。駅に降り立った人はこの鳥居を見て宝山寺への期待感をふくらませたのではないのでしょうか。

その後、生駒駅南口の再開発事業とあわせて、宝山寺へ移設されましたが、鳥居があった証拠として、円柱のモニュメントが設置され、当時の記憶を留めています。

【生駒らしさのために】これだけは守りましょう

- 通りに沿って連続的に変化する景観（シーケンス）を意識し、期待感が高まるような奥の空間の特徴を暗示するデザインとするなどの工夫をしましょう。
- 敷地内でも通りから直接施設が見えないよう配置したり、植栽による見え隠れを工夫することで期待感を高めることができます。



連続する景観で通りの奥に視線や意識を誘導する



奥にあるものにふさわしいような、アプローチ（導入）部分

関連する パターン

こちらも参照して
ください

- ・ 8 生駒山の修験の領域
- ・ 11 曲がった道
- ・ 12 坂道の見上げと見下ろし
- ・ 15 高低差の尊重
- ・ 20 聖なる場（パワースポット）

【生駒らしさの工夫】 こんなことやってみましょう

- 寺院や神社は地域で大切にされてきた神聖な場所です。門前や参道の雰囲気高めるよう、通りに沿って演出しましょう。



近くに神社があることを暗示する
石段のデザイン（門前町）

- 通りから建物が直接見えないように軸線をずらして配置したり、手前に植栽をすることで奥行き感のあるまちなみを生み出すことができます。



門扉と玄関の位置をずらして、植栽の
スペースを生み出している



奥まったしつらえが期待感を生む

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



あふれんばかりの豊かな緑（東生駒）

敷地内では通常、日当たりを考慮して南側に植栽や庭が配置されます。このため、東西方向の通りでは通りの北側に敷地内の緑がたくさん表出しています。一方、南北方向の通りでは通りに沿った連続的な緑は少なくなりがちです。

また、敷地内に確保できる緑のボリュームや配置は敷地面積によって異なります。敷地面積が大きいと建物周囲の複数の面にまとまった緑を確保しやすくなります。

計画的に開発された住宅地が多い生駒では、こうした傾向が明確に表れた地域がたくさんあります。

東西方向の通り



生駒台

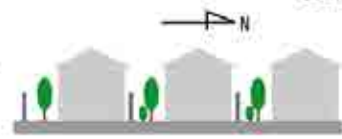
南北方向の通り



西白旗台



- ・敷地の南側に庭がとられることが多い
- ・庭の緑が通りに表出する



165m程度
・南北方向の街区の場合には、敷地内にまとまった緑のスペースを確保することが難しい

(建ぺい率 50%)



180m程度
・東西方向の街区の場合には、敷地の両側に小規模な緑のスペースを確保できる

(建ぺい率 50%)



210m程度
・敷地内の両側にまとまった緑を、また西側や東側にも小規模な緑のスペースを確保できる

(建ぺい率 40%)



480m程度
・敷地内の建物の周囲にまとまった緑を確保できる

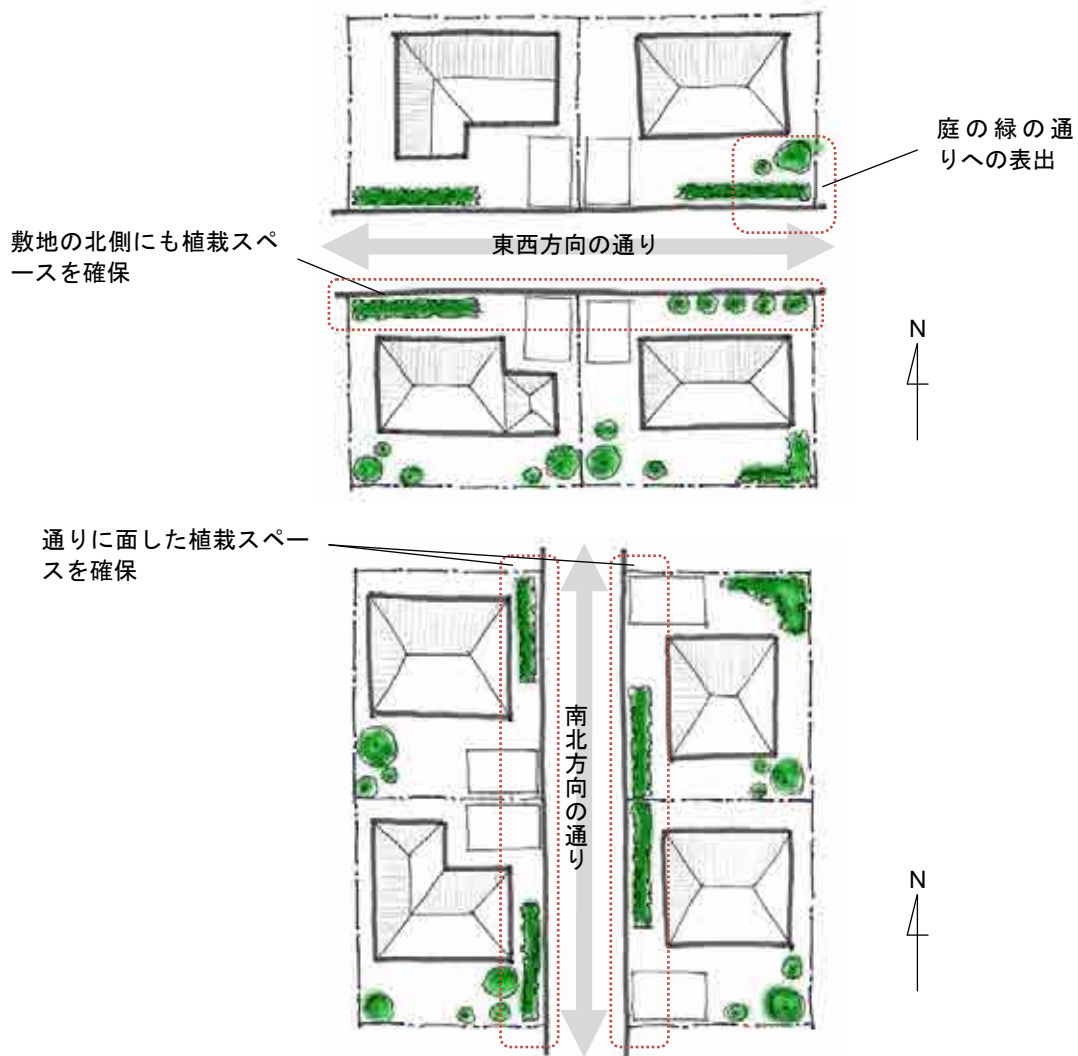
(建ぺい率 40%)

敷地の規模に応じた緑の特徴

【生駒らしさのために】 これだけは守りましょう

○東西方向の通りの南側に面する敷地には、道路際（敷地の北側）に緑化できるスペースを多めに確保するか生垣にしましょう。南北方向の通りに面する敷地は生垣とするか、街路樹を植えるなど緑の連続性をつくりましょう。

○緑の多いうるおいのある通りのまちなみづくりを目指すときには、できる限り敷地面積を大きくし、また細分化を防ぐようにしましょう。



関連する パターン

こちらも参照してください

- ・ 14 連歌式
- ・ 15 高低差の尊重
- ・ 22 人にあった尺度
- ・ 26 しきりとつなぎ
- ・ 30 移ろいの風景

【生駒らしきの工夫】 こんなことやってみましょう

○通りから見えるところの緑ができるだけ多くなるよう、植栽スペースを確保したり、窓辺に花台を設けるなど花を飾れるようなしつらえにしましょう。



お店の窓辺に花を飾ることができるように花台を設けている



通りに面して植栽スペースが設けられている



敷地境界部に植栽を設けて、道路の植栽帯と一体となった緑豊かな空間をつくっている（白庭台）

○通りに面する擁壁を緑化したり、敷地内の緑が通りから見えるような工夫をしましょう。また、敷地内の緑が美しく見えるように、普段からの維持管理を心掛けましょう。



敷地内の庭の緑と緑化した擁壁が一体となって通りに緑が表出している

景観づくりに役に立つ植栽の仕方

植栽は日々の暮らしにうるおいをもたらすとともに、季節によって移ろい、様々な表情でわたしたちの目を楽しませてくれます。緑が多い生駒にあって、植栽の使い方を意識し、工夫することはとても大切です。

ここでは、その基本的な内容を紹介します。

●植栽の種類

・地被類・芝生（草生）

直接自然に触れることができ、そこで遊び、憩い、寝転ぶといった人の活動の場になります。まちの気候の緩和などにも役立ちます。

・花卉（かき）・低木類

手近な緑として、花や香りを提供してくれるだけでなく、敷地の境界部分に植えることで「まちの整理役」ともなります。わずかな土地でも植えることができ、土地と人、高木類とをつなぐ役割もあります。

・高木類

まちに自然の景観を提供してくれるもので、空気の浄化や騒音の緩和、防災や都市活動など様々な面で効果を発揮します。また、建物との調和にも役立ち、桜を愛でるといったレクリエーションの働きもあります。



鹿ノ台



●植栽場所の選び方

樹木の特徴に応じて植栽の場所を選べば、より効果的に緑を見せ、楽しむことができます。ここでは工夫の一例を示します。

・位置とバランスを考える

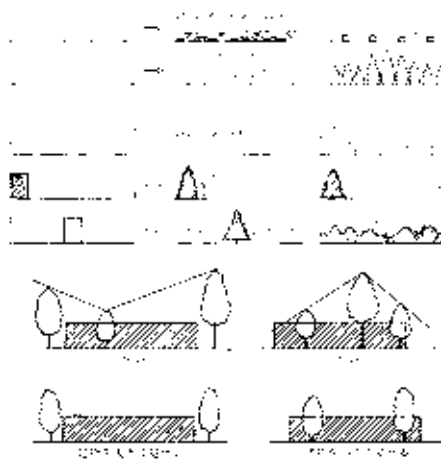
平面や立面で見たときに、植栽がバランス良く配置されているかを考えましょう。

・建物との関係を考える

植栽の位置によって建物の見え方も左右されます。建物との関係も考えましょう。

・緑の演出を考える

視線の集まる場所などに効果的に見せたい緑を置きましょう。



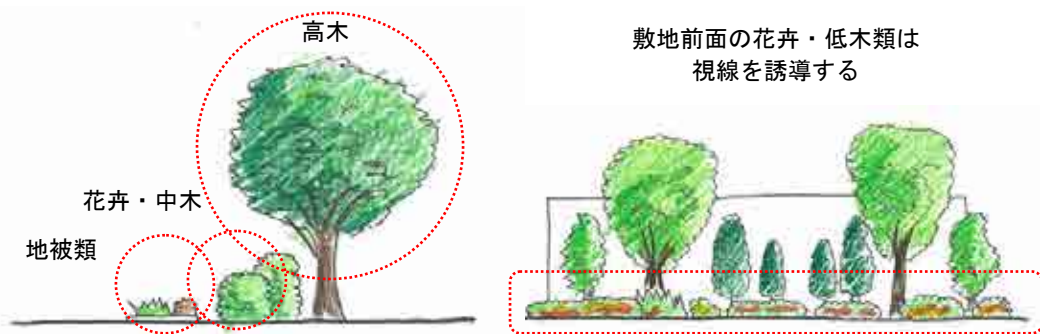
出典：『庭木と街路樹』

● 樹木の特徴に応じた使い方

樹木には樹形や季節の変化などにそれぞれ特徴があり、それらの特徴を理解の上、うまく景観づくりにいかしていくことが大切です。

<高さをいかす>

- 高木類：樹高が高いので目に留まりやすく、シンボルツリーとして使用したり、建物との調和を図ったりするほか、街路樹などでまちの骨格・軸をつくったりするときに役立ちます。木陰ができるので、足元で人が憩う・行き交うような場所でも効果的です。
- 花卉・低木類：人の目線と同じ高さであり、演出を施して歩く人の目を楽しませることができます。また、敷き際に植えられることで境界をつくることができ、通りと敷地とをしきる・つなぐ役割も果たします。
- 地被類：土地に定着したもので、地面を覆うことから人工的な路面の印象を和らげることができます。



<植生の特徴をいかす>

- 針葉樹：濃い緑が特徴で、冬季に葉が落ちません。樹形も三角形の形が多くとがった印象であり、建物とあわせてシャープに見せたいときに効果的です。
- 広葉樹：常緑広葉樹は耐陰性が強く、冬季に葉が落ちません。落葉広葉樹は冬季に葉が落ちますが、色とりどりの四季の変化を楽しむことができます。樹形は丸型で枝葉が広がり、全体としてやわらかい印象であり、建物を緑にとけ込ませるときに有効です。また、木陰ができるので、人が通り集まる場所などに使うと効果的です。



針葉樹 (スギ)



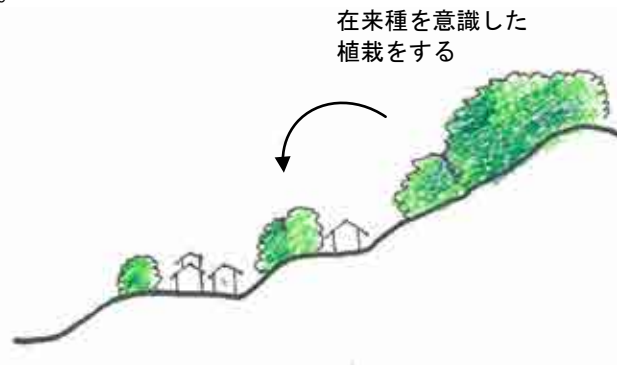
落葉広葉樹 (ケヤキ)



常緑広葉樹 (クスノキ)

<周りの植生に配慮する>

- 樹種を選定するときには、その周りにある樹林地や、山すそ・丘陵地の樹種を調べるのも一つの方法です。より自然度の高い場所の在来種を選び、植えることで、エコロジカルなネットワークの形成に役立ちます。
- また、在来の生物と競合して生態系を損ねるような外来種の使用は避けるようにしましょう。



<土地に合ったものを使う>

土地の条件によって、適切な樹種を選びましょう。条件が合わないものを選ぶと、きちんと育たなかったり、メンテナンスが大変だったりします。

(例) 土地の乾燥の度合い、風の度合い、日当たり など

<敷地の隙間、屋上や壁面などの緑化も取り入れる>

敷地に余裕がない場合でも、わずかな隙間を活用した緑化も可能です。また、軽量土壌に地被類を使った屋上緑化、登はん型や下垂型の植物を使った壁面緑化などは、普段からの維持管理を心掛けることで、視覚的効果に加えてヒートアイランド対策にも寄与します。



フェンスの緑化 (鹿ノ台)



緑のカーテン (高山町)

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



周辺に緑があるが、敷地内も緑化している（乙田町）

生駒の景観には必ず緑が存在します。周辺の山なみや樹林地、街路樹、神社や農地の緑を背景に、敷き際にも様々な緑が加えられ、景観に映り込んでいるのです。

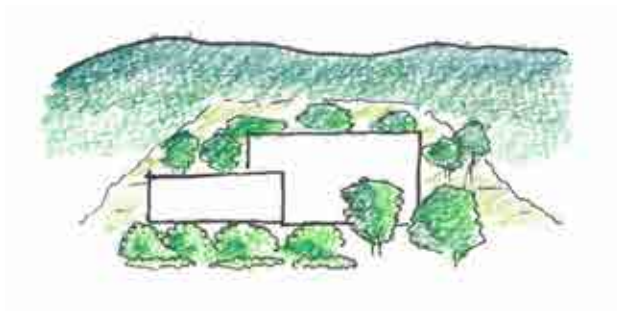
このようにどこでも緑が映り込むことが、生駒らしいと感じられる大きな要因となっています。



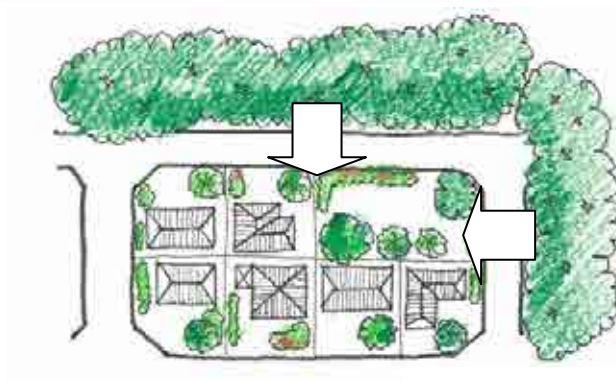
視界に必ず緑が登場します（白庭台）

【生駒らしさのために】 これだけは守りましょう

- 緑が生駒らしさをつくる上で大切な要素であることを認識し、敷地の中でも積極的に増やすようにしましょう。
- 敷き際など、良く見えるところに緑を配置しましょう。
- 樹林地などを開発し、緑が失われることがあっても、その損ねた分を代償としてどこかで緑を確保するなど、緑を減らさないようにしましょう。



法面を削って造成するときも、できるだけ面積は小さくするとともに、代償となる緑を確保する



周辺の緑との連続性を確保する

関連する パターン

こちらも参照してください

- ・ 18 暮らしのにじみ出し
- ・ 21 人の手が加わる余地
- ・ 24 表出する緑
- ・ 26 しきりとつなぎ
- ・ 30 移ろいの風景

【生駒らしさの工夫】 こんなことやってみましょう

○緑があることが生駒らしさです。
新たな開発地であっても、生駒らしさを損なうことは避けたいものです。既存の緑をできるだけいかした開発を考えてみましょう。



既存の樹林地を残した開発の例



斜面の樹林地をいかした開発の例

○緑が少ない場合は、積極的につくって、緑豊かな空間を生み出しましょう。



敷地内に緑を積極的に増やした例

緑視率とは

見える範囲における草木の緑の割合で、まちなみや地区など広い範囲を対象にしたときの指標として使われています。

例えば、下の写真ですと、左側が約80%、右側が約50%となり、左側の方がより緑の印象が高まります。



楽しみながら緑を維持管理

開発のときに生じた斜面地の緑を敷地内に取り込んで、緑が眺められる、あるいは維持管理を楽しめる空間として提供する住宅地開発の例も見られるようになってきました。

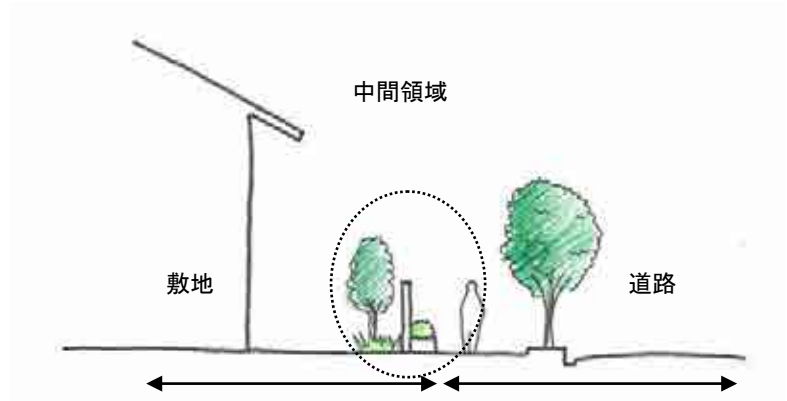
身近に自然と触れ合える空間を維持管理することで、楽しみも増える、そんな空間づくりを売りに考えてみませんか。

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



高低差を利用して「しきり」、通りと敷地は植栽でやわらかく「つなぐ」(有里町)

敷地と道路が接する敷き際は、公共空間と私的空間のつなぎ目、いわば中間領域です。この空間の使い方、「しきり方」と「つなぎ方」を工夫することで、通りの表情を豊かにすることができます。また、隣の敷地の敷き際と緑や壁面でうまくつながれば、一体感のある通りを演出でき、印象的なまちなみになります。このようなまちなみにあった適度なしきりの作法の工夫が各所に見られます。





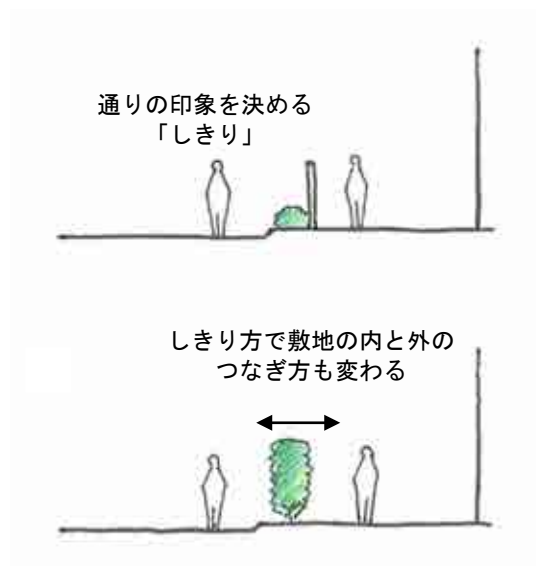
生垣が連続するまちなみ（東生駒）
整った敷き際でかたい感じのしきり



オープン外構のまちなみ（西白庭台）
敷地と道路をつなぐ

【生駒らしさのために】 これだけは守りましょう

- 昔ながらの集落では「やわらかいしきり」にして親密な印象に、敷地規模の比較的大きい住宅地では「かたいしきり」にして風格ある印象にするなど、通りの特徴にあわせてしきり方を工夫し、連続感のあるこちよい通りになるよう配慮しましょう。
- 緑やちょっとした空間などの配置を工夫して、隣近所の敷地と積極的につなぐことを心掛けましょう。また、植栽を使ってつなぐときは、まちなみが美しく見えるように、敷地内にきちんと配置し、普段からの維持管理を心掛けましょう。
- 通り空間と敷地とのつなぎ方にも配慮し、暮らしの過度な露出を避けプライバシーを確保しながらも、暮らしの息遣いは伝わり、通りとのコミュニケーションを図ることができるようなつなぎ方の工夫を考えましょう。



関連する
パターン

こちらも参照して
ください

- ・ 16 商いのコミュニケーション
- ・ 18 暮らしのにじみ出し
- ・ 21 人の手が加わる余地
- ・ 24 表出する緑
- ・ 27 受け継がれてきたデザイン
- ・ 28 生駒石
- ・ 29 仮設の風景
- ・ 30 移ろいの風景

【生駒らしさの工夫】 こんなことやってみましょう

○通りの特徴に合ったしきり方とつなぎ方を考えてみましょう。

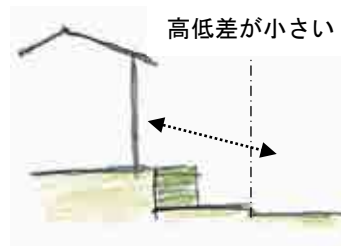
【「しきり」の方法】

やわらかいしきり ←————→ かたいしきり

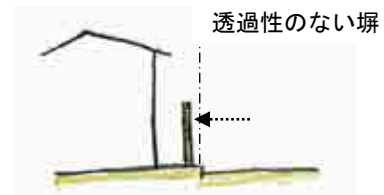
緑でしきる



高低差でしきる

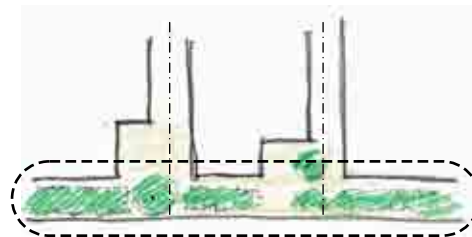


塀や垣でしきる



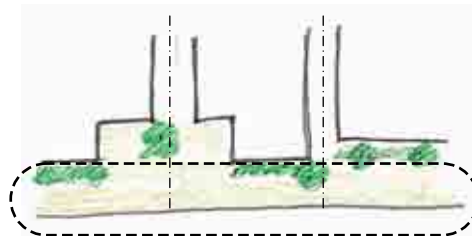
【「つなぎ」の方法】

緑でつなぐ



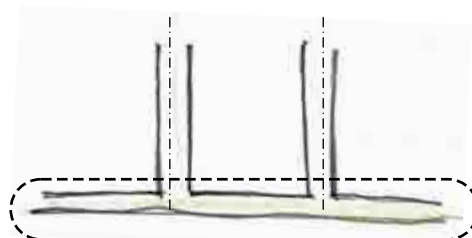
緑の連続

オープンスペースでつなぐ



オープン
スペースの
連続

壁面でつなぐ



壁面の連続

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



大和棟の住宅（西菜畑町）

【大和棟】

奈良盆地一帯で見られる、大和棟。生駒南部の地域ではカマドのある土間の部分の屋根には煙出しを設け、防火上の理由などから一段高く本高塀（ホンタカヘイ）を設ける大和棟の形態の民家が多い。

古くからの集落では、地域の風土に応じた暮らしの作法や生業の中で生まれ、長い時間をかけて磨き上げられてきた伝統的な形があります。それは敷地内の建物の配置であったり、建物内部の構成、立面の意匠であったりと様々なところに見られます。

これらの必要性から生まれパターン化された「受け継がれたデザイン」は多くの地域で共通のものもあり、また地域に固有のものもあります。

【生駒らしさのために】これだけは守りましょう

○人々の暮らしの中で育まれパターン化されている伝統的な形態や意匠は、その背景にある意味を認識した上で尊重しましょう。全面的に取り入れるばかりでなく、デザインモチーフとして一部を取り入れるなど、新たな使い方の工夫にも挑戦しましょう。

関連する パターン

こちらも参照してください

- ・ 1 1 曲がった道
- ・ 1 9 なりわいがつくる景観
- ・ 2 2 人にあった尺度
- ・ 2 6 しきりとつなぎ

生駒の民家デザイン

生駒で仕事をされてきた大工さんに、生駒の民家デザインの特徴を教えてくださいました。

- ・ 建物の配置や間取りは、生駒近辺であればどこの地域でもだいたい共通している。
- ・ 門口（入り口）や門は辰己（南東）の方向に配置し、門は入り口とは少しずらすように構える。道路からこの方角に入ることができるように、屋敷の敷地が立地した（道路の北側に敷地がある）。
- ・ 屋敷の入り口は地域によっていろいろで、門をつくるのが普通とされるところと、門ではなく石積みと生垣が普通とされるところがある。
- ・ 屋根勾配は、5寸から5寸5分勾配が標準で、豪華な母屋の屋根は、入母屋造りでむくりをつける。むくりは2寸垂木一本分（6cm）つける。
- ・ 南地域の大和棟では大棟よりも大屋根の妻側を一段高く設ける本高塀が多い。北地域では本高塀が少ない。



北田原町

【生駒らしさの工夫】 こんなことやってみましょう

○伝統的なデザインの背景には意味があることが多いものです。こうした意味合いを理解して、新しい視点から捉え直してデザインしましょう。

○過度な装飾やデザイン手法を駆使するのではなく、シンプルで形態の持つ本来の美しさを表現しましょう。



伝統的な大和棟を現代の建物にアレンジしてデザインしている

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



生駒石による石積み（東生駒）

生駒山の一带で産出されてきた生駒石は、表面の独特の風合いから庭石や石積みに使われてきました。集落内の民家はもちろんのこと、生駒台や東生駒などの住宅地内でも多く見ることができます。また、暗峠の石畳の石材としても使用されています。

地場産の材料を使うことで、運搬や施工の合理性とともに、地域の風土になじんだ景観が生まれます。



暗峠の石畳（西畑町）

建築材料は現地調達が基本

生駒の大工さんによれば、「瓦は昔は南田原で焼いて製作していた」「壁の土は昔はそれぞれの家で山から取ったものを使っていた」「庭石や石垣の石は、生駒山麓で広く採石される生駒石が主流だった」というお話が出てきます。

昔は運搬の手段が発達していなかったので、できるだけ現地の近くで取れる材料を使うというのが基本だったようです。

【生駒らしさのために】 これだけは守りましょう

○風土にとけ込む「地」が生み出した材料を積極的に取り入れましょう。生駒石を庭石に使うなど、デザイン要素としての利用を考えましょう。

関連する パターン

こちらも参照してください

- ・ 1 2 坂道の見上げ・見下ろし
- ・ 1 5 高低差の尊重
- ・ 2 2 人にあった尺度
- ・ 2 6 しきりとつなぎ
- ・ 2 7 受け継がれてきたデザイン

【生駒らしさの工夫】 こんなことやってみましょう

○石垣をつくるときはできるだけ生駒石を使いましょう。地場産の材料は地域の景観に一番なじみます。

○石垣以外にも庭石などいろいろな使い方を工夫してみましょう。



生駒石の庭石



生駒石を使った石垣と生垣

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



宝山寺のお彼岸万燈会では多くの蠟燭の明かりで参道から境内の周辺は幻想的な装いを見せる（門前町）

毎年めぐってくる行事や、お宮参り・七五三などの伝統行事は、暮らしの中に根付いた文化として受け継がれてきました。また、自治会や商店街で催されるお祭りなども同様に、人々の手によって継承されてきました。

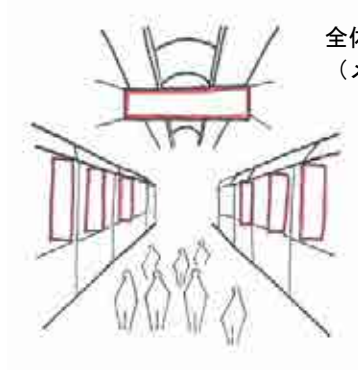
これらの特別な時期には見慣れた景観も特別な装いを見せます。それは日常の景観に対し、一時的に表れるハレの日の仮設の風景でもあります。



灯りを楽しむ様子

【生駒らしさのために】これだけは守りましょう

○祭りが行われる神社の参道や神輿、だんじりのルートなど、伝統行事の舞台となる場所ではハレの日の演出ができるようあらかじめ考えたデザインとしましょう。



全体の統一感に気を配る
(メリハリをつける、過度にしすぎない)

のぼり、暖簾などでハレの日を演出する

○商店街ではイベントするときには、統一した横断幕やのぼりを飾るなど、通りでのにぎわいの演出を考えましょう。



100円商店街（ぴっくり通り・元町）

○住宅地では近隣の人と協力して夜間のイルミネーションを飾るなど、暮らしの場を演出することもできます。



住宅地のイルミネーション

関連する パターン

こちらも参照してください

- ・ 16 商いのコミュニケーション
- ・ 23 期待感
- ・ 30 移ろいの風景
- ・ 31 記憶の風景

【生駒らしきの工夫】 こんなことやってみましょう

○商店街でセールやイベントをするときにはにぎわいを演出するような飾り付けをしましょう。横断幕や暖簾で普段と雰囲気を変えることができます。

○ハレの飾り付けができるようしつらえましょう。



イベントに合わせた演出



100円商店街ののぼりとポップ（ぴっくり通り・元町）



七夕の飾り付け（元町）



（東生駒）

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



季節によって移ろいを見せる景観（西畑町）

一日のうちでも昼間から夕暮れ、夜間へと時間帯によって刻一刻とまちの表情は変わっていきます。また、晴れた日と雨の日でもまちの印象は変わります。季節によっても背景の自然や人々の営みが異なるため、まちの景観も違って見えます。

夜間には細かなところが見えないので、昼間よりもすっきりと整理された印象となります。また、照明によって印象は大きく変わります。

雨の日などに建物や道路が濡れているときには晴れた日とは質感が異なって見えます。また空の色や陽の光の強さはまちの印象にも影響します。

山などの自然の景観や街路樹、公園の緑は季節によって異なる表情を見せません。

【生駒らしさのために】これだけは守りましょう

- 紅葉する樹木や落葉する樹木、実のなる樹木など季節感を感じられる樹木、あるいは花の植栽による季節感の演出に配慮しましょう。



花卉などで季節感を演出する（生駒駅前・元町）

- お店などは夜の装いを考えた夜間照明を工夫しましょう。安全上必要な明るさを確保しつつも、必要以上に明るすぎず、陰影による効果的な演出を心掛けましょう。

関連する パターン

こちらも参照してください

- ・ 29 仮設の風景
- ・ 31 記憶の風景

緑の移ろいを景観にいかす

樹木は、一年中緑の葉を付ける常緑樹と、秋から冬にかけて紅葉し葉を落とす落葉樹とに大きく分けられます。これらの緑の色をうまく使うことで、まちなみは変化に富み魅力的なものになります。

これらの特徴を十分理解し、敷地に緑を配置するようにしましょう。

常緑樹（シラカシの場合）

<春>



葉がやや多めに落ちる
花がひそかに咲いている

<夏>



葉がやや落ちる

<秋>



葉がやや多めに落ちる
実（ドングリ）になる

<冬>



葉がやや落ちる

代表的な樹種

（高木・中木）アカマツ、アラカシ、イヌマキ、キンモクセイ、クスノキ、クロガネモチ、サカキ、サザンカ、サンゴジュ、シラカシ、スギ、タブノキ、ニオイヒバ、ヒマラヤスギ、モチノキ、モッコク、ヤブツバキ、ヤマモモ

（低木・地被植物）クヰメツツジ、サツキツツジ、シャリンバイ、ジンチョウゲ、センリョウ、トベラ、ヒサカキ、フッキソウ、マンロウ、ヤブコウジ

落葉樹（ソメイヨシノの場合）

<春>



花が咲く
新芽が出る

<夏>



葉が茂る
実になる

<秋>



紅葉して落葉する

<冬>



葉が完全に落ち
幹と枝ばかりの姿となる

代表的な樹種

（高木・中木）アキニレ、イチヨウ、イヌシデ、イロハモジ、ウメ、エノキ、カキ、ケヤキ、クヌギ、コナラ、コブシ、サルスベリ、シダレヤナギ、シラカンバ、ソメイヨシノ、ハナミズキ、ヒメリンゴ、ムラサキシキブ、ヤマボウシ

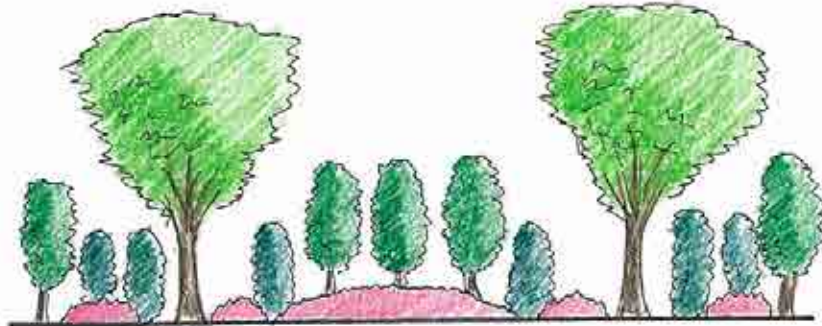
（低木・地被植物）アジサイ、ガクアジサイ、コデマリ、シモツケ、ドウダンツツジ、ニシキギ、ヒュウガミズキ、ヤマブキ、ユキヤナギ、レンギョウ

参考書籍：『110のキーワードで学ぶ 世界で一番やさしい住宅用植栽』

常緑樹や落葉樹などの種類を組み合わせると、季節によって表情が変わります。下記はそのイメージ例です。

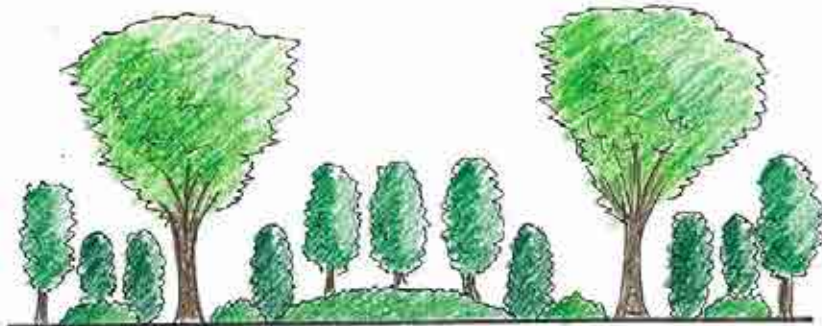
春

- ・新緑で芽吹き、若々しい緑色が印象的
- ・花卉が咲き誇り、視線が足元に集まる



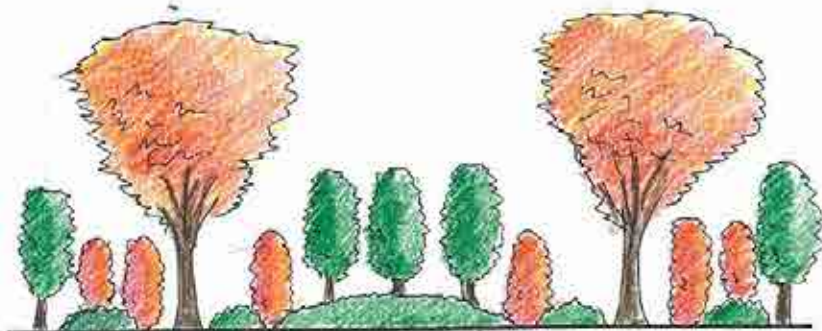
夏

- ・葉が茂り、緑の勢いが際立つ



秋

- ・落葉樹は紅葉、色づいて落葉する
- ・常緑の緑と紅葉の赤・橙などとの対比が見られる



冬

- ・落葉樹は枝のみになり、常緑樹のみが葉を残す



参考書籍：『庭木と緑化樹』

【生駒らしさの工夫】 こんなことやってみましょう

- 道行く人が季節感を感じることができるよう、通りから見えるところに植栽スペースや花を飾るスペースを設けましょう。



玄関先に季節感のある花を飾っている



里山的な植生を目指して、様々な樹種を混ぜている

- 通りから見える位置に花の咲く木や実のなる木を植えて季節感を演出しましょう。



花のなる木、実のなる木

- お店では閉店後の見え方も意識しましょう。閉店後も部分的にショーケースを照らすことなども考えてみましょう。



閉店後もショーウィンドウを照らしている

- 間接照明や複数の光源を効果的に使うことで立体感を表現することができます。



複数の光源で建物を立体的に演出している



敷地内の植栽を色温度の高い光源で効果的にライトアップしている

- 石材や木材などの自然素材などを使って、時間とともに風合いを深まることを考えてデザインしましょう。



時間を経て風合いが深まる（元町）

【生駒らしさの読み解き】 生駒らしさを感じましょう



門前町の風景（昭和40年頃） 出典：『写真で見る100年』

わたしたちは同じ風景を見ても、一人一人の経験や知識によって心に浮かんでくるものや記憶に残るものは異なります。それぞれの心に残るものこそが景観であるともいえます。多くの人の記憶に共通して残るなつかしい景観は生駒のイメージをつくるものであり、大切にしていける必要があります。

学校の校歌には、後世に伝えていきたいふるさとへの思いが託されてきました。また、古くからの地名の中には先人が土地に対して抱いた印象や思いが語り継がれてきたものがたくさんあります。これらは多くの人が持っている記憶の風景を探る手がかりとなります。

【生駒らしさのために】これだけは守りましょう

- 地域に根ざした景観をつくっていくために、先人が伝えてきた風土への思いを確認しましょう。そして、それぞれの場所の性格に応じて印象的な景観の要素となるデザインを工夫しましょう。それが多くの人の記憶に残る景観をつくれます。
- 場所の記憶を継承していくため、空間の構成を大きく変えないように配慮したり、なつかしさを感じさせるものを残すなどの工夫を考えましょう。

関連する パターン

こちらも参照して
ください

- ・ 1 生駒のシンボル・生駒山
- ・ 9 顔となる空間
- ・ 11 曲がった道
- ・ 13 通りのプロポーション
- ・ 19 なりわいがつくる景観
- ・ 20 聖なる場（パワースポット）
- ・ 22 人にあった尺度
- ・ 30 移ろいの風景

【生駒らしさの工夫】 こんなことやってみましょう

- 建物を改修するときは、もともとの建物の印象を継承すると場所の記憶を継承することができます。



もともとの建物のデザインを継承し改修したお店（元町）

- みんなの記憶にあるものはできるだけ残しましょう。そのまま残すだけでなく、象徴的な形や空間の特徴を継承するなど工夫しましょう。



かつての線路の形状をシンボル化して公園に埋め込んでいる

2. パターンを組み合わせた 景観づくり

景観の「パターン」は、生駒らしさを生み出すための個々の要素、つまり単語です。それらを文章のように組み合わせた「ランゲージ」によって、景観づくりの考え方を表現し、生駒らしい景観づくりを目指します。

そこで、具体的に建物を計画する場合を想定して、“パターン”を組み合わせた景観づくりの方法を紹介します。

2-1. 景観づくりの手順

“パターン”を活用し、敷地周りの景観の特徴をいかした計画を考えてみましょう。

まずは、建物を建てたい敷地周辺のまちなみから、“パターン”を見つけます。このパターンが、地域らしい景観を表しています。

次に、見つけた“パターン”との関係を考えながら、建物を計画するときに敷地周りの景観づくりにどのように貢献できるのか、つまり景観づくりの考え方を決めます。

そして、景観づくりの考え方に沿って、様々な“パターン”を組み合わせながら建物を計画します。

次ページから、具体的な進め方を紹介します。

(1) 敷地周辺の景観の特徴を読み取る

“パターン”を使って、敷地周辺の景観の特徴を読み取ります

(2) 景観づくりの考え方を決める

敷地周辺の景観との関係を意識しながら、景観づくりの考え方を決めます

(3) 景観づくりの考え方に沿って建物を計画する

景観づくりの考え方に沿って、“パターン”を組み合わせながら建物を計画します

2-2. 景観づくりの具体的な方法

ある敷地で中高層マンションを計画する場合を例に、“パターン”を使った具体的な方法を解説します。

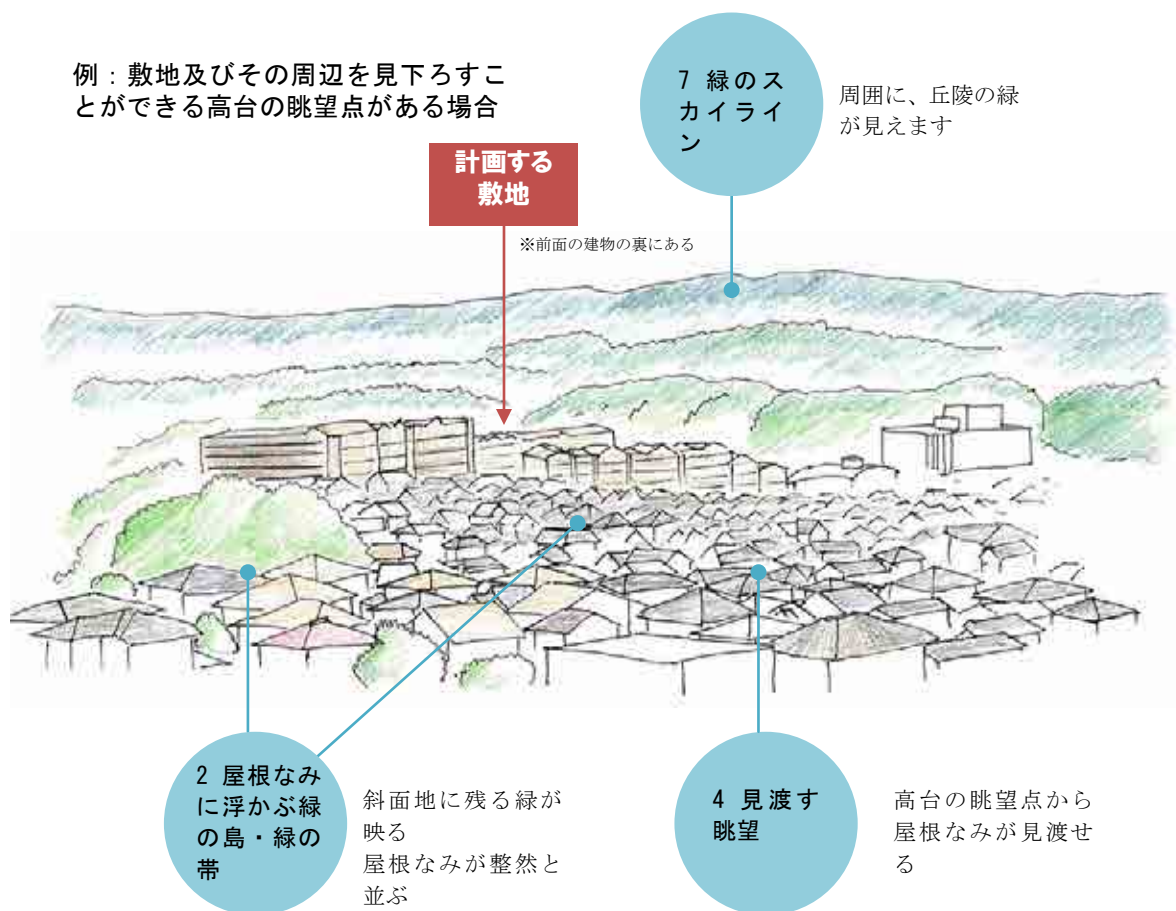
1

“パターン”を使って敷地周辺の景観の特徴を読み取ります

離れた場所からは、どのように見えるでしょうか

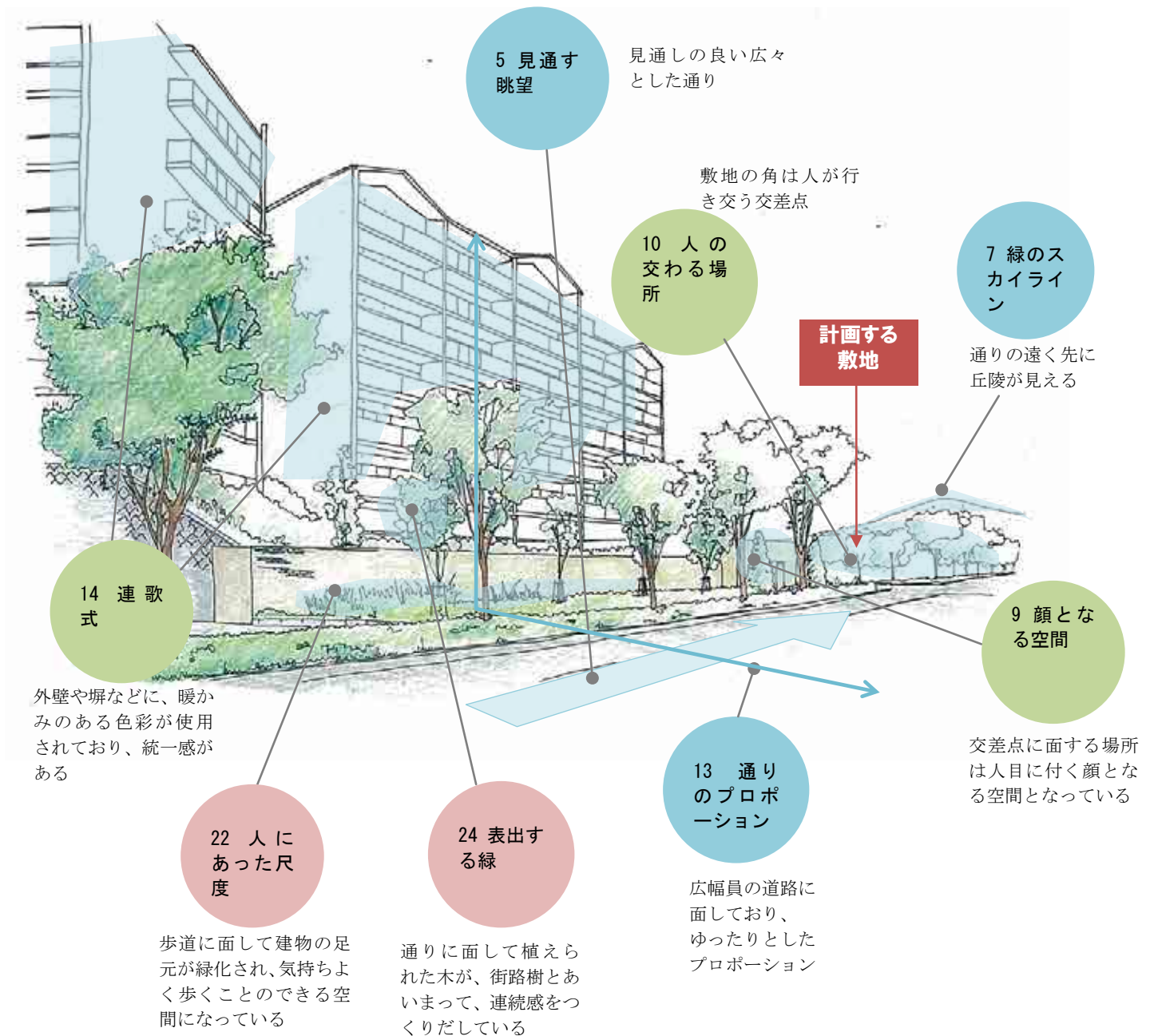
- ・計画する敷地が離れた場所からでも見える場合、どのような景観に見えるのかを確認しましょう。

例：敷地及びその周辺を見下ろすことのできる高台の眺望点がある場合

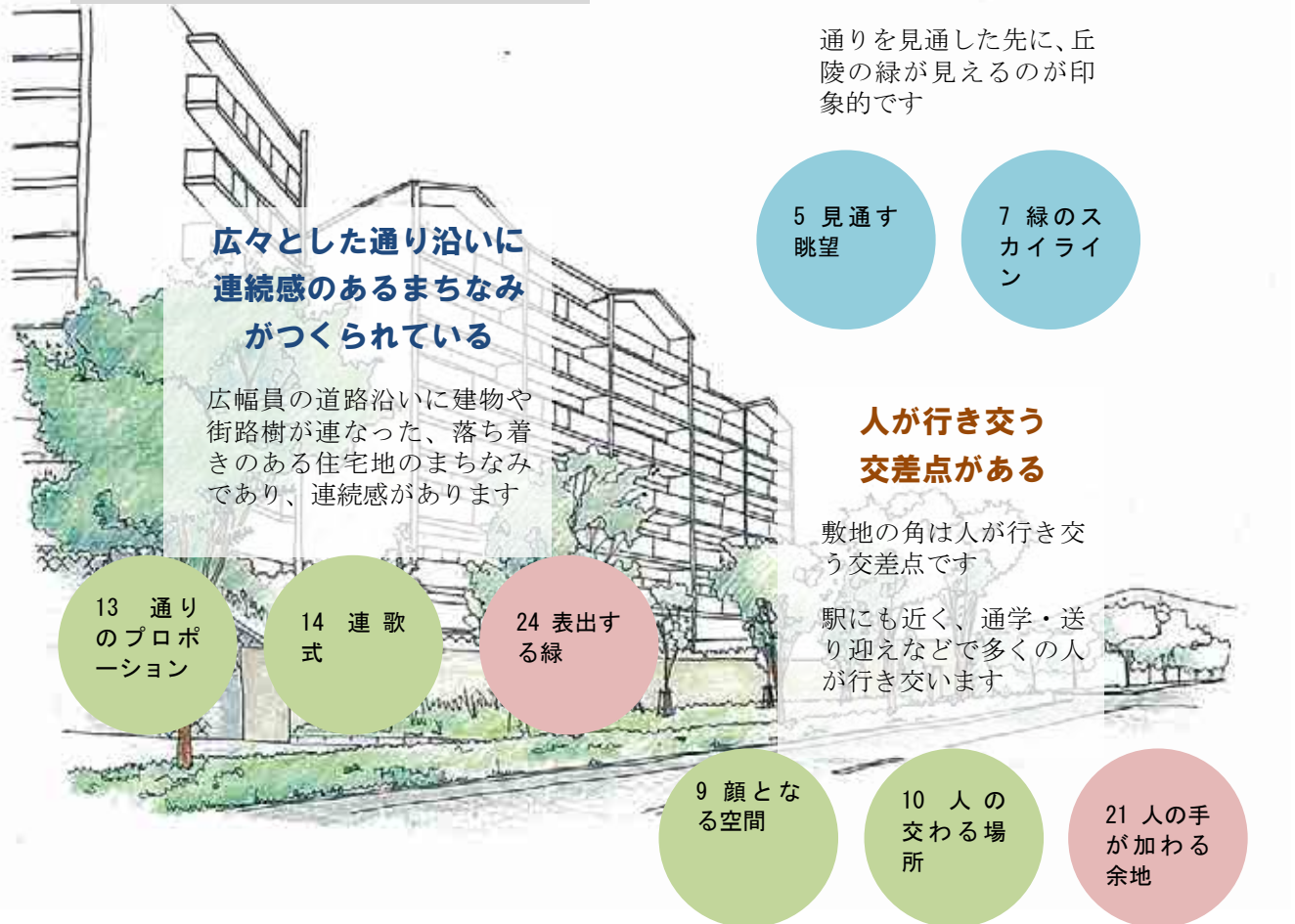


敷地が面する通りは、どのようなまちなみでしょうか

- ・敷地やその周辺、通り沿いを眺めてみて、景観上の特徴をできるだけ多く見つけましょう。



- ・建物の計画の中でどのような景観づくりを目指すかを考えてみましょう。
- ・また、そのときにどのような“パターン”が使えるかを考えましょう。



<景観づくりの考え方の例>

計画例1：丘陵の見えるすっきりとした通りの眺望をつくろう！

通りの先に丘陵の緑のスカイラインが見える眺望を大切にする

計画例2：緑に包まれた、歩いてここちのよいまちなみをつくろう！

街路樹をいかして緑に包まれたここちよく歩ける通りにする

計画例3：人々が集い、楽しく時間を過ごせるまちかどをつくろう！

人々のいきいきとした様子が表れる“辻”の空間をつくる

計画例1：丘陵の見えるすっきりとした通りの眺望をつくろう！

- 通りの先に丘陵の緑のスカイラインが見える眺望を大切にすることを考えました。建物をセットバックさせて通りに面した敷地内の空気を広く取って、ゆったりとした空間構成とし、建物の立面をすっきりとしたデザインにすることで丘陵へと視線を誘導するように工夫しました。また、通りに面した敷地内の植栽は低木とし、丘陵への見通す眺望を確保しました。

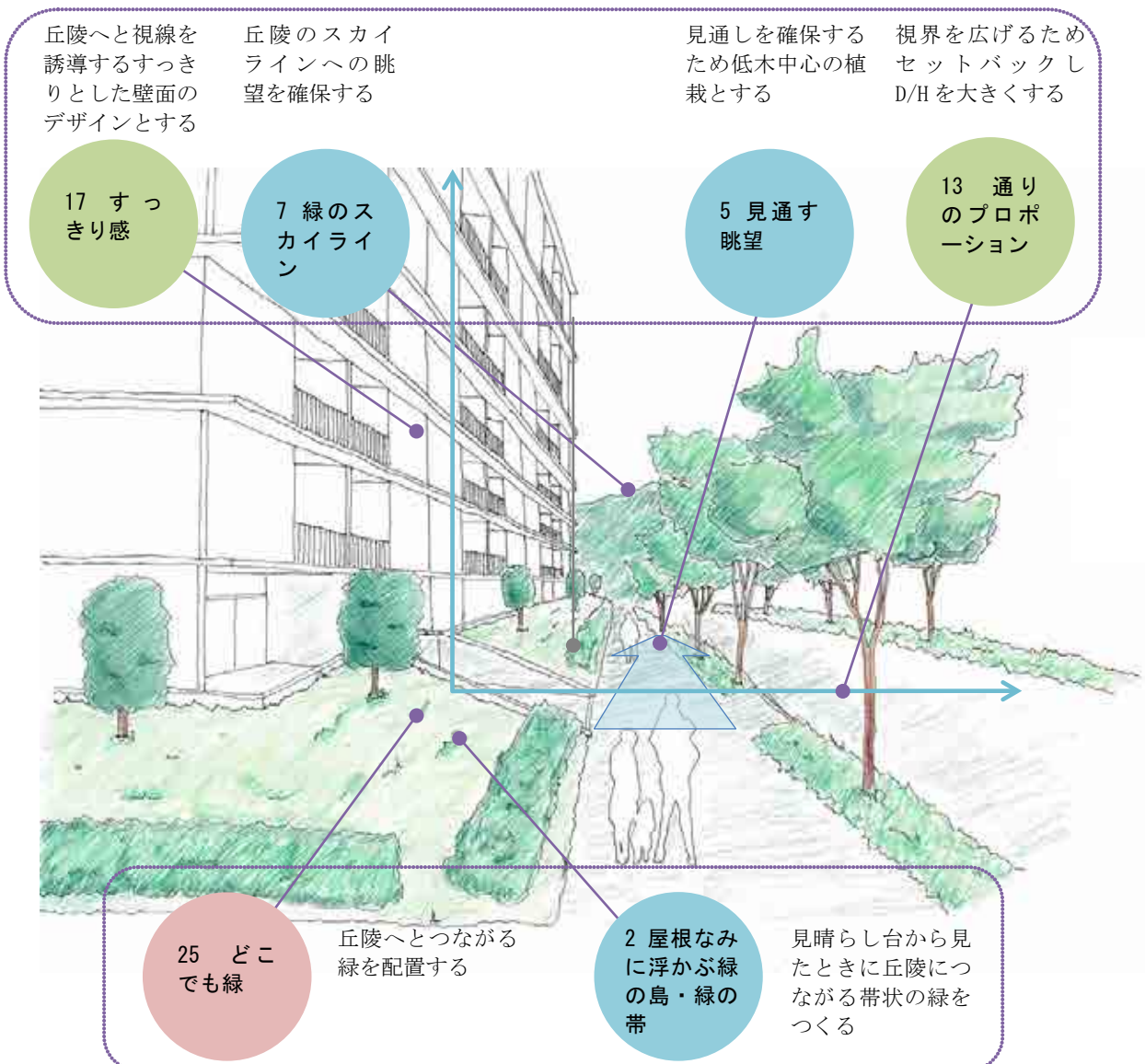
丘陵への眺望を楽しみながら歩くことができる特徴のある歩行者空間が生まれました。

<7 緑のスカイライン><13 通りのプロポーション><17 すっきり感><5 見通す眺望>

- 通りに沿って幅の広い植栽スペースを確保し、眺望を確保しながらも歩行者が緑をたくさん感じることができるよう樹種や配置を工夫しました。これにより緑の帯が丘陵の緑へとつながるよう意識しました。

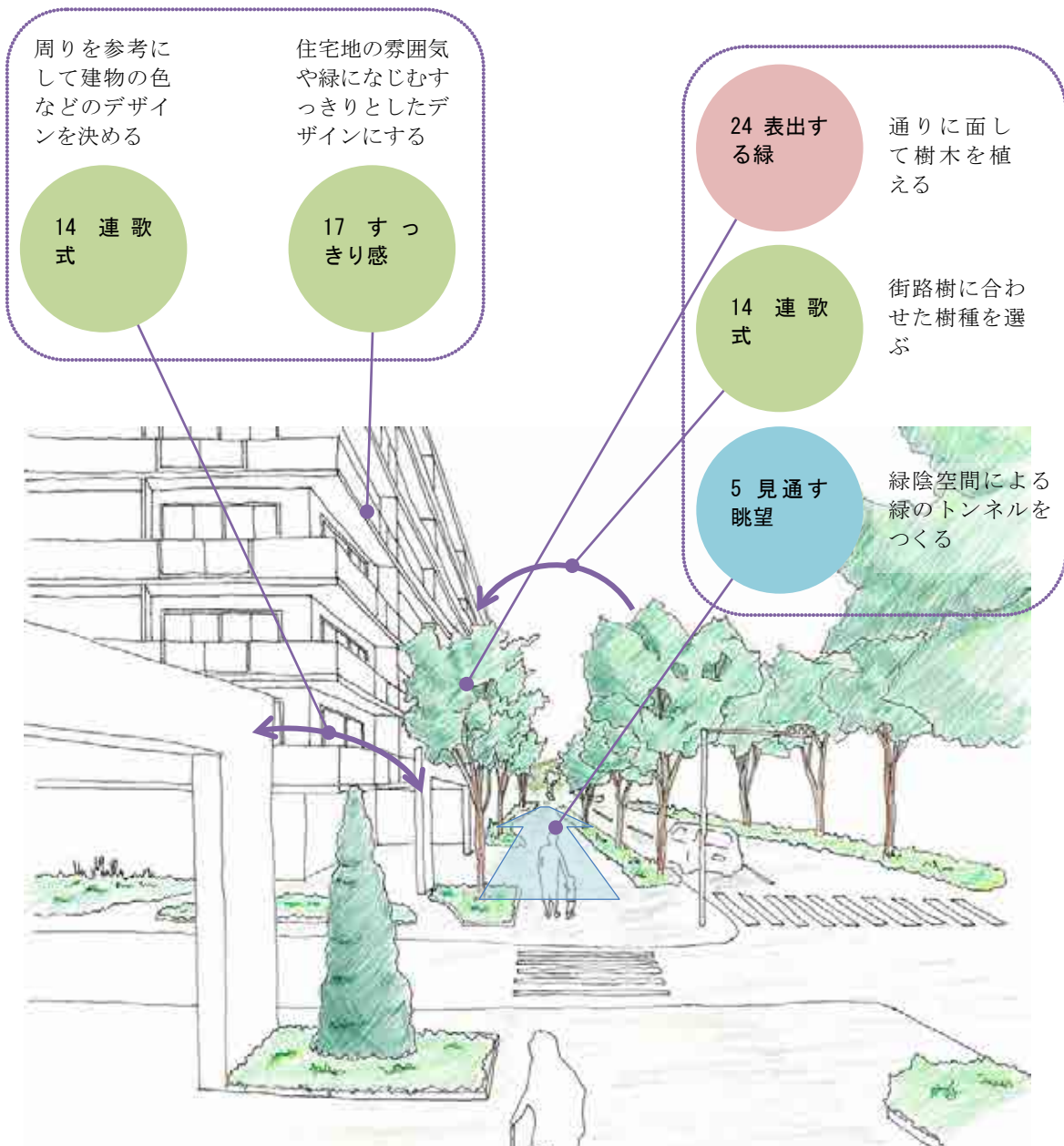
丘陵へと視線を誘導しつつ、遠くから見渡したときに緑の帯の一部にもなる緑の空間が生まれました。

<25 どこでも緑><6 屋根なみに浮かぶ緑の島・緑の帯>



計画例2： 緑に包まれた、歩いてここのよいまちなみをつくろう！

- 敷地が面する道路の豊かな街路樹をいかして、**緑に包まれたこちよく歩ける通り**にすることを考えました。敷き際にも**街路樹と同じ種類の樹木**を植えることによって歩道に**緑のトンネルのような見通し**と緑陰が生まれるようにしました。
人々が緑を感じながらこちよく散歩したり、通勤や通学の道すがらを楽しむ景観が生まれました。
 <24 表出する緑> <14 連歌式> <5 見通す眺望>
- 落ち着いた住宅地としての印象や歩道の緑になじむよう、建物の壁面の色やデザインは**周りの建物を見ながら決め、すっきりとしたデザイン**で通りに一体感を持たせました。
緑が豊かで落ち着きのある、洗練された雰囲気のおしゃれな住宅地の景観が生まれました。
 <14 連歌式> <17 すっきり感>



計画例3：人々が集い、楽しく時間を過ごせるまちかどをつくろう！

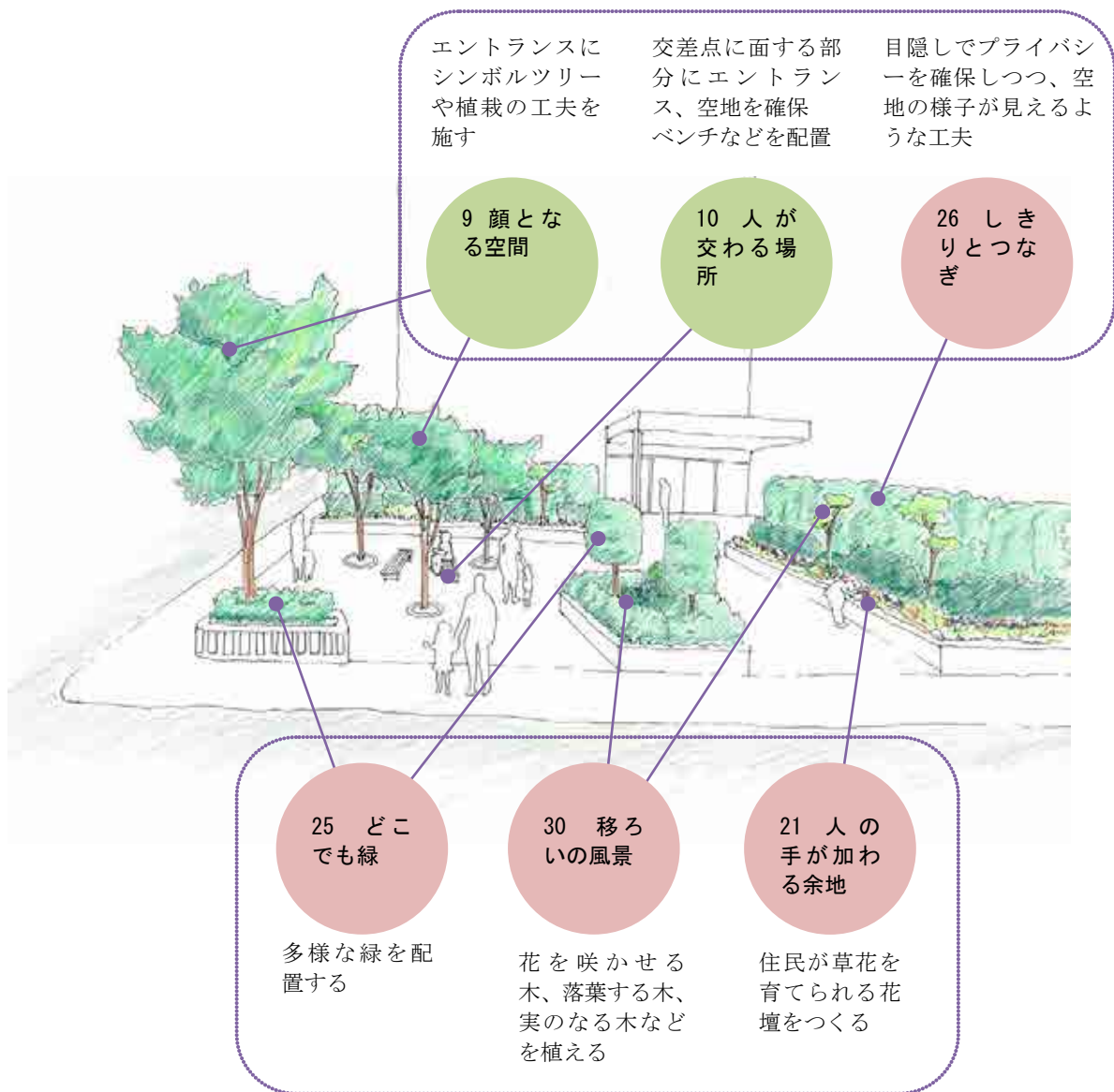
- 交差点に面する部分に建物のエントランスを配置し、まちかどを印象付けるシンボルツリーや植栽を工夫しました。また、住民が憩い、立ち話などできるベンチのある空地をつくりました。住民だけでなく地域の人々もその空間を楽しむことができます。そのため、住戸のプライバシーを確保しつつまちかどの様子がうかがえるよう、住棟との間にはほどよい目隠しを工夫しました。

幼稚園の送り迎えなどで立ち話をする人、ベンチに座って休憩する人など、人々のいきいきとした様子が表れる“辻”の空間が生まれました。

<9 顔となる空間><10 人が交わる場所><26 しきりとつなぎ>

- 紅葉する木、花を咲かせる木、実がなる木など季節の移ろいを楽しむことができる樹種を混ぜて充実した緑にするとともに、住民が管理にかかわることができる花壇を設けました。住民が自分たちで草花を育て季節が移ろう風景を楽しみ、道行く人たちも、咲き誇る花の様子を楽しんでいる景観が生まれました。

<30 移ろいの風景><25 どこでも緑><21 人の手が加わる余地>



第4章 身近なまちの景観づくり

第4章では、立場の違いやまちの特徴に沿った身近なまちの景観づくりの方法を示します。

1. 身近なまちの景観づくりに向けて

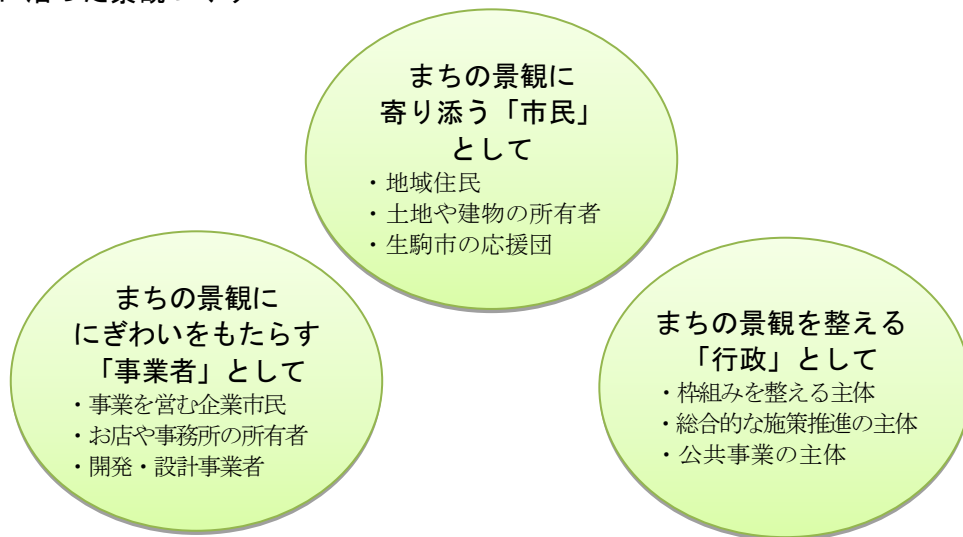
ここまで、生駒らしい景観の特性や“パターン”を説明してきましたが、では具体的に景観づくりを進めていくためにはどうすれば良いのかをこの章では解説していきます。

一言に景観づくりといってもかかわる人の立場や地域のまちの特徴は様々で、それらに応じてできることなども変わってきます。そうすると、景観づくりを具体的に進めていくためには、立場の違いやまちの特徴に沿って取り組んでいくことが有効になります。

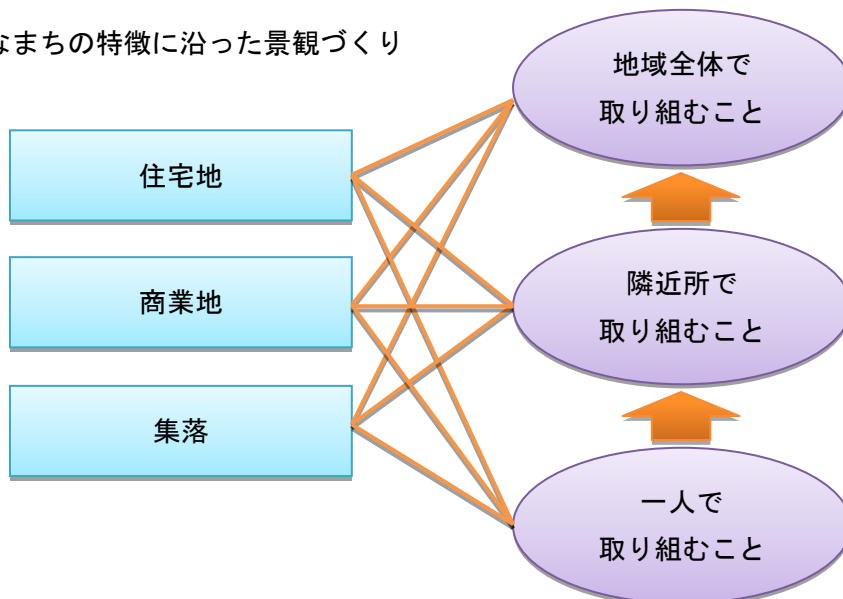
まずは立場の違いを説明し、それぞれに沿った考え方や、取組のヒントなどを解説しています。その上で、身近なまちの特徴に沿ってどのように取り組んでいけば良いのかを解説しています。

これらを参考にさせていただいて、一人で取り組むことから、隣近所と一緒に、さらには地域全体へと景観づくりが広がっていくことをイメージしています。

立場に沿った景観づくり



身近なまちの特徴に沿った景観づくり



2. 立場に沿った景観づくり

景観づくりにかかわる人は様々です。生駒市に住んでいるという立場もあれば、生駒市で事業をしているという立場もあります。さらには、昔は生駒市に住んでいたり、働いていたけれども、今は離れてしまっているという立場もあると思います。

ここでは、そのような立場を「市民・事業者・行政」とし、それぞれの立場に沿った考え方や取組のヒントを解説しています。

1 まちの景観に寄り添う「市民」としての景観づくり

暮らしが目に見える形となって表れたものが景観ですから、まちの景観にとって最も近い存在は「市民」という立場ではないでしょうか。そうすると、市民一人一人の活動が景観づくりの出発点になりそうです。自分が住むまちに目を向け、景観というものを意識し、行動を起こしてみる。それが次第に周囲に広がっていけばまちの景観も良くなっていきます。しかし、一言に市民といってもいろいろな立場がありますので、どんな立場があるか考えてみます。

<例えば、毎日の暮らしの中で>

- まずは暮らしている地域の景観にはどんな特徴があるか“パターン”を参考にして考えてみてください。それが景観づくりの第一歩です。特徴をいかすにはどんなことをすれば良いか考えてみてください。
- 考えたことを実際にしてみてください。特別なことをする必要はありません。簡単にできることから始めてみてください。隣近所の方と相談してみるのも良いかもしれません。

<例えば、家を建てる時>

- 家を建てる時や改修するときには、その場所をいろいろな所からみてください。そしてどんな特徴があるか“パターン”を参考に考えてみてください。
- 特徴をいかすにはどんな計画にすれば良いか考えて、実際の建築に反映してみてください。

<例えば、生駒市の応援団に>

- 生駒市に通勤や通学する人、観光などで訪れる人、また故郷が生駒市である人など、いろいろな形で生駒市とつながりを持った人も、広い意味での「市民」ではないで

しょうか。

- そのつながりも何かの縁です。生駒市で「これ良いな」とか「こんな良い所があったんだ」と思うことがあれば、かかわりのある人に積極的に紹介してください。褒められれば誰でもうれしいですね。

2 まちの景観ににぎわいをもたらす

「事業者」としての景観づくり

暮らしの中のにぎわいの場面の一つに、買い物や外食といった事業活動があります。今や暮らしとは切り離せない存在である事業活動。その事業活動をする事業者は景観づくりの重要な立場といえます。企業としての考え方も大切ですが、地域の中で事業活動を続けるには、地域の理解も大切です。短期的にはメリットが少ないように思える景観づくりの活動も、長い視点で考えればプラスになることがあるはずです。

<例えば、毎日の事業活動の中で>

- まずは事業所などのある地域の景観にはどんな特徴があるか“パターン”を参考にしてみてください。それが景観づくりの第一歩です。
- 特徴をいかし、事業活動に役立つにはどんなことをすれば良いか考えてみてください。
- 考えたことを実際に行ってみてください。難しく考えず、事業所の周辺の清掃や敷地の緑化、季節に合わせたディスプレイの演出など、おもてのなしの心がまちの景観を豊かにします。

<例えば、お店や工場を建てる時>

- 事業所などの建物を建てたり改修したりするときは、その場所をいろいろな所から見てください。そしてどんな特徴があるか“パターン”を参考に考えてみてください。
- 自社のコーポレートアイデンティティも大切ですが、地域の景観のシンボルとなるような、あるいは地域の景観づくりに貢献できるような計画を考えましょう。

<例えば、開発や建築の事業者として>

- 開発や建築に携わる事業者は、景観づくりのプロであるといえます。市内で事業を行うときには、地域の景観をしっかりと読み解き、お手本となるようなまちや建物になるようにしましょう。
- 地域の景観を高める開発や建物は、不動産としての価値をより高めることにもつな

がります。

3 まちの景観を整える「行政」としての 景観づくり

生駒市の景観づくりの方向性と将来像を示すとともに、景観づくりにかかわる諸制度の効果的な活用を検討し、市民・事業者の積極的な取組を促進するための意識を高める機会を増やし、良好な景観づくりにかかる活動を支援します。また、公共公益施設などの整備にあたっては、地域の特性を踏まえた景観づくりを先導する役割を担います。

具体的な施策などについては5章で詳しく説明します。

<景観づくりの枠組みを整える主体として>

- 本計画に基づき、市民・事業者の意向などを踏まえながら、良好な景観づくりに向けて各種施策を立案し、推進します。
- 市民・事業者が自ら主体的に景観づくりに取り組めるよう、必要となる仕組みを整え、取組が広がるような支援を行います。

<総合的な施策推進の主体として>

- 景観行政だけではなく、環境・福祉・観光・コミュニティなど、様々な分野の施策を進める主体として、連携を図りながら、総合的に景観づくりに取り組みます。
- 良好な景観づくりに向けて、景観以外の分野の施策にも景観の考え方を反映させたり、関係する施策などが連携・協調して取り組めたりできるような調整を行います。

<公共事業の事業主体として>

- 公共施設を整備する主体として、道路・河川・公園などの公共施設や公共建築物を整備するときは、その地域の景観を方向付けるものであるということを認識し、先導的な役割を担えるよう取り組みます。

2. 身近なまちの特徴に沿った 景観づくり

「身近なまち」とは、自分の家があるまち、自分の事務所やお店があるまちなど、ひとまとまりのまち（地域）と認識できる範囲を指します。

これらの身近なまちでは、それぞれに特徴があります。自分が住んでいる、あるいは事業を営んでいるまちの特徴に応じた方法で取組を進めていくことが大切です。ここでは計画的に開発された「住宅地」、駅前や幹線道路沿いなどの「商業地」、古くからの生活文化を今に伝える「集落」のそれぞれについて、景観づくりのアプローチを示します。

1 「住宅地」での景観づくり



計画的に開発された住宅地が多いことは住宅都市としての生駒の特徴でもあります。一人一人が“パターン”も参照しながら、住みよい、暮らしやすいまちをつくっていくためにできることを考えてみましょう。

自分の家の「建物・敷地」は、自分とまちの景観とがつながる最も小さな単位です。ま

ちの景観を豊かにするための第一歩は、個々の建物・敷地を魅力的にすることです。まずは一人でもできることからはじめてみましょう。

そうして、一軒から数軒、さらに通り、街区へと広げていくことができれば、まちの景観は変わっていきます。住宅地は集落と比較すると、個人の住宅以外にみんなで管理する共用の空間が少ないため、コミュニティの形も集落とは異なっています。個人の取組を地域全体に広げていくためには、みんなが公共心を育んでいくことも住宅地で景観づくりに取り組むときの重要なテーマです。

○自分の建物や敷地でできる演出を考える

自分の建物や敷地はもちろん個人のもですが、道路から見える建物の壁面、あるいは道路に接する敷地の空間などは、自分の建物や敷地とまちとをつなぐ大切な空間でもあります。これらの空間にちょっとした心配りや演出を加えると、日々の暮らしも楽しくなるし、周りの人も楽しい気分させてくれます。家の軒先や敷地の道路に面した空間を使って、できることを考えてみましょう。

<こんなことに取り組んでみましょう>

- ・敷地を使って、ガーデニング・オープンガーデン（庭先を公開して見てもらう取組）をしたり、季節に応じて、玄関先や窓・塀などに花を飾ったりしましょう
- ・敷地内の整理整頓や掃除に取り組みましょう

○隣近所で協力してできる演出を考える

隣近所に声をかければ一緒に協力してできることがあります。通りに演出を広げると、景観がいきいきとしたものになってきます。「それ、良いね!」ということになれば、オセロゲームのように広がっていくこともあります。通りを良くするために自分たちが良いなと思うことをやってみませんか。

<こんなことに取り組んでみましょう>

- ・隣近所と協力して植栽や花壇を配置したり、ガーデニング、オープンガーデン（庭先を公開して見てもらう取組）をしたり、季節に応じて、玄関先や窓・塀などに花を飾ったりしましょう
- ・祭りなどに応じて、華やかな演出を取り入れましょう
- ・自分の敷地からちょっと周りを掃除することで、通りを美しくすることができます。清掃活動に取り組みましょう

○新築・建て替え・改修時に通りとの関係を意識する

現在の建物に対してすぐに景観に配慮した工夫を取り入れるのは難しいこともありますが、新しく建てる時、あるいは建て替えや改修を行うときには、是非とも通りや周

辺に目を向けてみてください。そして“パターン”を参照しながら、自分の建物のデザインを考えてみましょう。

<こんなことに取り組んでみましょう>

- ・“パターン”を手がかりにして通りの特徴を読み解き、自分の建物でできるデザイン上の工夫を考えてみましょう

例:「しきりとつなぎ」を考えると、うちの住宅地は塀や生垣がしっかりとしたところだから、その連なりを意識してみよう。お隣にあわせた工夫をしないと、つながりができないものね。

○公園を活用する

住宅地には、人々が憩いの場として利用できる空間として公園が整備されています。身近に公園がある場合、その使い方や育て方をみんなで一緒に考え、楽しい活動に取り組んでみませんか。

<こんなことに取り組んでみましょう>

- ・自分たちのまちにある公園を使って、地域で身近な公園の使い方や育て方などを話し合きましょう
- ・住宅地の住民で協力して、花飾りや、清掃活動など、公園を気持ち良く演出する取組を企画、実施してみましょう

○周りの自然とのかかわりを育む

住宅地の周辺に樹林地などの緑の空間や小河川など、住宅地と一体となった自然豊かな空間がある場合、それらの自然とのかかわりを育むことも大切です。

樹林地は多くが私有地であることが多いですが、市内ではそうした樹林地を住宅地の住民が管理し、きれいに整えている取組もあります。自分たちの住宅地の魅力を守り育てるために、みんなで協力してかかわりを育んでいきましょう。

<こんなことに取り組んでみましょう>

- ・周辺の樹林地、小河川などの自然空間の維持管理に取り組みましょう

○コミュニティの行事にかかわる

自治会では住民相互の交流や、より良い地域づくりのための活動に取り組んでいます。これらのコミュニティの活動も景観づくりにはとても重要なものです。人の手が加わることでいきいきとした暮らしの様子が垣間見え、住んでいる人も誇りや愛着を持って暮らしていくことができます。また、こうした取組をきっかけとして、様々な人とのつながりが広がり、ますます友達が増えて楽しくなることもあります。

<こんなことに取り組んでみましょう>

- ・自治会や子ども会、婦人会など、コミュニティで取り組まれている活動に参加しましょう
- ・お祭りや清掃活動など、地域での行事に参加しましょう

○まちなみのルールを考える

望ましいまちなみの姿を話し合い、地域でルールを定め、それに則した景観づくりをお互い守っていくことで、将来にわたるより良いまちなみづくりにつながります。

“パターン”を参照しながら、自分たちのまちで「これは取り入れた方が良い」「これはうちのまちには合わない」といったことを話し合い、考え方をまとめてみてはどうでしょうか。

<こんなことに取り組んでみましょう>

- ・タウンウォッチングをして、自分たちのまちの特徴を話し合いましょう
- ・すでにルールが定められている住宅地のことを勉強しましょう
- ・自分たちのまちの望ましい姿、ルールについて話し合いましょう

【「住宅地での景観づくり」に活用できる支援制度】

- ・景観アドバイザーから技術的なアドバイスを受けられる相談窓口を設けています
- ・地域のみなさんが主体となって身近な公園の使い方や育て方などについて話し合い、市と協働でより良い公園にリニューアル（再整備）できるコミュニティパーク事業を実施しています
- ・市民の森、樹林地バンクなど、身近な緑を所有者の理解のもと守るための制度を用意しています
- ・地域のみなさん自らがまちなみを守るためのルールを担保する仕組みとして、地区計画制度や景観協定制度などを用意しています

2 「商業地」での景観づくり



生駒には生駒駅を中心に商店街や大型の商業施設などが集まり、多くの人が行き交うにぎわいある景観をつくっています。また幹線道路の沿道ではいろいろなお店もあり、路線型のにぎわいも見られます。

にぎわいの演出は節度や一定の統一感を持ったものであればこちよい景観づくりに寄与しますが、過度な演出は雑然さが目立つこととなります。にぎわいを表現しながら全体として一定の調和を保つことが、結果的に商業地の集客の増加、ブランドの向上などにもつながります。

商業地では住宅地や集落とは異なる景観づくりのアプローチが必要になります。

○自分のお店の軒先でできる演出を考える

お店の軒先は商品をディスプレイする場所ですが、同時に自分のお店や敷地とまちとをつなぐ大切な空間でもあります。これらの空間にちょっとした心配り、演出を加えると、商品も映えますし、訪れる人を楽しい気分になさせてくれます。お店の軒先や敷地の道路に面した空間を使って、おもてなしの気持ちが表れた空間づくりを考えてみましょう。

<こんなことに取り組んでみましょう>

- ・商品の特徴を意識し、それらがお客さんに見やすく分かりやすいような陳列を心掛けましょう
- ・季節感を表す演出、ディスプレイに取り組みましょう
- ・軒下の空間の整理整頓や掃除に取り組みましょう

○通りで協力してできる演出を考える

隣近所に声をかければ一緒に協力してできることがあります。商店街では催事的时候可以に各お店が協力してのぼりなどで華やかな雰囲気を出しています。通りで演出を広げると、景観がいきいきとしたものになってきます。「それ、良いね!」ということになれば、オセロゲームのように広がっていくこともあります。通りのために良いなと思うことをやってみませんか。

<こんなことに取り組んでみましょう>

- ・隣近所と協力して、祭りなどに合わせて、華やかな演出を取り入れましょう
- ・自分の敷地からちょっと周りを掃除することで、通りを美しくする清掃活動に取り組みましょう

○新築・建て替え・改修時に通りとの関係を意識する

現在の建物に対してすぐに景観に配慮した工夫を取り入れるのは難しいこともありますが、新しく建てる時、あるいは建て替えや改修を行うときには、ぜひとも通りや周辺に目を向けてみてください。そして“パターン”を参照しながら、自分の建物のデザインを考えてみましょう。

<こんなことに取り組んでみましょう>

- ・“パターン”を手がかりにして通りの特徴を読み解き、自分の建物でできるデザイン上の工夫を考えてみましょう

○共用施設を維持管理する

街路灯やアーケード、施設内の歩道空間など、商業地には各お店が共同で維持管理する共用施設があります。こうしたところの維持管理が行き届いていると、訪れる人にとっても気持ちの良いものです。

<こんなことに取り組んでみましょう>

- ・商店街で協力して、街路灯やアーケード、歩道空間などの維持管理に取り組ましましょう
- ・商店街で協力して、花飾りや、清掃活動など、共用空間を気持ち良く演出する取

組を企画、実施してみましよう

○商店街の行事にかかわる

商店街では、販促のためのイベントや、季節毎のお祭りなど、にぎわいを演出するために協力して取り組んでいる行事があります。まちのにぎわいが個店の売り上げアップにもつながるので、ぜひとも参加してみませんか。

<こんなことに取り組んでみましよう>

- ・お祭りや清掃活動、販促イベントなど、商店会などで取り組まれている活動に参加しましよう

○商業地のまちなみのルールを考える

望ましいまちなみの姿を話し合い、地域でルールを定め、それに則した景観づくりをお互い守っていくことで、将来にわたるより良いまちなみづくりにつながります。

“パターン”を参照しながら、自分たちのまちで「これは取り入れた方が良い」「これはうちのまちには合わない」といったことを話し合い、考え方をまとめてみてはどうでしょうか。

商業地では、個店がそれぞれバラバラに取り組みがちですが、一定の統一感やルール、マナーをきちんと守りながら個性を發揮して競い合っている商店街は、ブランドも高まり、集客力もアップします。

<こんなことに取り組んでみましよう>

- ・商店街で軒先の演出、商品の陳列などのマナーについて話し合ってみましよう
- ・すでにルールが定められている商業地のことを勉強しましよう
- ・自分たちのまちの望ましい姿、ルールについて話し合いましよう

【「商業地での景観づくり」で活用できる支援制度】

- ・景観アドバイザーから技術的なアドバイスを受けられる相談窓口を設けます
- ・商店街などが中心となってまちなみを演出する取組を支援する制度を用意しています
- ・商店主自らがまちなみを守るためのルールを担保する仕組みとして、地区計画制度や景観協定制度などを用意しています

3 「集落」での景観づくり



生駒らしい景観の特性でも示しているように、生駒には集落が各地に分布しており、それぞれコミュニティの強いつながりから、その暮らしの中で育まれた、言わば地域に根ざしたデザインを現在に継承しています。しかし、コミュニティも変わりつつある現在では、かつてのつながりが薄れてきています。それぞれの集落が育んできた暮らしの文化や伝統を見つめ直す作業を行いながら、これからの景観づくりの取組を考えてみましょう。

○周りとの調和を意識する

集落は、住宅地と比べてコミュニティのつながりから生まれた景観上の特性が色濃く表れている地域と言えます。そのため、まず意識すべきは、周りとの調和です。“パターン”も参照しながら、集落の景観を乱さないように周りとの調和を意識した景観づくりに取り組みましょう。

<こんなことに取り組んでみましょう>

- ・昔のことを良く知る人や地元の大工さんなどに昔の話を聞いてみましょう
- ・建物を建てる時には、周りの建物の特徴を見て、自分の建物のデザインを考えましょう

○共用の空間を守る

集落には信仰に根付いた空間として、お地蔵さんやモリさん、墓地や寺院などがあり、昔から集落の住民に大切に受け継がれてきています。地域の歴史・言い伝えとともに、こうした空間を大切にしていきましょう。

また、集落の住民が協力して道普請などを行う「出会い仕事」が今も継承されている地域がたくさんあります。道やため池などの共用の空間を当たり前のようにみんなで守る取組は集落ならではのものであり、集落の景観を守っていく上でも大切な役割を果たしています。

<こんなことに取り組んでみましょう>

- ・お地蔵さんやモリさん、墓地、寺院など共用の空間の維持管理に取り組みましょう
- ・道やため池などの共用の空間を地域で守る取組に参加しましょう

○集落の周りの自然とのかかわりを育む

住宅地と同様、集落の周囲にも、樹林地などの緑の空間や小河川など、集落と一体となった自然豊かな空間がある場合が多く、水利などともかかわることから大半は地域の住民によって所有し管理されています。

それらの自然とのかかわりを、引き続き住民で協力して育んでいきましょう。

<こんなことに取り組んでみましょう>

- ・周辺の樹林地、小河川などの自然空間の維持管理に取り組みましょう

○コミュニティの行事にかかわる

自治会では住民相互の交流や、より良い地域づくりのための活動に取り組んでいます。これらのコミュニティの活動も景観づくりにはとても重要なものです。人の手が加わることでいきいきとした暮らしの様子が垣間見え、住んでいる人も誇りと愛着を持って暮らしていくことができます。また、こうした取組をきっかけとして様々な人とのつながりが広がり、ますます友達が増えて楽しくなることもあります。

<こんなことに取り組んでみましょう>

- ・自治会や子ども会、婦人会など、コミュニティで取り組まれている活動に参加しましょう
- ・お祭りや清掃活動など、地域での行事に参加しましょう

○まちなみのルールを考える

集落では、家屋のデザインなどに対して暗黙のしきたりがあり、わざわざ意識することがなくても整った集落の景観が形づくられてきました。しかし、こうした技法はもしかしたら世代交代とともに失われていくかもしれません。“パターン”も参照しながら、集落の特徴を紐解き、まちなみのルールを考えてみませんか。

<こんなことに取り組んでみましょう>

- ・自分たちのまちの望ましい姿、ルールについて話し合みましょう

【「集落地での景観づくり」で活用できる支援制度】

- ・景観アドバイザーから技術的なアドバイスを受けられる相談窓口を設けます
- ・集落のみなさん自らが集落のまちなみを守るための取組を支援する制度を用意しています

第5章 景観形成の推進施策

第5章では、生駒らしい景観づくりを推進するために市が取り組む施策を示します。

1. 景観形成を推進するための施策の枠組み

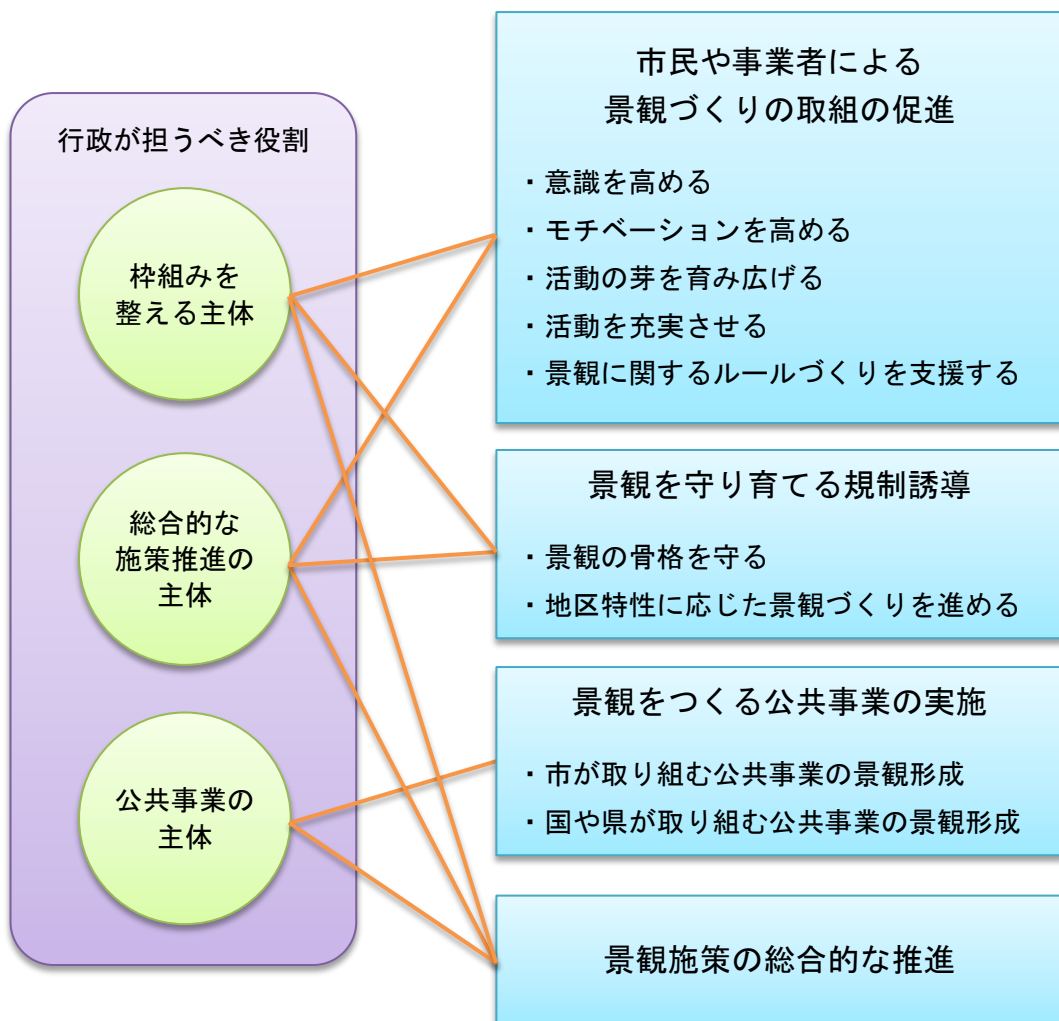
景観形成における行政の役割を果たしていくため、景観形成を推進するための施策に取り組んでいきます。

まず、生駒らしい景観を守りつっていくためには、一人一人が生駒の景観を意識し、生駒らしい景観の形成に向けて取り組んでいくことが重要です。そのため、市民や事業者の取組を促進するための施策を推進します。

また、景観の保全や育成を目指して規制誘導を行っていくため、各種の法制度を活用した規制誘導の仕組みをつくりまます。

さらに、公共事業の主体としての役割を果たすため、公共事業における景観づくりの取組を進めます。

こうした景観施策は、様々な関連分野と連携しながら総合的に推進していきます。



2. 市民や事業者による景観づくり の取組の促進

景観づくりは市民・事業者・行政がそれぞれの役割に応じて取組を進めていくことが必要です。市は、市民や事業者による景観づくりの取組を促進するため、意識やモチベーションを高めるとともに、活動を育み、支援していきます。

1 意識を高める

景観づくりの理念を共有し、生駒らしい景観の特性を認識した上で景観づくりを進めていくためには、まず、一人一人が景観に対して関心を持ち、身近にできる小さなことから取組への一步を踏み出していくことが必要です。

そのために、市民・事業者、また行政職員が景観に対する関心を高めることができるよう、様々な機会をとらえて働きかけを行います。

一方、最近では市民が楽しみながら、また事業者が社会貢献として景観づくりに関連する活動に取り組む事例も増えてきています。押しつけではなく、「それ、良いね！」という共感の輪を広げていくことも重要です。

(1) 良好な景観イメージを発信する

緑豊かな住宅地のイメージを含めた生駒の持つ多様な景観の良さを、積極的に外部に発信していくことが大切です。生駒の景観の良さをアピールすることで、市民の生駒に対する愛着や誇り、事業者のこだわりが醸成されることが期待されます。

- ・良好な景観を発信する普及・啓発のツールづくりに取り組みます
- ・広報（市報・ホームページ）、観光、産業などといった取組とも連携しながら、生駒の良好な景観のイメージの発信に取り組みます

(2) 身近にできるまちのかかわり方を発信する

散歩やウォーキング、日常の清掃活動、庭や公園での花づくりなど、身近なところからまちとかかわることが景観づくりの取組への第一歩にもなります。趣味や関心に応じて楽しみながらまちにかかわる、そんな姿勢や取り組み方をいろんなツールを使って発信していくことで取組の和を広げていきます。

- ・市内で展開されている、景観づくりにつながる様々な取組の情報集約・発信に取り組みます
- ・市民や事業者が楽しみながらまちとかかわり、共感を広げていけるような取組を促します

(3) 生駒らしい景観づくりの考え方を広める

本計画で紹介した生駒らしい景観の特性や“パターン”について、市民・事業者・行政みんなが理解を深めることが大切です。また、“パターン”を使った生駒らしい景観づくりの考え方や方法について、市民・事業者・行政が共有していくことが必要です。

本計画で示している“パターン”は基本的なものだけであり、さらに地域ごとの景観の詳細な読み解き作業に多くの人がかかわりながら取り組むことで、“パターン”をより充実したものとしていくことができます。

- ・“パターン”や、それらを使った工夫を分かりやすく解説し、計画・設計の手がかりとなるよう、様々な媒体を使って情報提供していきます
- ・市民・事業者が地域の景観の特徴について学ぶ機会づくりに取り組みます
- ・建築士などの専門の方と一緒に、“パターン”を理解し、さらに深めていくための機会づくりに取り組みます
- ・市民・事業者がまちなみ、建造物、樹林地、眺望点など、様々な観点から生駒の景観の良いところを探す取組を通じ、“パターン”を見出し、より充実したものとしていきます

(4) 景観学習・教育を進める

小中学校をはじめ、高校や大学などでも取り組まれている地域学習や地域の人とかかわる教育プログラムは、景観に対する素養を深める上でも非常に役に立つものです。また、これらの取組の成果として、子どもたちを通じて大人も景観について関心を持つきっかけとなることも期待されます。このため、子どもたちが景観について学べる機会や環境をつくっていきます。

あわせて、子どもたちだけでなく大人も様々な切り口から景観に触れ、楽しみながら景観を知り学ぶ取組を進めます。

- ・子どもたちや学生が景観について知り学ぶための景観教育に取り組むとともに、普及・啓発用のツールづくりに取り組みます
- ・景観教育に関連する市民・事業者の取組を広げます
- ・「いこま塾」「花とみどりの楽校」をはじめとして、市民・事業者が景観を知り学ぶ機会づくり（まちあるき、写真募集など）の取組を広げます

2 モチベーションを高める

市民や事業者が、より積極的に生駒らしい景観づくりに取り組めるようにモチベーションを高めるための仕組みを整え、景観に影響を与える計画や事業がより良い景観づくりへと向かうように方向性を示すなどの仕組みを整えていきます。

(1) 優れた取組を讃える

市民や事業者が元気に楽しく、またやりがいを感じながら積極的に活動していけるよう、優れた取組を讃える仕組みを整えていきます。

- ・優れた取組を表彰し周知する仕組みを整えます
- ・市民・事業者同士でも良いところを見つけ、褒めるような取組を促します

(2) メリットにつながる仕組みや環境を整える

景観づくりの取組が景観形成はもとより、暮らしの充実感や経済的なメリットにつながることでモチベーションを向上させる仕組みを整えていきます。

このため、暮らしの質（QOL）を高めることにもつながる景観上の工夫を紹介したり、開発事業などにおいて、周辺地域の景観と調和し、良好な景観の形成を先導する取組を周知する仕組みを整えていきます。

- ・生活環境に応じた景観づくりの工夫例を紹介するような情報発信を進めます
- ・良好な景観形成を先導する開発事業などを認定し、周知する仕組みを整えます
- ・生垣設置などまちなみ景観の向上に寄与する取組への助成の仕組みを整えます

3 活動の芽を育み広げる

市民・事業者が景観づくりに関する取組をより円滑に、また効果的に進められるよう、行政が取組を応援する仕組みを整えます。

(1) コミュニケーションが生まれる場をつくる

個人が景観に対して関心を持ち始めた後は、まずは市民同士でわいわいがやがやと会話を楽しみながらお互いに意識を高め合い、連携のためのつながりやきっかけを育むことができる機会をつくれます。

- ・現在取り組まれている井戸端会議など、様々な市民が気軽に集まって交流できる場づくりを支援します

(2) 景観上価値のあるものの保全を支援する

市民や事業者が所有する建築物や樹林地など、景観上の価値があるものの保全をみんなで支えていくための仕組みをつくれます。

- ・景観上価値のある建築物などに対して、「景観重要建造物」「景観重要樹木」などの制度を活用し、保全のための所有者の負担を軽減する仕組みを整えます
- ・「樹林地バンク」「市民の森」などの制度を活用し、樹林地の所有者と利活用をしたい市民・団体との仲介を行う仕組みを整えます

4 活動を充実させる

市民・事業者による景観づくりに関する取組をより充実させていくために行政が応援する仕組みを整えます。

(1) 身近にできるまちとのかかわりを促す仕組みを整える

身近なところからまちとかがわる、そんなきっかけづくりや取組を促すため、必要な仕組みを整えます。

市民であれば、住環境の改善・魅力アップ、花壇・公園・樹林地の維持管理など、身近な環境を良くする取組であったり、店主であれば自分たちの商店街の通り沿いを演出する取組であったり、まちとのかかわりを促すための仕組みをつくります。

- ・地域でまちとかがわるきっかけを促す仕組みを整えます
- ・市民・事業者が市内の良好な景観に着目し、発信するような取組（例：まちあるき、写真募集など）を支援する仕組みを整えます
- ・「市民活動団体支援制度」（愛称：マイサポいこま）など、広く市民・市民活動団体がまちづくりとかがわるための仕組みを整えます

(2) 技術的なアドバイスを行う仕組みを整える

市民・事業者が建築などを行うときの景観への配慮事項や配慮方法について、技術的なアドバイスを行える仕組みをつくります。

- ・届出のときの事前相談を通じて、景観アドバイザーが技術的なアドバイスを行う「景観まちづくり相談」などの取組を進めます
- ・建築士会などとも連携して、生駒の景観に配慮した建築物のあり方を考え、広めていくような人材の育成を支援する取組を進めます

5 景観に関するルールづくりを支援する

地域で景観に関するルールづくりが進むよう支援する仕組みを整えます。

(1) 地域の景観づくりを支援する

地域の良好な景観を守っていくためには、地域で目指すべき姿を共有し、その実現に向けて取り組んでいくことが大切です。そのための第一歩となる動きを支援したり、合意をつくっていくための支援を行います。

- ・自治会など、地域で自分たちのまちの景観を考える、はじめの一步を支援する仕組みを整えます
- ・地域での景観のルールづくりなどを行う上で、専門家を派遣するなどの学習の機会を支援する仕組みを整えます
- ・景観アドバイザーから技術的アドバイスを受けられる「景観まちづくり相談」などの取組を進めます

(2) 地域のルールを担保する

地域での話し合いに基づいて景観づくりのルールを設定した場合に、合意形成の熟度や地域住民のモチベーションに応じて担保する仕組みを用意します。

- ・建築協定、景観協定、緑地協定など、市民・事業者が自らルールを守り、運用していく仕組みや、景観形成地区、地区計画など、地域住民の合意に基づき行政が担保する仕組みなどを導入します

3. 景観を守り育てる規制誘導

現在の生駒らしい良好な景観を保全し育成していくため、各種の法制度を活用して規制を導入します。

1 景観の骨格を守る

生駒山系・矢田丘陵の山なみ、竜田川・富雄川などの川など、生駒の景観の骨格を構成している要素は「生駒らしい景観」として多くの人々が認識するものであり、引き続き保全に取り組んでいきます。また、景観の大きなまとまりとして「自然景観」「市街地景観」「田園景観」に区分し、それぞれの特徴を守るための最低限の規制を導入します。

(1) 自然景観を保全する

生駒山系・矢田丘陵の山なみや、竜田川・富雄川などの川が形づくる地形・流域は、生駒らしい景観の骨格として守るべきものであり、自然保全、自然公園、都市計画などの各種土地利用にかかわる法規制などを活用して保全に取り組みます。

- ・山麓部などの保全のため各種法規制を運用します（自然公園、自然環境保全地区、市街化調整区域、風致地区など）

(2) まとまりに応じて保全する

住宅地、商業地、田園集落地など、景観特性のまとまりのある範囲では、特性のまとまりを意識した景観づくりを考えることが大切です。それぞれの特徴を意識し、場所に沿った景観づくりのための規制を行います。

- ・景観計画に基づき、一定規模以上の行為について、地域の特徴に沿った景観づくりについて配慮を求めます
- ・景観に大きな影響を与える屋外広告物については、県が定める屋外広告物条例に基づき規制を運用します



2 地域特性に沿った景観づくりを進める

地域ごとの景観の特性をいかした生駒らしい魅力ある景観をつくっていくため、それぞれの特性に沿った景観形成を誘導していきます。景観上の特色をいかした良好な景観形成の推進に取り組む必要がある地域では重点的な景観づくりのための規制を導入します。また、地域住民や事業者の合意に基づくルールを法制度として担保します。

(1) 景観上の特色をいかした景観づくりを進める

駅周辺などを拠点として整備が進められている地域の景観や、それらをつなぐ幹線道路などの軸の景観は、計画や事業の中で景観が形づくられるものであり、景観を意識した計画や事業のあり方を考えていく必要があります。また、事業活動・商業活動が行われる場所でもあり、それらとの調和についても考えていく必要があります。

そのため、“パターン”を参照しながら、あらかじめ景観づくりを進める上で配慮すべき事項を定めるなど、目指すべき景観づくりの方向性を示します。また、これによって地域の特徴を発信したり、ブランドとして周知するなどの効果も狙います。

- ・駅周辺などの拠点、緑に囲まれた良好な住宅地、新たに開発される大規模な開発地区、河川や池などの水辺、歴史的・文化的遺産のある地区など、景観上特色があり、良好な景観を形成する必要がある地区を「景観配慮地区」に指定し、景観づくりの方針を定めます
- ・「景観配慮地区」においては、地区の景観づくりの考え方などを分かりやすく示したパンフレットなどを作成し、理解の醸成や周知を図ります

(2) 地区住民や事業者の合意に沿った景観づくりを進める

市民や事業者によって景観づくりの方向性が共有され、建築行為などに際して遵守すべきルールについて合意が形成されている場合、それらのルールを担保する仕組みを整えます。

地区住民や事業者同士が合意したルールを協定などの形で自ら運用していくことが望ましいですが、より積極的な担保を行う場合には、都市計画法や景観法に基づく仕組みも活用します。

- ・住民などが自ら合意して定めるルールを建築協定、景観協定、緑地協定など法令に基づく協定として認定します
- ・「景観配慮地区」の中で、関係住民などが合意した具体的な範囲において、景観に関するルールを定める地区を「景観形成地区」として指定します

4. 景観をつくる公共事業の実施

道路、公園、河川、公共建築物などの公共施設は、規模が大きく、長期間にわたって存在することから景観に対して与える影響が大きいものです。さらに、多くの人が利用し、目に触れる機会も多いことから景観を構成する要素として非常に重要なものです。このため、市は公共事業の主体として公共施設の整備事業を通じて先導的な景観形成を目指していきます。

1 市が取り組む公共事業の景観形成

公共事業は、良好な景観づくりを先導する役割を担う重要な要素であり、景観づくりの基本原則、“パターン”に則りながら、積極的にそれらを活用し、良好な景観づくりに貢献する整備を目指していくことが望まれます。

また、主要な施設整備が進展しており、今後は維持管理が中心となりますが、景観上も意識した維持管理を進め、景観の魅力の維持向上に努めていくことが必要です。

- ・行政内のほかの部局、あるいは国、県とも連携して、公共事業を実施するときに、“パターン”を使って、協議などを行う仕組みづくりに取り組みます
- ・公共事業の景観づくりにあたって配慮すべき事項をまとめたガイドラインの策定に取り組みます
- ・特に重要な公共施設については景観法に基づく景観重要公共施設としての位置付けや、景観協議会の設置を進めます

2 国や県が取り組む公共事業の景観形成

国や県が主体となる公共事業は、市が主体となる事業よりも規模が大きいものが多いことから、事業における景観形成についても市と同様の取組を求めています。

- ・“パターン”を使ったデザインの方法を働きかけます
- ・公共事業の景観づくりについてのガイドラインの遵守を働きかけます
- ・特に重要な公共施設については景観法に基づく景観重要公共施設としての位置付けや、景観協議会の設置を進めます

5. 景観施策の総合的な推進

景観は市民の暮らしや事業の営みが形となって表れたものであるため、様々な政策分野と関連があります。このため、景観施策のみならず、都市計画、市街地整備、都市基盤整備といった都市計画関連の施策や、環境関連施策、産業振興施策、文化振興といった生涯学習関連の施策、これらの施策にかかわる市民の活動を支援するなど関連する様々な施策と連携しながら、総合的に推進していくものとします。

- ・各種計画（総合計画、環境基本計画、緑の基本計画、フィールドミュージアム、都市計画マスタープラン、農業ビジョンなど）に定められた景観に関連する方針や施策との連携を考えながら、景観施策を推進します